西原遺跡

―小規模土地改良事業（西原地区農道整備工事）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2010

群馬県安中市教育委員会

西 原 遺 跡

―小規模土地改良事業（西原地区農道整備工事）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2010

群馬県安中市教育委員会

序

西原遺跡のある間仁田地区は碓氷川の南側、妙義山の麓に広がる平坦地が続く横野台地にあります。この横野台地はこんにゃくを中心とした畑作地帯であり、緑豊かな自然との共存した地域であります。

今回報告する西原遺跡は、安中市が計画する農道建設工事に先立ち発掘調査を実施しました。調査の結果、調査範囲が狭いにもかかわらず、縄文時代の住居跡などが多数発見されました。さらに土器や石器などの当時の生活道具が数多く出土し、この地域一帯に当時の拠点的なムラが存在することが明らかとなりました。

本報告が、学術分野に寄与するだけではなく、地域を学ぶ郷土資料として活用されることを願ってやみません。

最後に、過酷な気象条件の下で発掘調査に従事していただいた方々、調査にご協力いただいた地元の方々をはじめとする皆様には感謝申し上げる次第です。

平成22年11月

安中市教育委員会
教育長　中澤　四郎

例　　言

1　本書は安中市産業部農林課が計画した小規模土地改良事業（西原地区農道整備工事）に伴う西原遺跡（略称Ｇ－48）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　西原遺跡は安中市上間仁田字西原・日影地内に所在する。

3　確認調査については国庫補助金・県費補助金により、平成21年度に安中市教育委員会が実施し、本調査及び遺物整理は安中市の負担により、平成21・22年度に安中市教育委員会が直営で実施した。

4　確認調査は、安中市教育委員会学習の森文化財係主査（文化財保護主事）井上慎也が担当した。発掘調査は、井上が担当し、主査（文化財保護主事）深町　真が補佐した。資料整理は井上が担当した。

5　確認調査は平成21年６月15日と16日に実施した。発掘調査は平成21年７月15日から９月７日まで実施した。資料整理は調査終了後より平成22年３月30日までの間、断続的に実施した。報告書編集作成は、資料整理と平行して平成22年度に実施した。

6　本書の編集・執筆は、井上が行った。遺構図及びデータ整理は、大月圭子、菅生陽子、田島幹子、有阪啓子が行った。遺物整理は、井上、田川真知、染谷綾子、萩原静夫が行った。遺物実測及び観察表作成は、（有）毛野考古学研究所（土器）、（株）アルカ（剥片石器）に一部委託し、他を井上、田川、染谷、田島、有阪が行った。写真整理は、染谷が行った。報告書デジタル編集は、菅生、大月が行った。

7　遺構の写真撮影は、深町、井上が行った。航空写真撮影及び遺構実測用デジタル撮影は、（株）測研に委託した。遺構実測用写真は（株）大成測量に委託した。遺物の写真撮影は井上、萩原が行った。

8　グリッドの設置、調査区平面図作成等は、よしだに委託した。

9　発掘調査の記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。

10　発掘調査及び遺物整理の期間中、次の方々にご指導、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します（敬称略・順不同）。

山口逸弘　日沖剛史　角張淳一　伊藤順一　藤波啓容　高橋　哲

11　調査組織（平成21・22年度）

教育長　　中澤四郎

教育部長　本多英夫

学習の森所長（参事）小島成公（平成22年３月退職）

学習の森所長（課長）神宮裕子

文化財係長（課長補佐）藤巻正勝（事務総括）

主査　蜂須賀まゆみ（経理担当）　　主査（文化財保護主事）深町　真（発掘調査担当）

主査（文化財保護主事）壁　伸明　　主査（文化財保護主事）井上慎也（発掘調査・整理担当）

主査（文化財保護主事）千田茂雄（平成22年３月転出）

主事　小此木　克之

主事補　菅原　龍彦（平成22年４月採用）

調査参加者（発掘調査・遺物整理）

有阪啓子　大月圭子　菅生陽子　染谷綾子　染谷孔明　田川真知　多胡　静　田島せい子　田島幹子

田村信子　遠間宰吉　萩原静夫　半田あい　町田千明　宮口知三　村椿　健　湯本優志

凡　例

1　遺構の実測図は1/80を基本としたが、遺構の大きさにより1/40、1/160とした。

2　遺構図中の北マークは磁北である。なお、座標は世界測地系を使用した。

3　本文中で使用した地図は国土地理院発行の２万５千分の１地形図「富岡」、安中市都市計画図（1/2500）である。

4　遺物実測図の縮尺は次のとおりである。

土器：１／４　石器：２／３（小形）、１／２（小・中形）、１／４（中・大形）

土製品：１／２

5　土層説明中での記号、略称は次のとおりである。

土層名称及び量の基準：「新版標土色帖」による。

色調＜：より明るい方向を示す（暗＜明）

しまり、粘性　◎：あり　○：ややあり　△：あまりない　×：なし

混入物の量　◎:大量（30～50％）　○:多量（15～25％）　△:少量（５～10％）　※:若干（１～３％）

混入物　RP：ローム粒子（溶け込んだ状態）　RB：ロームブロック（固まりの状態）　YP：板鼻黄色軽石

6　ピットの深さ

○ 0～19cm　⊙ 20～39cm　◍ 40～59cm　⊞ 60cm以上

7　遺物重量分布及び遺物分布図マーク

土器

	10g	100g	1000g
	•	●	●
縄文	○	○	○
無文	▲	▲	▲
不明	△	△	△
底部	□	□	□

石器

	1個	5個	10個
石器A類	■	■	■
石核A類・FLA類	●	●	●
石器B類	△	△	△
FLB類	○	○	○
石器C１類	＋	＋	＋
石器C2類	□	□	□

	1個	5個	10個
石器D類	×	×	×
FLD類	⊙	⊙	⊙
石器E類	▽	▽	▽
FLE類	◬	◬	◬
石器F類（軽石）	⊕	⊕	⊕

礫

	1個	10個
	○	○

8　縄文時代の器種及び石材は、安中市の分類基準を用いた。

種別	器種	形態	分類基準・特徴
A類	石槍		
	石鏃	Ⅰ	凹基無茎
		Ⅱ	平基無茎
	石錐	Ⅰa	摘み無し・小形
		Ⅱa	摘み有り・小形
		Ⅱb	摘み有り・大形
		Ⅱc	先端部作出・大形
	石匙A類	Ⅰa	縦形・押圧剥離による精緻な調整
		Ⅱa	横形・押圧剥離による精緻な調整
	スクレイパーA類	Ⅰa	押圧剥離による精緻な調整
		Ⅰb	押圧剥離と直接打撃による調整
		Ⅱ	直接打撃による粗雑な調整
		Ⅲ	縁辺微細剥離（一辺の１／２以上）
	リタッチドフレイクA類		縁辺微細剥離（一辺の１／２以下）
	楔形石器		両極技法により両端部が潰れている
B類	打製石斧	Ⅰ	撥形・急角度調整・断面蒲鉾形・片刃（細部の違いによりさらにａ～ｈ形態に細分）
		Ⅱ	撥形～短冊形・両面調整・断面レンズ状・両刃（細部の違いによりさらにｉ～ｑ形態に細分）
	スクレイパーB類	Ⅰa	押圧剥離を主体とした精緻な調整
		Ⅰb	粗雑な押圧剥離と細かい直接打撃による調整
		Ⅱ	直接打撃による調整
		Ⅲ	縁辺微細剥離（一辺の１／２以上）
	石匙B類	Ⅰa	縦形・押圧剥離と直接打撃を併用した調整
		Ⅱa	横形・押圧剥離と直接打撃を併用した調整
		Ⅱb	横形・大形で直接打撃による調整
	リタッチドフレイクB類		縁辺微細剥離（一辺の１／２以下）
C１類	磨石	Ⅰ	円形
		Ⅱ	楕円形
		Ⅲ	棒状
		Ⅳ	四角形
		Ⅴ	不定形
	球石		
	石皿	Ⅰa	円形・作業面は凹面
		Ⅰb	円形・作業面は平面
		Ⅱa	楕円形・作業面は凹面
		Ⅱb	楕円形・作業面は平坦
		Ⅲb	不定形・作業面は平坦

種別	器種	形態	分類基準・特徴
C１類	凹石	Ⅰa	円形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅰb	円形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅰc	円形・凹のみ
		Ⅱa	楕円形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅱb	楕円形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅱc	楕円形・凹のみ
		Ⅲa	棒状・切り合い関係は磨→凹
		Ⅲb	棒状・切り合い関係は凹→磨
		Ⅲc	棒状・凹のみ
		Ⅳa	四角形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅳb	四角形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅴa	不定形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅴb	不定形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅴc	不定形・凹のみ
C２類	台石		
	敲石	Ⅰ	円形
		Ⅱ	楕円形
		Ⅲ	棒状
		Ⅳ	四角形
		Ⅴ	不定形
	砥石	Ⅰ	荒砥
		Ⅱ	中砥
		Ⅲ	仕上砥
D類	石棒		加工痕有り
	棒状礫		加工痕無し
	多孔石		凹有り
	丸石		凹無し
E類	磨製石斧	Ⅰa	小形・断面楕円形
		Ⅰb	小形・定角式
		Ⅱa	中形・断面楕円形
		Ⅱb	中形・定角式
		Ⅲa	大形・断面楕円形
		Ⅲb	大形・定角式

目　次

序
例言
凡例
目次

Ⅰ　調査の経過と方法 …… 1
1　調査に至る経緯 …… 1
2　調査の方法と経過 …… 1
Ⅱ　遺跡の地理的・歴史的環境 …… 3
1　地理的環境 …… 3
2　歴史的環境 …… 3
3　西原遺跡周辺での調査概要 …… 6
4　層序 …… 6
Ⅲ　検出された遺構と遺物 …… 7
1　遺跡の概要 …… 7
2　縄文時代の遺構と遺物 …… 7
3　古代以降の遺構 …… 45
Ⅳ　成果と問題点 …… 46
1　縄文時代の遺構について …… 46
2　縄文時代の遺物について …… 47

遺物観察表
写真図版１～14
抄録

付図　西原遺跡全体図

Ⅰ　調査の経過と方法

1　調査に至る経緯

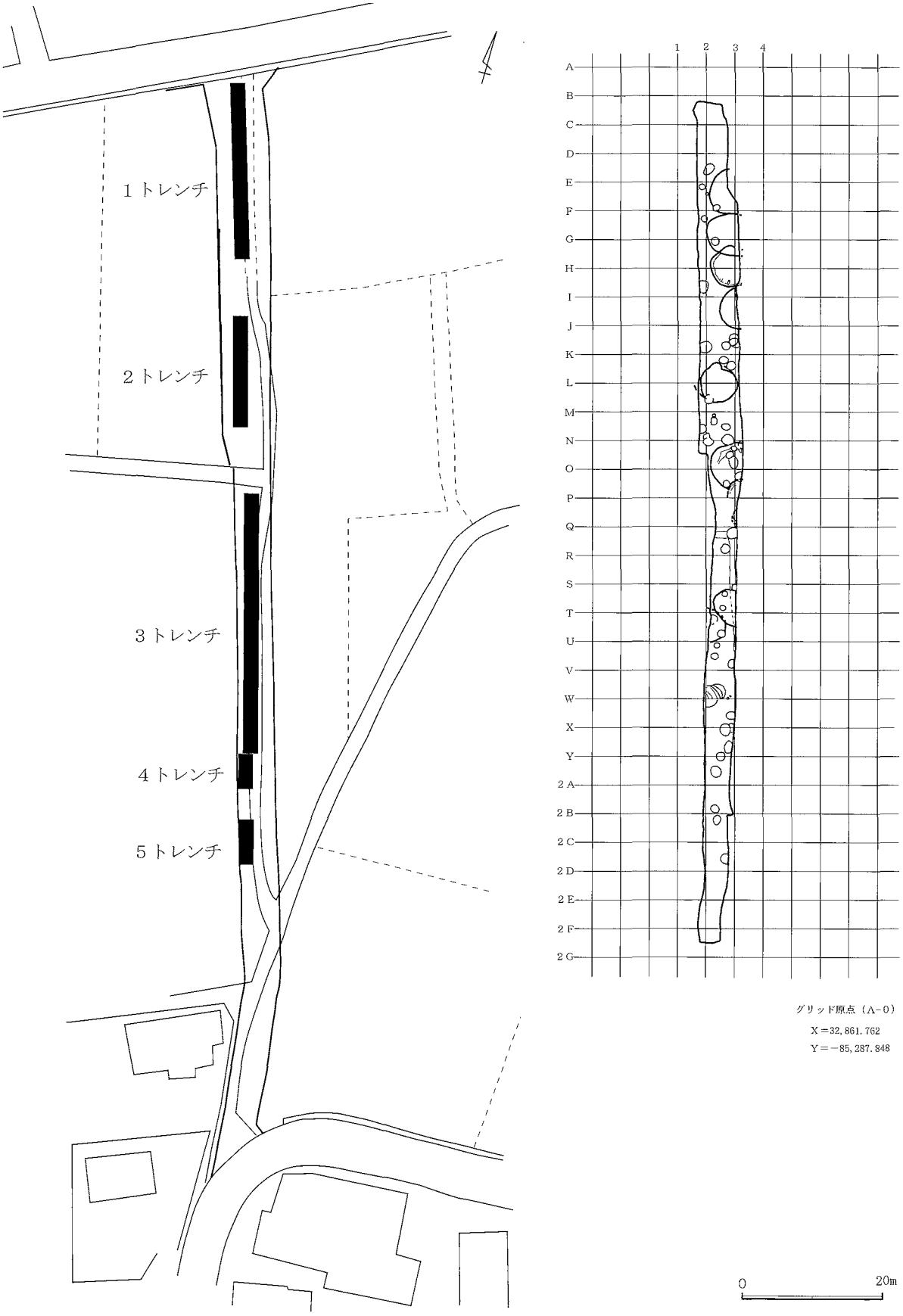
平成20年10月31日、安中市産業部農林課から、上間仁田地区で予定している小規模土地改良事業（西原地区農道整備工事）に係わる埋蔵文化財の状況について照会があった。同年11月11日、該当場所は周知の埋蔵文化財包蔵地内（市№456）にあり、開発については当教育委員会と協議が必要であることを意見書を通じて回答した。市産業部と協議した結果、予定地域の工事に先立ち、埋蔵文化財の状況を把握するための確認調査を実施することになった。平成21年６月８日、市産業部から市教育委員会へ確認調査の依頼、必要書類（法94条第１項通知書、添付書類）が提出された。同年６月15・16日に確認調査を実施し、工事予定地内で縄文時代中期を中心とする遺構、遺物包含層が存在することが判明したため、市産業部側とその取り扱いについて再度協議することになった。同年６月17日、市産業部と協議を行ったが、計画の変更は困難な状況であることから、工事に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになった。同年６月19日付けで、群馬県教育委員会から市産業部宛に発掘調査の実施勧告があった。同年６月24日、市産業部からの発掘調査の依頼を受け、市教育委員会の直営で本調査を７月以降に開始することになった。

2　調査の方法と経過

発掘調査は、まず、確認調査によって本調査対象範囲を確定し、道路中心杭及び境界を基準としたグリッドを設定した。グリッドは、４m四方を基準とし、南北にアルファベット（大文字）、東西にアラビア数字を組み合わせて呼称し、杭の位置を国家座標へ取り付けた。さらに４mグリッドは、４分割し、千鳥式にアルファベット（小文字）をつけた。発掘調査の方法は、バックホーにより遺構確認面（Ⅲ層下部）まで表土を掘削し、ジョレンを使用して人力で遺構確認を行い、遺構の精査を行った。住居址の調査は、分層16分割法で行った。精査した遺構については、写真撮影、測量（土層及び平面）を行った。遺構測量は、空中撮影により１/40で作成し、遺構の高さを記録した。土層断面図及び微細図は、ビニール転写法により原寸大で作成した。出土した遺物は、層位及び区毎に取り上げて記録した。遺跡の全景写真は、ラジコンヘリコプターを使用して撮影した。

確認調査は、農道工事予定面積1,000㎡を対象に平成21年６月15日と16日に実施した。工事区域内に幅２mのトレンチを５本設定し、遺構、遺物の検出状況を確認しながら、Ⅳ層上面までバックホーを使用して掘削を行った。調査の結果、道路予定地のほぼ全域で縄文時代中期を中心とする遺構と同時期の遺物包含層が確認され、工事区域に集落が存在することが明らかとなった。そのため、発掘調査は、撹乱による調査不能部分を除き工事予定地全域を対象とすることになった。

本調査は同年７月15日から９月７日まで実施した。調査地周辺では、農作物の耕作を行っていた関係で耕作用道路の確保が必要となったため、中央部分を残して南北の調査区を設定した。７月下旬からバックホーによる表土掘削をⅢ層下部まで行い、表土については、ダンプトラックで工区外へ搬出した。発掘調査は、表土掘削と平行して北調査区から開始し、遺物包含層の精査を人力で行った後、グリッド



第１図　調査区・グリッド設定図

を設定して遺物を取り上げた。包含層精査が終了した部分から、再度遺構確認を実施し、発見された遺構（住居址、土坑など）の精査を行った。８月上旬に北調査区を終了させ、引き続き南調査区の調査を同様な手順で実施した。８月中旬に一時調査を中断し、８月下旬から、全体精査を行って遺跡の全景撮影及び遺構測量用デジタル撮影を実施した。９月上旬には、遺構測量と未調査部分を含む補足調査を実施し、その後資材等の片付けを行い、９月11日をもって現地調査を終了した。９月７日付で埋蔵物の発見届及び保管証を安中警察署へ提出した。

資料整理は、発掘調査終了後、平成21年９月から平成22年３月までの間、断続的に実施し、遺物の洗浄・注記・接合・分類及び遺物台帳作成等の遺物整理、図面の修正・整理、各種台帳の整理、写真整理を中心に行った。報告書作成及び編集は、一部資料整理と並行して実施し、パソコン等のデジタル機器を使用して、図面トレース、データ集計、遺物実測・トレース等を行った。遺物実測・トレースの一部については、(有)毛野考古学研究所（縄文土器）、(株)アルカ（石器）に委託した。

平成22年度は、デジタルカメラによる遺物写真撮影、写真図版作成、本文執筆、デジタル機器を使用した編集作業を行った。

Ⅱ　遺跡の地理的・歴史的環境

1　地理的環境

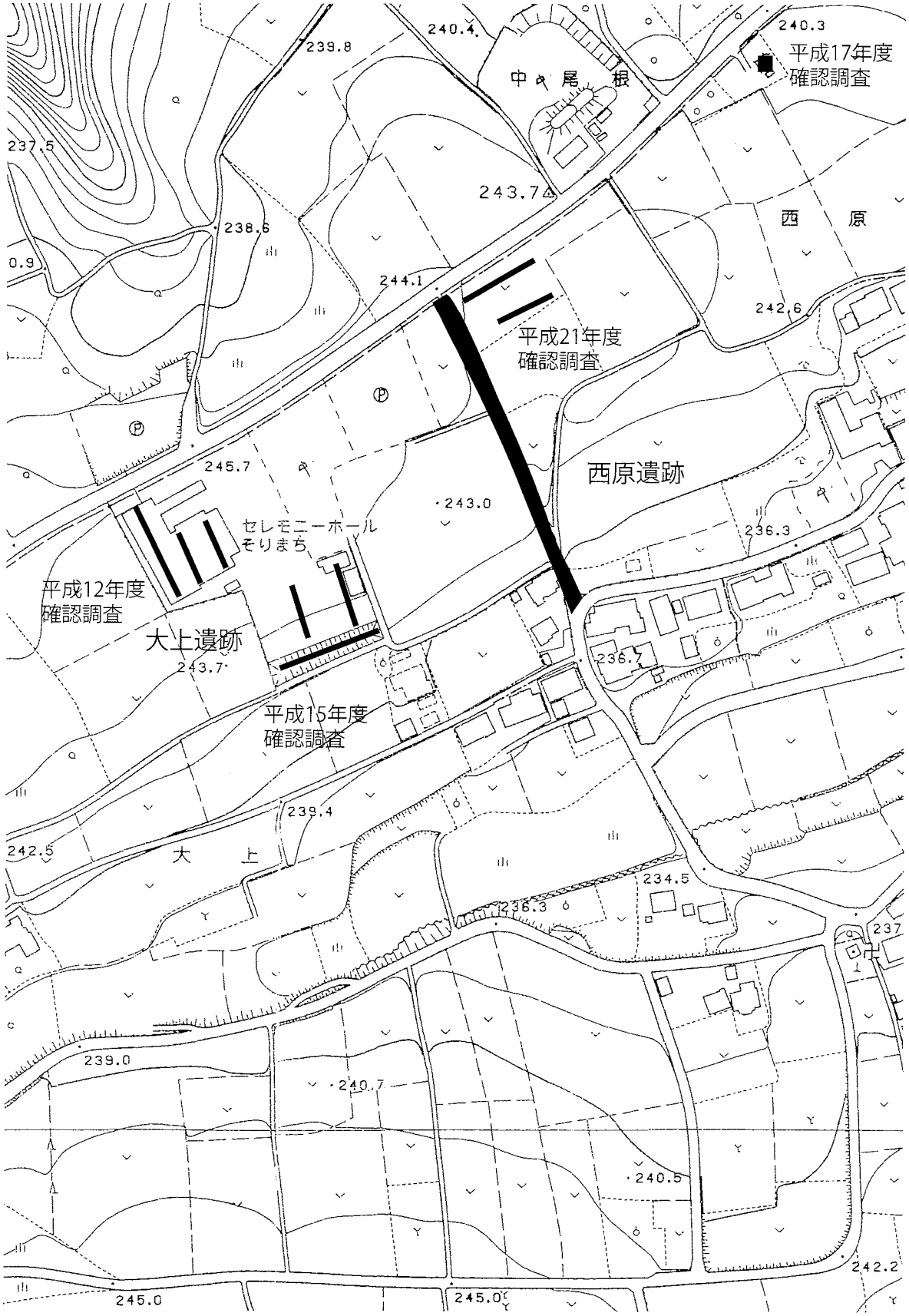
安中市は関東平野の周縁部である群馬県西部（西毛地域）に位置する。市の西部から北部にかけては山地が広がる。碓氷峠付近を水源とする碓氷川が西から東へ流れ、市域を南北に分断する。また、碓氷川の北側には並行して九十九川が流れ、安中市東部で碓氷川に合流する。これらの河川流域には、河岸段丘が発達し、下位段丘（磯部、人見地区）、中位段丘（安中・原市地区）、上位段丘（横野地区）が存在する。

本遺跡は、安中市南部、碓氷川と高田川に挟まれた上位段丘面の天神川の源流部に面した緩やかな南斜面に存在する。この台地は「横野台地」とも呼ばれ、東西に延びる幾筋もの細長い平坦な台地が形成された場所で、その低地部分には湧水点も存在し、天神川、猫沢川等の小河川が流れる。台地の南北両端は、急峻な崖となっており、北側の碓氷川右岸には柳瀬川が流れる。遺跡の標高は241.5～244.0mである。

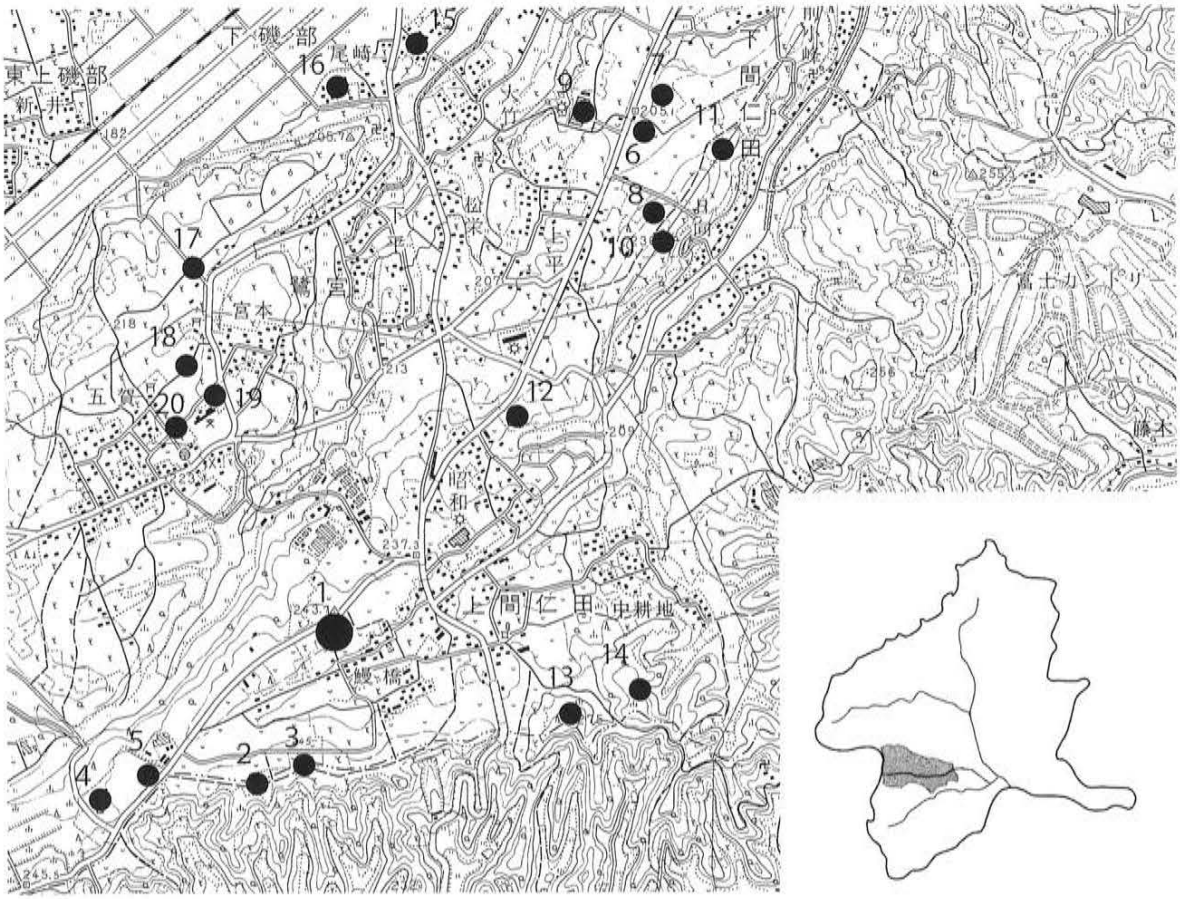
2　歴史的環境

上間仁田地区が所在する横野台地には、発掘調査によって多数の遺跡が発見されている。西原遺跡一帯は、市№456として登録され、縄文時代から古代の遺物散布地として周知されている。同じ散布地には、大上遺跡が含まれる。

本遺跡の周辺では、民間開発による確認調査で縄文時代中後期を中心とする遺構、遺物が検出されている（第３節参照）。また、西原遺跡の南に位置する大上原地区遺跡群では、大上遺跡で縄文時代中期後半、弥生時代中期前半の集落跡、日影遺跡では、古代の区画溝が発見されている。さらに、本遺跡の



第２図　調査位置図（1/2500）



	遺跡名	旧	縄文					弥生		古墳				奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前	中	後	終					
1	西原				○	◎	△									△		本報告
2	大上					○			◎						△			弥生中期集落
3	日影														△			区画溝
4	注連引原				◎			△	◎									初期弥生集落
5	注連引原Ⅱ	*			◎	*	△	△	◎	△	◎				○	△		古代牧関連遺構（溝）
6	蔵畑											◎	◎					大溝
7	下原・寳神									◎	○	○	◎					
8	蔵畑Ⅱ												○		◎			墨書土器
9	諏訪ノ木									◎		○	◎					弥生～古墳集落
10	日向後原										◎				○			方形周溝墓
11	野毛良										*		○	○	○	○		
12	道前久保・同Ⅱ				◎	◎	◎								◎	◎		
13	経塚古墳											◎						円墳・石製模造品
14	天王山城															◎		山城（砦）
15	座光寺館址															◎		居館
16	尾崎館址															◎		居館
17	荒神平・吹上				△	◎	○			◎	◎	○	◎		◎	◎		弥生～古墳集落
18	上ノ久保					◎	○			◎			◎		◎	◎	○	中世和鏡
19	桜林														◎			
20	五ケ														◎			

◎：大規模な遺跡（集落跡・古墳等）　○：中規模な遺跡（住居址・牧関連等）
△：小規模な遺跡（土坑・溝等）　＊：遺物が出土した遺跡

第３図　遺跡分布図（国土地理院「富岡」1/25000）

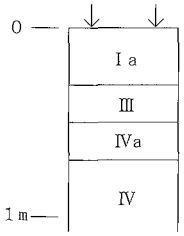
西に位置する注連引原遺跡群では、縄文時代から弥生時代の集落跡と古代の牧関連遺構（区画溝等）が発見されている。西原遺跡が存在する猫沢川右岸の横野台地上には、縄文時代前期の集落（大下原遺跡、注連引原遺跡群、道前久保遺跡）、弥生時代前期から中期の集落（注連引原遺跡群、大上遺跡）と後期の集落（諏訪ノ木遺跡等）、古墳時代の集落（蔵畑遺跡、諏訪ノ木遺跡、下原・賽神遺跡）及び中期古墳（経塚古墳）、古代（平安）の集落（蔵畑Ⅱ遺跡、下原・賽神遺跡、道前久保遺跡）、中世の城館跡（天王山の砦）が存在する。

3　西原遺跡周辺での調査概要

西原遺跡周辺では、過去に４回の確認調査が実施されている。平成12年度と平成16年度には、民間枚発により、西原遺跡の西側に位置する大上遺跡において、確認調査を実施し、縄文時代中後期の遺物包含層と住居址などの遺構が検出された。平成17年度には、携帯電話鉄塔建設に伴い確認調査を行ったが、遺構、遺物は検出されなかった。平成21年度には、民間開発を原因として今回の発掘調査終了後、調査区東側で確認調査を実施した。調査の結果、縄文時代中後期の遺物包含層を確認したが、遺構は確認できなかった。これらの確認調査から、縄文時代において大上遺跡と西原遺跡は、同一集落であったと考えられ、南北120m以上、東西250m以上の範囲に及ぶものと推定される。

4　層序

西原遺跡の土層堆積は、横野台地一帯でみられる状況と変わりないことを確認した。浅間Ａ軽石（As-A：1783年）を含むＩａ層が約20～30㎝の厚さで堆積し、耕作等の攪乱によって浅間Ｂ軽石（As-B：1108年）を含むⅡａ層は、Ｉａ層と混在するところが多くみられ、純層を確認することはできなかった。また、浅間Ａ軽石あるいはＢ軽石についても、純層は確認できなかった。Ⅲ層は、約20㎝の厚さで堆積し、縄文時代の遺物の包含がみられた。Ⅳ層は、上部にⅢ層との漸位層であるⅣａ層（やや淡色系の土層）が調査区全域で確認し、この層中から縄文時代中期の遺物が大量に出土し、遺構は、Ⅳａ層を除去した層理面で掘り込みを確認した。また、中期の遺構は、Ⅳａ層で覆われていることも確認した。住居址の床面は、ロームが硬化したⅤ層上面とするものが多く、柱穴、土坑等は、Ⅵ層（Ａｓ－ＹＰ層）の株間で及ぶものもみられた。なお、調査区内の畑地部分では、耕作による攪乱が著しく、遺構及び遺物包含層への影響が見られた部分も認められた。



層名	色調	しまり	粘性	混合物					備考
				ＲＰ	ＲＢ	ＹＰ	As-A	As-B	
Ⅰa　黒褐色土層		△	△				○		耕作土
Ⅰb　灰白色軽石層	Ⅰa＜Ⅰb	×	×				◎		Ａ純層
Ⅱa　黒色土層	Ⅰb＞Ⅱa	△	△					○	
Ⅱb　灰褐色軽石層	Ⅱa＜Ⅱb	×	×					◎	Ｂ純層
Ⅲ　黒色土層	Ⅱb＞Ⅲ	△	○						
Ⅳ　暗褐色土層	Ⅳa＞Ⅳ	○	○	※					上部にⅣa
Ⅴ　暗黄褐色土層	Ⅳ＜Ⅴ	◎	◎	◎	◎				上部にｽﾘｯｺ
Ⅵ　黄色軽石層	Ⅴ＜Ⅵ	×	×			◎			ＹＰ純層

第４図　土層断面模式図

Ⅲ　検出された遺構と遺物

1　遺跡の概要

今回の発掘調査では、住居址10軒（縄文前期前半１軒・中期後半９軒）、土坑45基（縄文中期主体）、埋設土器３基（縄文中期後半）、溝２条（古代～中世）を発見した。調査区が狭く、細長いトレンチ状であるため、完掘された遺構は少なかった。遺構は、縄文時代中期を主体としており、住居址は、調査区中央のやや北側、土坑は、調査区全体で検出され、遺構の重複例が多数みられた。調査区南側の斜面部及び北側では、遺構の密度が低かった。今回の調査地点は、遺跡の中心部に相当し、調査区外において遺構が広がっているものと推定される。

主な出土遺物は、縄文土器（前期前半の関山Ⅱ式、中期前半の勝坂３式、中期後半の加曽利Ｅ１～Ｅ３式、加曽利Ｅ４式及び後期初頭の称名寺１式）、石器（石鏃、石錐、楔形石器、スクレイパー、打製石斧、磨石、凹石、石皿、砥石、敲石、台石、多孔石、棒状礫、磨製石斧）である。遺物の主体は、中期後半を主体とする。

2　縄文時代の遺構と遺物

（1）遺構（第６図～第15図・第１表～第３表）

住居址（第６図～第13図・第１表）

調査区北側を中心に10軒（前期前半１軒、中期後半９軒）検出された。発掘調査では、９軒の検出であったが、その後の資料整理によってＪ－５号住居址を、前期前半（Ｊ－10号住居址）と中期後半の２軒に区別した。また、Ｊ－９号住居址は、Ｔ－１号遺構、Ｓ－１号集石のことで、補足調査で判明した遺構である。Ｊ－４号住居址では、覆土中の土器が調査区外へ続いていたため、拡張はせず、位置のみを記録し、遺物の全てを取り上げた。

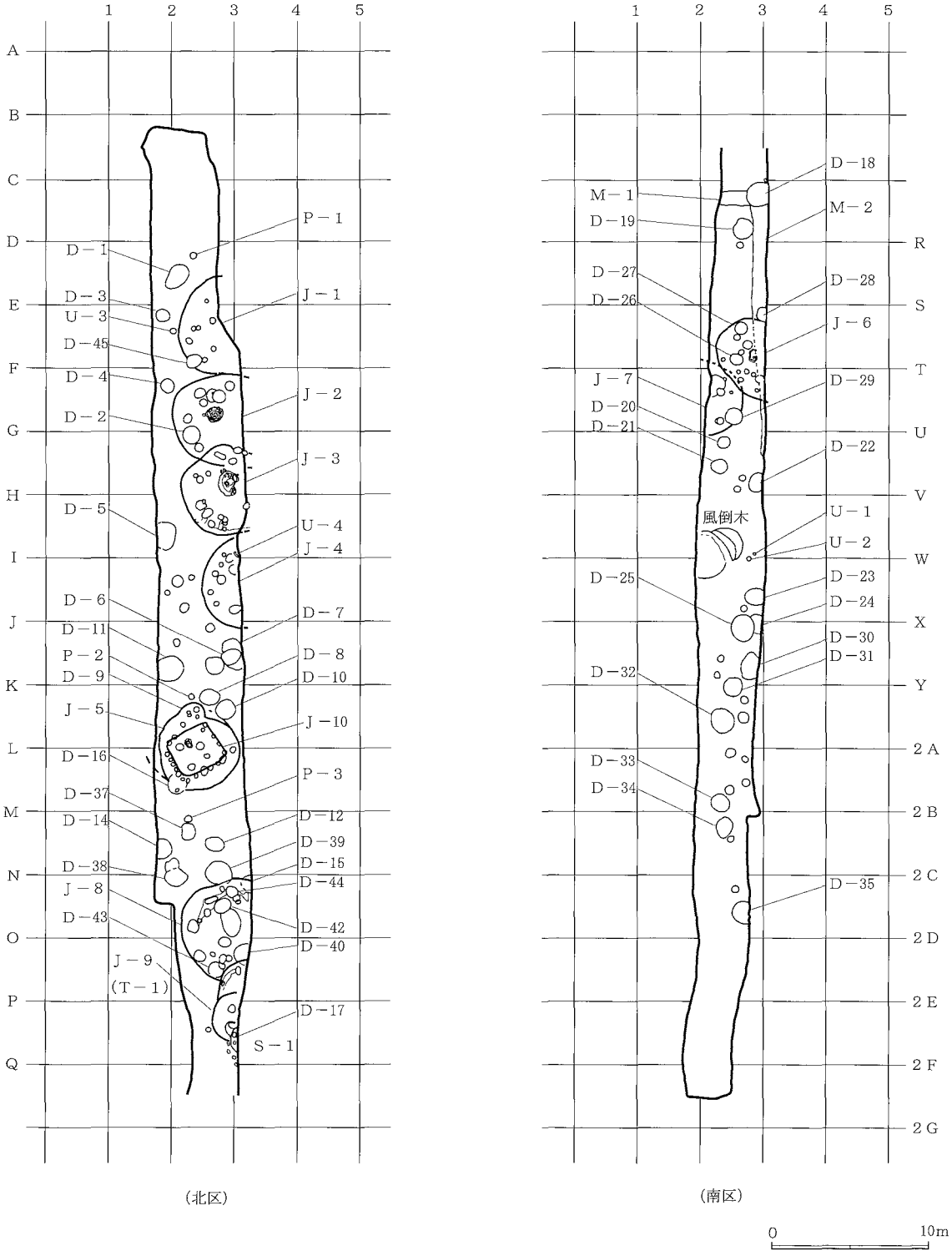
前期前半の住居址

Ｊ－10号住居址のみが相当する。平面方形で、壁際には、小穴が多数並ぶ。主柱穴は、４本と推定される。床中央には、炉址（石囲炉）が存在する。この住居址は、中期後半の住居址によって壊されていたため、出土遺物は非常に少ない。出土遺物により、関山Ⅱ式期である。

中期後半の住居址

加曽利Ｅ１～Ｅ２式期３軒、同Ｅ２式期１軒、同Ｅ３式期３軒、中期のうち時期不明３軒の９軒検出された。主体は、加曽利Ｅ式期であるが、Ｊ－７号住居址は、中期前半（勝坂式期）の可能性がある。

調査区は狭小であったが、北側を中心として住居址の重複は著しく、同時期での切り合いも確認できた。住居址の構造は、平面円形と推定され、掘り込みが深さにより二つのタイプが認められた。掘り込みが深いものは、主柱穴が４～６本で床面には炉址が存在するといった一般的構造である。炉址は、石囲炉　覆土は自然堆積により埋没している。遺物は、覆土中から、廃棄されたものが多い。遺物は、覆


1
2
3
4
5
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
P－1
D－1
D－3
U－3
D－45
D－4
D－2
J－1
J－2
J－3
D－5
U－4
J－4
D－6
D－11
P－2
D－9
J－5
D－7
D－8
D－10
J－10
D－16
P－3
D－37
D－14
D－12
D－39
D－15
D－38
D－44
J－8
D－43
D－42
D－40
J－9
(T－1)
D－17
S－1
(北区)
D－18
M－1
M－2
D－19
R
D－27
D－28
D－26
S
J－6
T
J－7
D－29
D－20
D－21
U
D－22
V
風倒木
U－1
U－2
W
D－25
D－23
D－24
X
D－30
D－31
D－32
Y
2 A
D－33
D－34
2 B
2 C
D－35
2 D
2 E
2 F
2 G
(南区)
0
10m

第５図　遺構配置図

土中から土器、石器類が大量に出土した。この構造の住居址はＪ－２、３、５、６、８号住居址である。掘り込みが浅いものは、主柱穴が認められないまたは不規則に並ぶものである。炉が無いものが多い。遺物は埋没途中で大量に廃棄されているおり、住居との時期差が認められる。

埋設土器（第13図）

３基検出した。土器は、すべて加曽利Ｅ３式期である。Ｕ－１とＵ－２は平行して検出されたが、Ｕ－２が新しい。掘り方は土器の大きさに合わせた深さで、土坑状にして外側を埋め戻している。土器内部の覆土には、焼土等の混入物は検出できなかった。

土坑（第14図・第15図・第２表・第３表）

縄文時代の土坑は、遺物が出土したものを中心に37基確認した。遺物が出土しない土坑の一部（断面が皿状となるもの）には、根痕の可能性もある。土坑の形態は、平面円形、断面皿状あるいは碗状が最も多く、断面逆台形または袋状となるものは少ない。

Ｄ－１号土坑は、平面楕円形で、中央部に大形深鉢１個体（ほぼ完形）、その周辺で中形深鉢２個体が出土した。Ｄ－26、28、32号土坑は、断面袋状で深いのが特徴である。土坑からは、土器の破片が出土するものが多く、完形品となるものは少ない。石器は、打製石斧、凹石・磨石が、多数を占めることから、土坑の性格を反映しているものと思われる。また、剥片類（主に黒曜石、頁岩等）の多さも目立つ。Ｄ－27号土坑では、覆土上部に大形礫が置かれ、その下には、深鉢が置かれていた。Ｄ－32号土坑では、多数の遺物の中に礫（小・中）が多く含まれていた。土坑出土の礫には、被熱は認められなかった。

土坑の時期は、出土遺物により、中期前半１基（Ｄ－１）、後期初頭１基（Ｄ－32）以外は、中期後半（加曽利Ｅ１～３式期）が主体である。

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	主柱穴	炉址		出入口	時期	所見
		長軸	短軸	深さ				位置	構造			
Ｊ－1	円形	〈6.1〉	－	0.36	×	不明	不規則	不明	－	不明	加曽利E1～E2	掘り込みが浅いタイプ。北側に石皿片出土。
Ｊ－2	円形	5.7	(5.6)	0.4	×	N-29°-w	6	中央	石囲＋埋設土器	南東	加曽利E3	遺物の大量廃棄。
Ｊ－3	円形	5.8	(5.6)	0.44	全周	N-2°-W	6	中央	石囲（抜取）	北	加曽利E2	入口施設（ピットと溝）
Ｊ－4	円形	(5.8)	－	0.36	×	不明	4～6	不明	－	不明	加曽利E3	遺物の大量廃棄。「郷土式」土器出土（3区）
Ｊ－5	円形	(5.2)	－	0.24	×	不明	不明	不明	－	不明	中期後半	Ｊ－10号住と重複。
Ｊ－6	楕円形	(4.9)	(4.6)	0.2	×	N-15°-W	4	中央	石囲	南東	加曽利E1～E2	
Ｊ－7	円形	〈4.6〉	－	0.16	×	不明	2以上	不明	－	不明	中期前半	
Ｊ－8	円形	6.2	(6.4)	0.2	部分	N-48°-W	6	中央	石囲（抜取）	南東	加曽利E3	１回拡張（主柱穴２回）。遺物の大量廃棄。
Ｊ－9	円形	〈6.2〉	－	0.35	部分	不明	不明	不明	－	不明	中期後半	部分的確認。
Ｊ－10	長方形	4.2	3.5	0.4	×	N-53°-W	4+壁柱列	中央	石囲	南東	関山Ⅱ	主柱穴４本のうち、１本を検出できず。壁際に小ピット列（補助柱）。中期は、１、２層、前期は３、４層

注　規模：部分的検出の場合は、長軸のみで残存値とした。主軸：炉の向きを基準とした。　　（　）は推定　〈　〉は残存値

第１表　住居址観察表

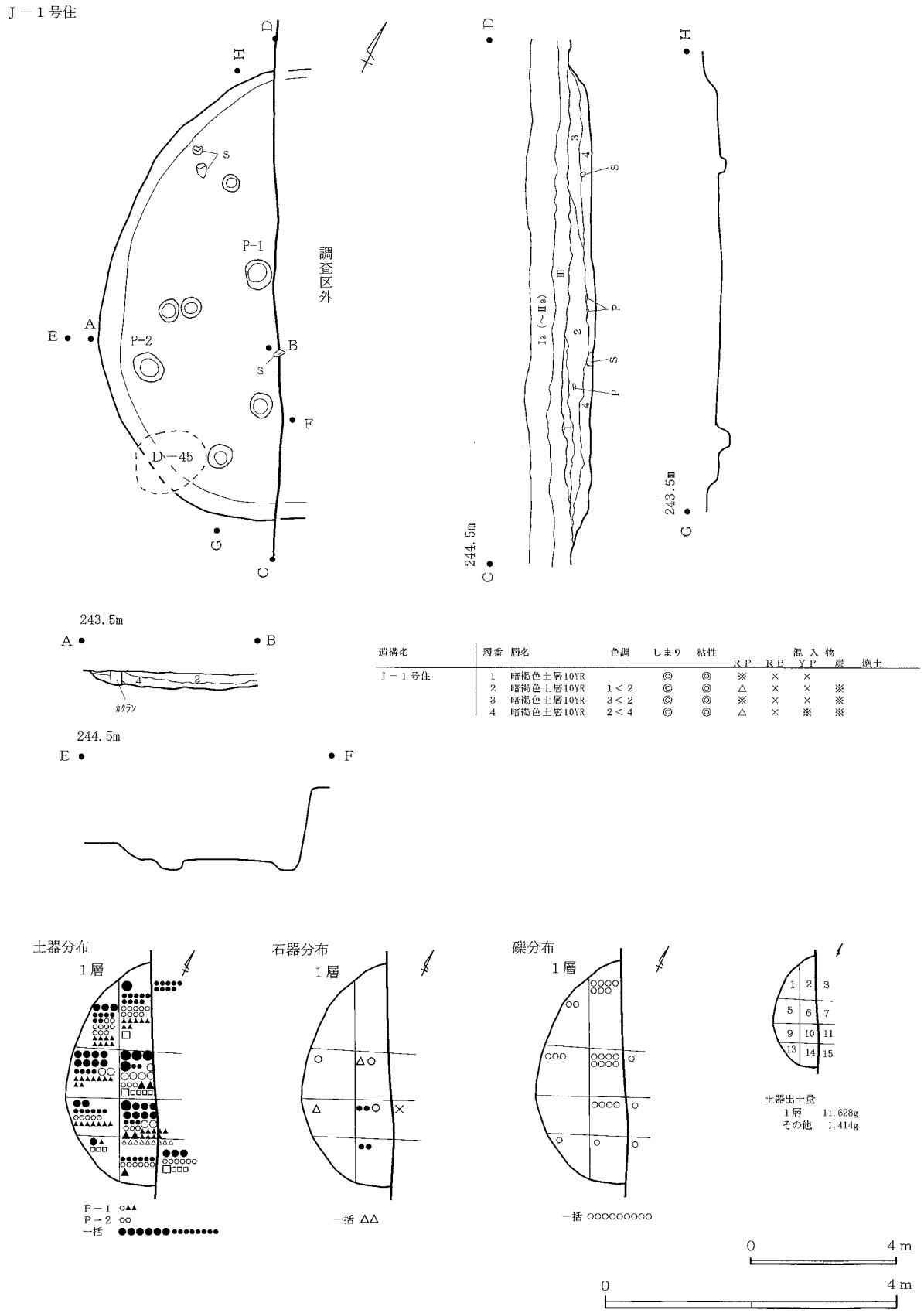
（単位：cm）

番号	規模（上）		規模（下）		深さ	平面	断面	土器重量	石器	礫	時期	備考
	NS	WE	NS	WE								
D－1	171	109	59	66	51	B	2	○	FlA3　打斧1　磨石1		中期前半	土器3個体
D－2	110	110	87	92	54	A	1	※	石皿1		中期後半	
D－3	79	54	57	59	30	A	2	△			中期後半	
D－4	86	90	67	78	18	A	2	※	磨石1		中期後半	
D－5	178	〈93〉	52	〈46〉	25	B	2	※	FlA1　打斧1　砥石1 石皿1　敲石1	小2	中期後半	
D－6	114	120	72	91	31	A	2	※			中期後半	
D－7	125	91	102	61	30	B	2	※			中期後半	
D－8	130	102	89	65	35	B	2	※	FlA1		中期後半	
D－9	108	163	62	120	39	B	2	※	FlA1	小1　中2	中期後半	
D－10	126	123	87	92	27	A	2	※			中期後半	
D－11	155	〈137〉	115	〈120〉	18	A	2	※		中1	中期後半	
D－12	87	126	69	96	19	B	2	△	FLB2		中期後半	
D－13												欠番
D－14	124	〈72〉	91	〈53〉	22	A	1	※			中期後半	
D－15	96	〈47〉	82	〈42〉		A	1	※			古代	浅間Ｂ軽石
D－16	(129)	(117)	(80)	73	49	A	2	※	FLA6　磨石1　打斧1		中期後半	
D－17												欠番
D－18	76	〈62〉	54	〈47〉	40？	C	2				古代	溝と重複
D－19	133	118	96	97	52	A	1	△	FLB1		中期後半	
D－20	78	75	49	48	13	A	2	※			中期後半	
D－21	85	105	73	92	13	B	1	※			中期後半	
D－22	120	〈82〉	92	〈70〉	15	B	1	△	打斧2　凹石1　磨石1	小2　中1	中期後半	
D－23	109	〈112〉	60	90	25	B	2	※			中期後半	
D－24	110	〈75〉	88	〈60〉	20	A	2	※		小1	中期後半	
D－25	165	140	58	42	34	A	2	△	FLA4	小2	中期後半	
D－26	66	74	44	52	70	A	3	※	FLB3　ScB2　凹石	小1	中期後半	
D－27	80	73	70	63	(50)	A	2	◎		大5	中期後半	埋設土器
D－28	86	〈50〉	72	〈41〉	54	A	3	◎	打斧1　凹石1	小2	中期終末	
D－29	102	105	87	90	37	A	1	△	ScB　打斧1		中期後半	
D－30	165	〈95〉	35	〈25〉	39	D	2	※	FLB1　砥石1		中期後半	
D－31	115	114	92	95	21	A	2	※			中期後半	
D－32	141	162	88	86	74	A	3	◎	FLB4　ScA1　打斧2	小12　中11	後期初頭	
D－33	104	122	68	77	20	A	2	※			中期後半	
D－34	131	102	105	79	27	B	1	※			中期後半	
D－35	140	〈95〉	97	〈76〉	20	A	1	※			中期後半	
D－36												欠番
D－37	106	54	56	37	36	C	2	※		小1	中期後半	
D－38	117	144	77	102	35	B	2	△	FLB1		中期後半	
D－39	148	180	99	123	40	B	2	◎	FlA1　FLB2　ScB2　打斧1　凹石2	小4　中1	中期後半	
D－40	(149)	〈70〉	102	〈61〉	69	A？	1	△	打斧1	小4	中期後半	
D－41												欠番
D－42	104	84	96	76	30	B	1	○	ScB2　打斧2	小5　中2	中期後半	
D－43	(92)	101	18	15	52	A	2	○	FLB1		中期後半	
D－44												欠番
D－45	103	86	75	60	52	B	2	※		小2　中4	中期後半	

凡例　土器重量　※　100ｇ以下　　礫　小　100ｇ以下　　平面形態　A　円形　　断面形態　1　逆台形・箱形
△　100ｇ以上　　中　100ｇ以上　　B　楕円形　　2　碗・皿状
○　500ｇ以上　　大　1kg以上　　C　方形　　3　袋状
◎　1kg以上　　特大　10kg以上　　D　不整型

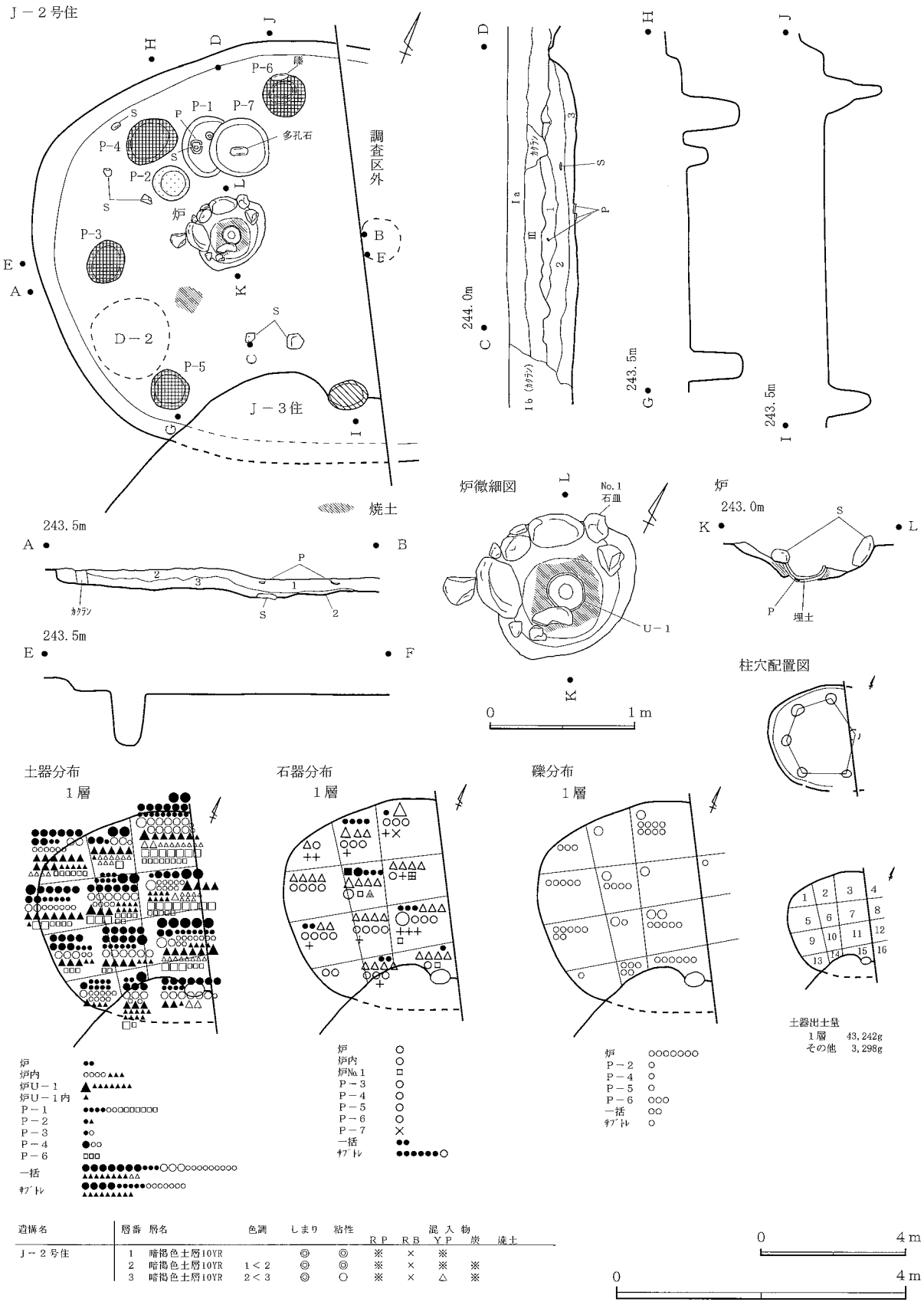
（　）は推定　〈　〉は残存値

第２表　土坑観察表

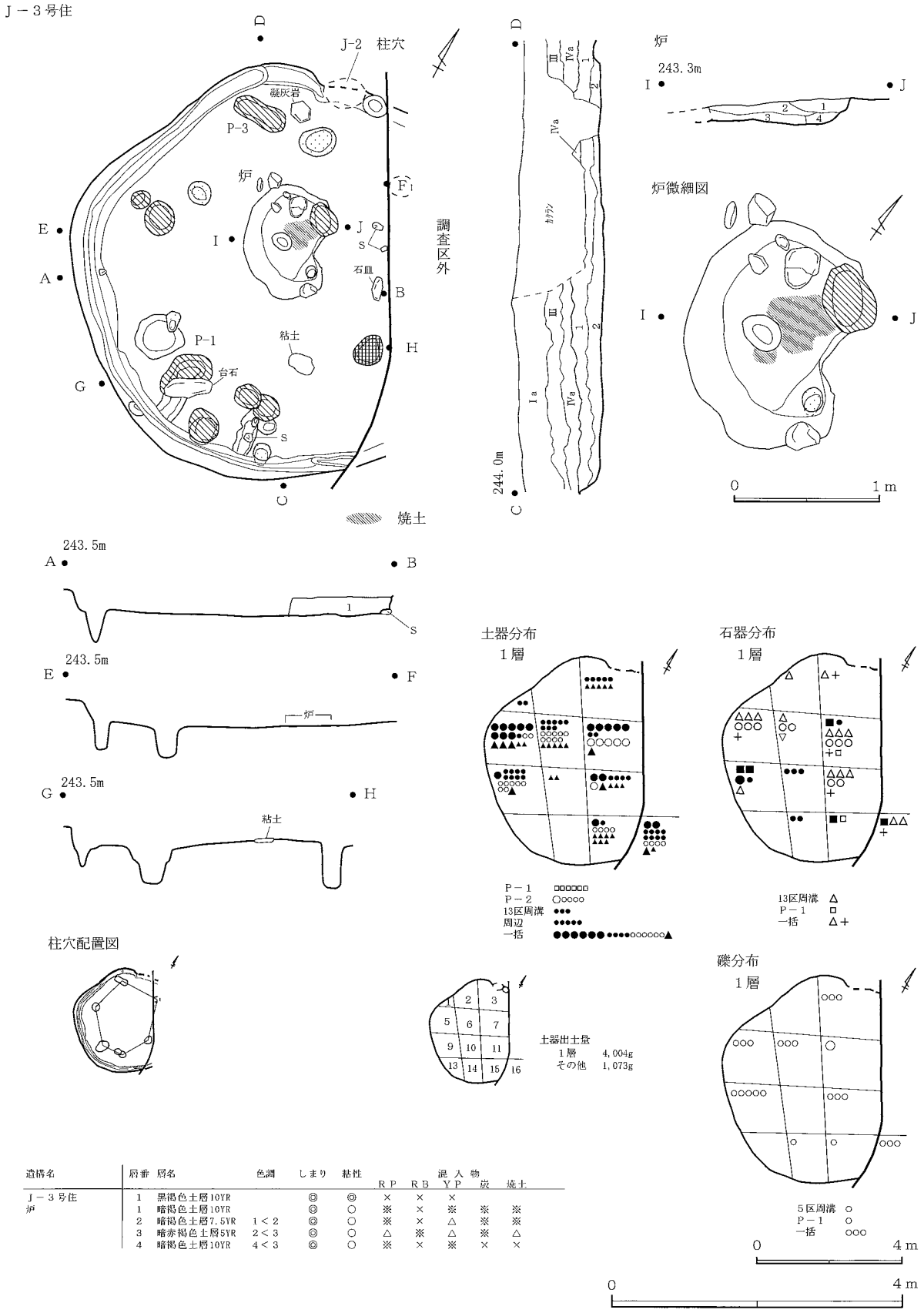


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
J－1号住	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	※	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	△	×	×	※	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	◎	※	×	×	※	
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	◎	△	×	※	※	

第6図　J－1号住居址実測図



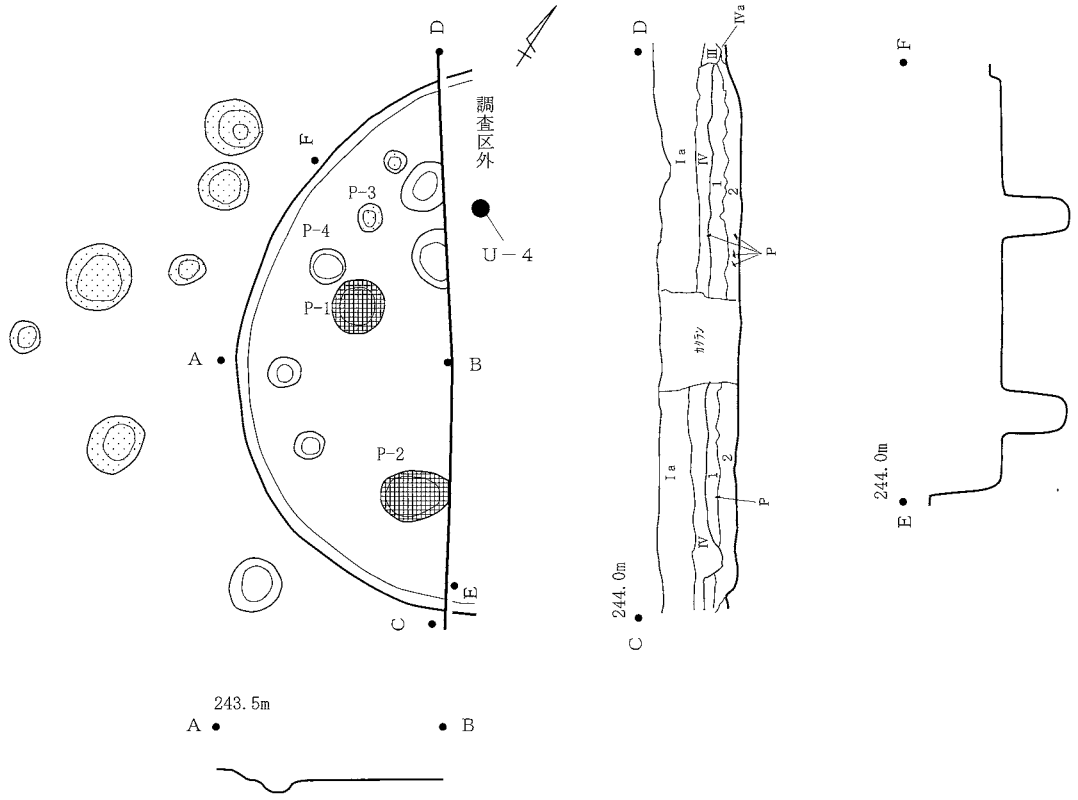
第7図　J－2号住居址実測図



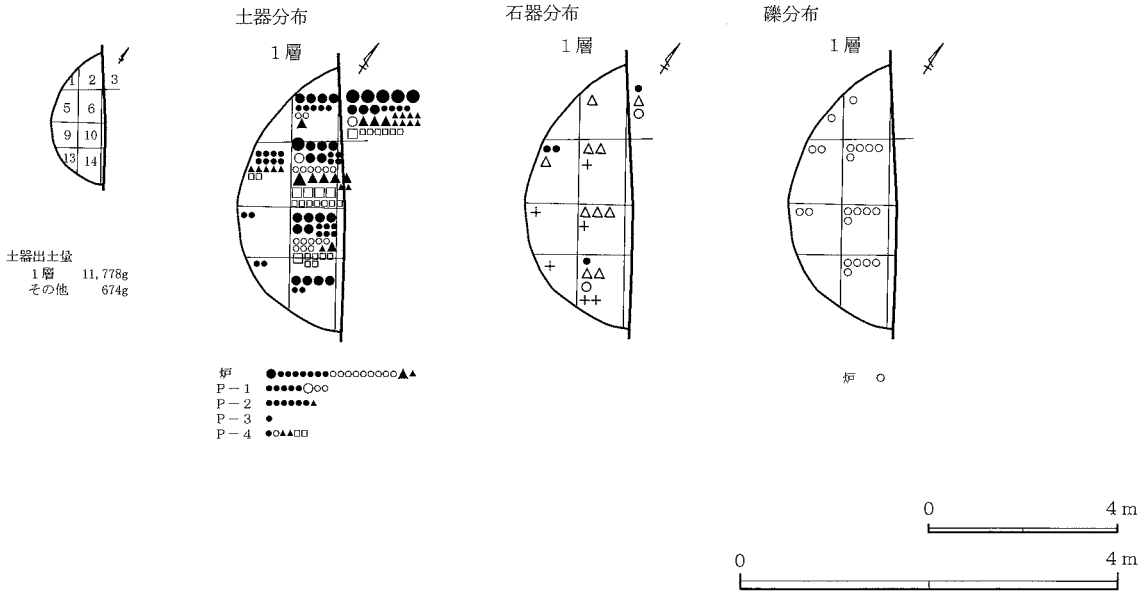
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
J－3号住	1	黒褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×		
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※	※	※
	2	暗褐色土層7.5YR	1＜2	◎	○	※	×	△	※	※
	3	暗赤褐色土層5YR	2＜3	◎	○	△	※	△	※	△
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	◎	○	※	×	※	×	×

第8図　J－3号住居址実測図

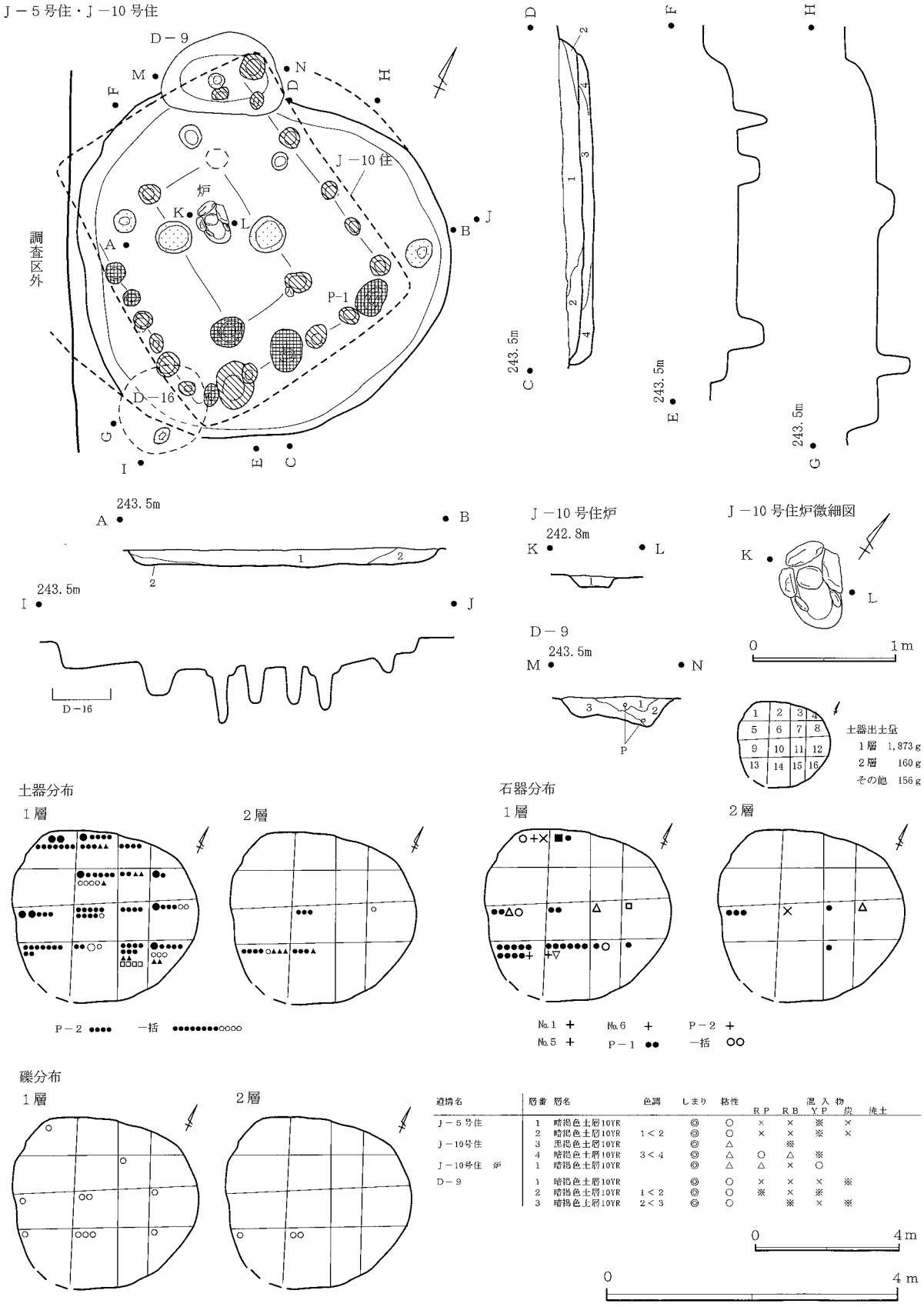
Ｊ－４号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－４号住	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	※	×	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※	※	

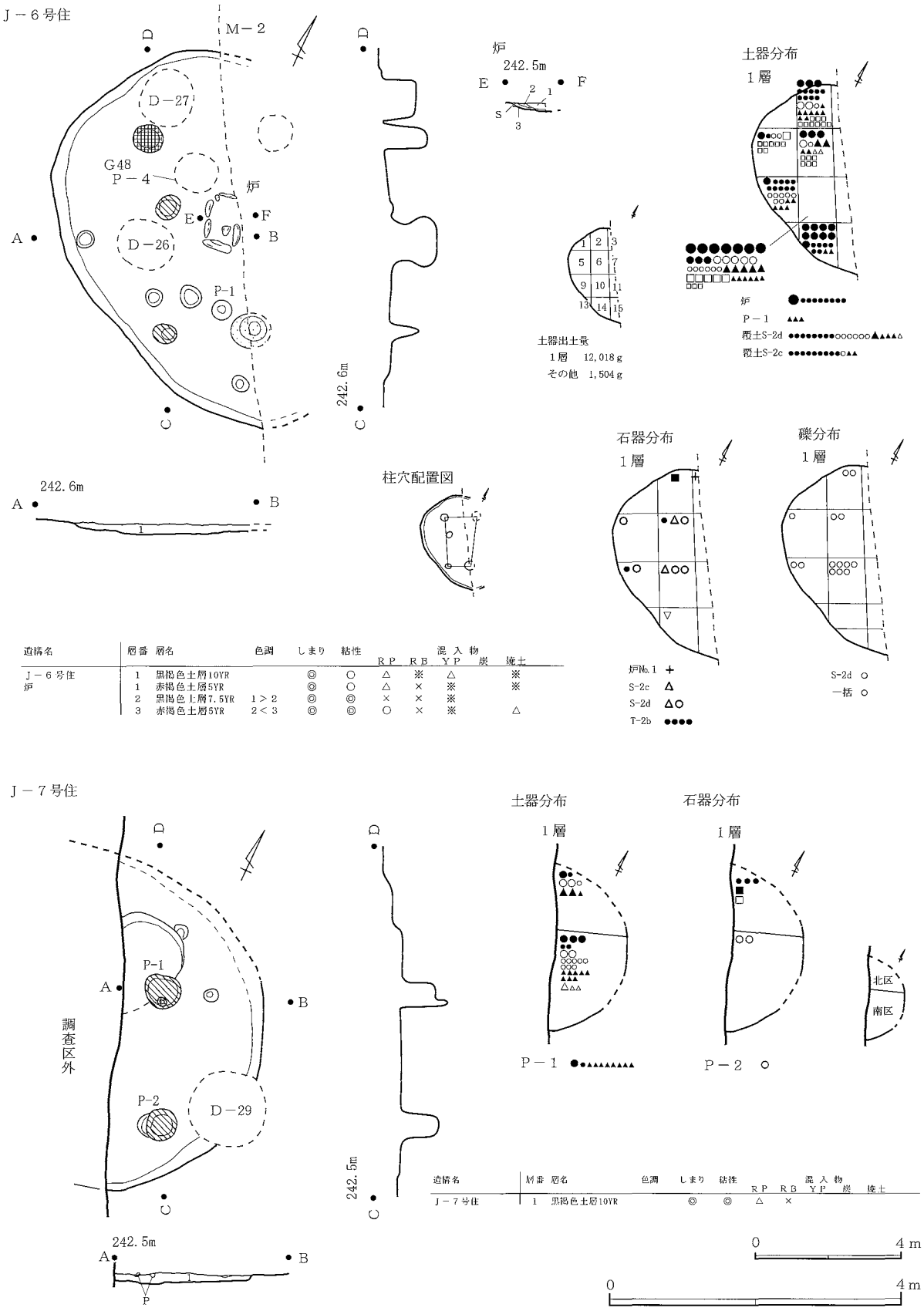


第９図　Ｊ－４号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
J－5号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	※	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	※	×	
J－10号住	3	黒褐色土層10YR		◎	△		※			
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	△	○	△	※		
J－10号住 炉	1	暗褐色土層10YR		◎	△	△	×	○		
D－9	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○		※	×	※	

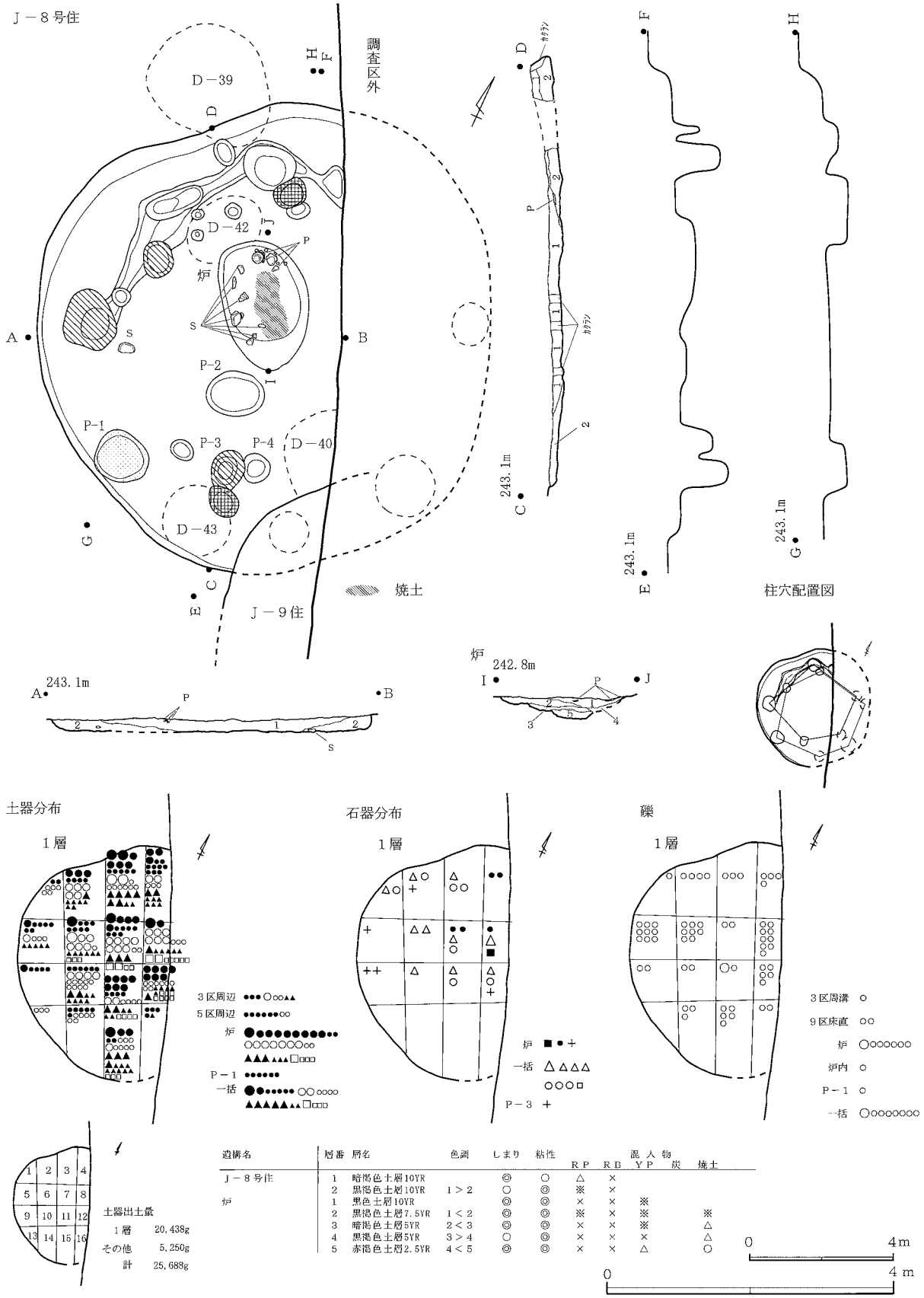
第10図　J－5・10号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
J－6号住 炉	1	黒褐色土層10YR		◎	○	△	※	△		※
	1	赤褐色土層5YR		◎	○	△	×	※		※
	2	黒褐色土層7.5YR	1＞2	◎	◎	×	×	※		
	3	赤褐色土層5YR	2＜3	◎	◎	○	×	※		△

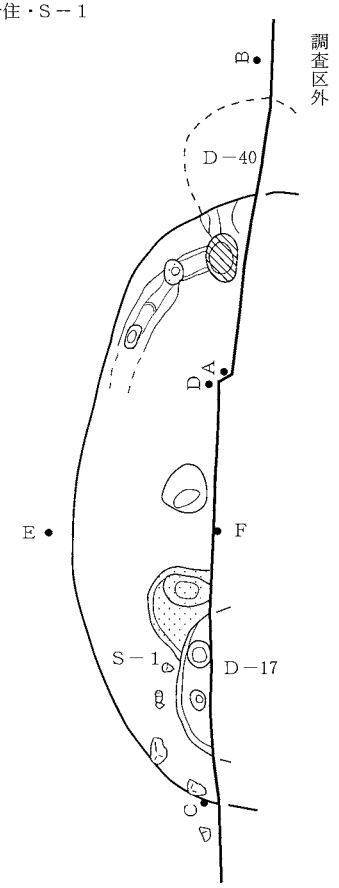
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
J－7号住	1	黒褐色土層10YR		◎	◎	△	×			

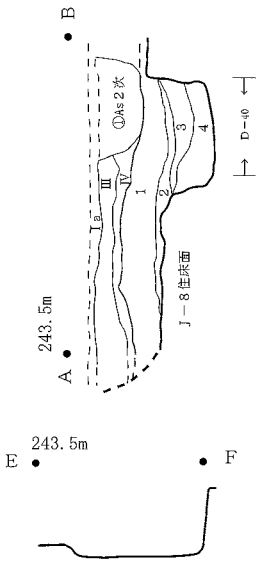
第11図　J－6・7号住居址実測図

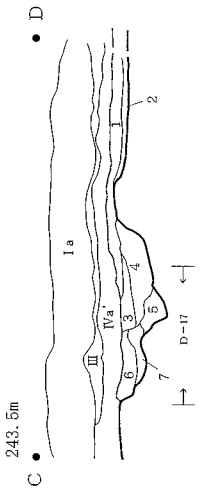


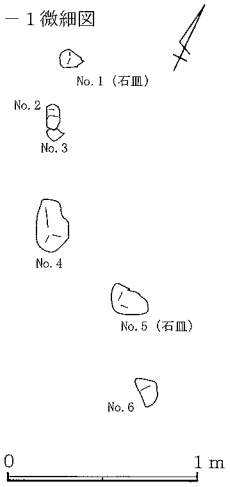
第12図　J－8号住居址実測図

Ｊ－９号住・Ｓ－１







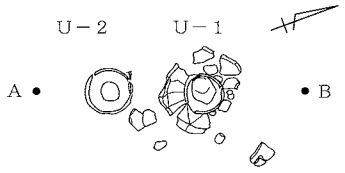


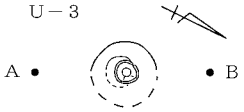
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－９号住	1	黒褐色土層10YR		◎	◎	△	※	○		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	○	※	○		
	3	黒褐色土層10YR	1＞3	◎	○	△	※	○		
	4	褐色土層10YR	3＜4	◎	○	◎	△	◎		
	5	暗褐色土層10YR	4＞5	○	◎	○	※	◎		
	6	黒褐色土層10YR		◎	◎	○	※	○		
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	◎	◎	×	△		

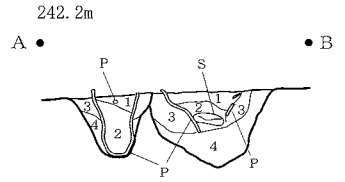
0　4 m

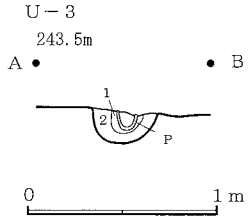
0　4 m

埋設土器（Ｕ－１・Ｕ－２・Ｕ－３）









石器

U－1　＋

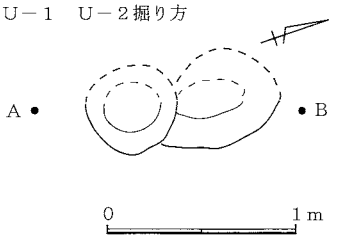
U－3　△

礫

U－1　○○

U－3　○

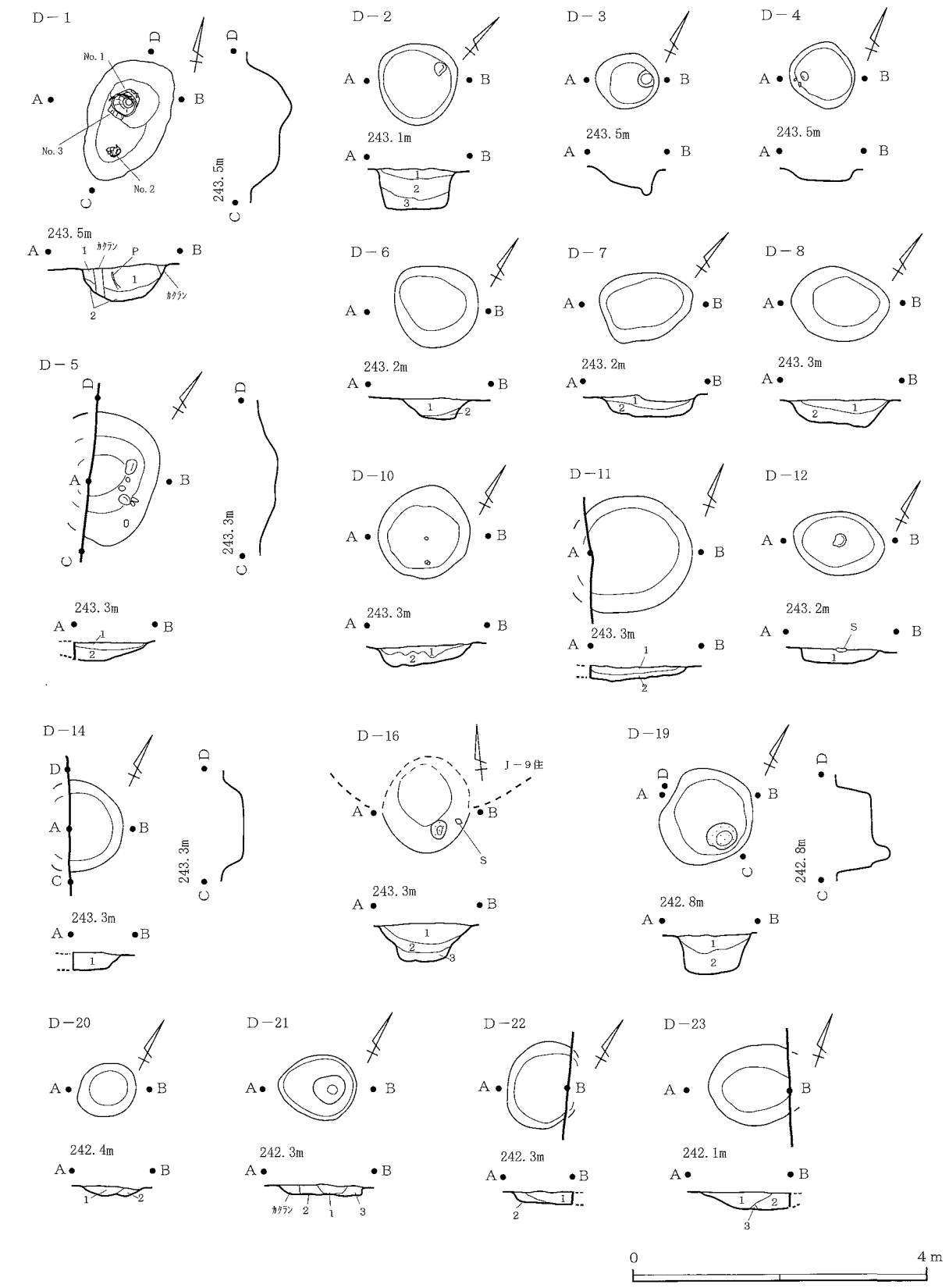
Ｕ－１　Ｕ－２掘り方



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
U－1	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	※
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	×
U－2	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	※
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	※	×	※
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	※
U－3	1	黒褐色土層10YR		○	◎	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	△	×	×

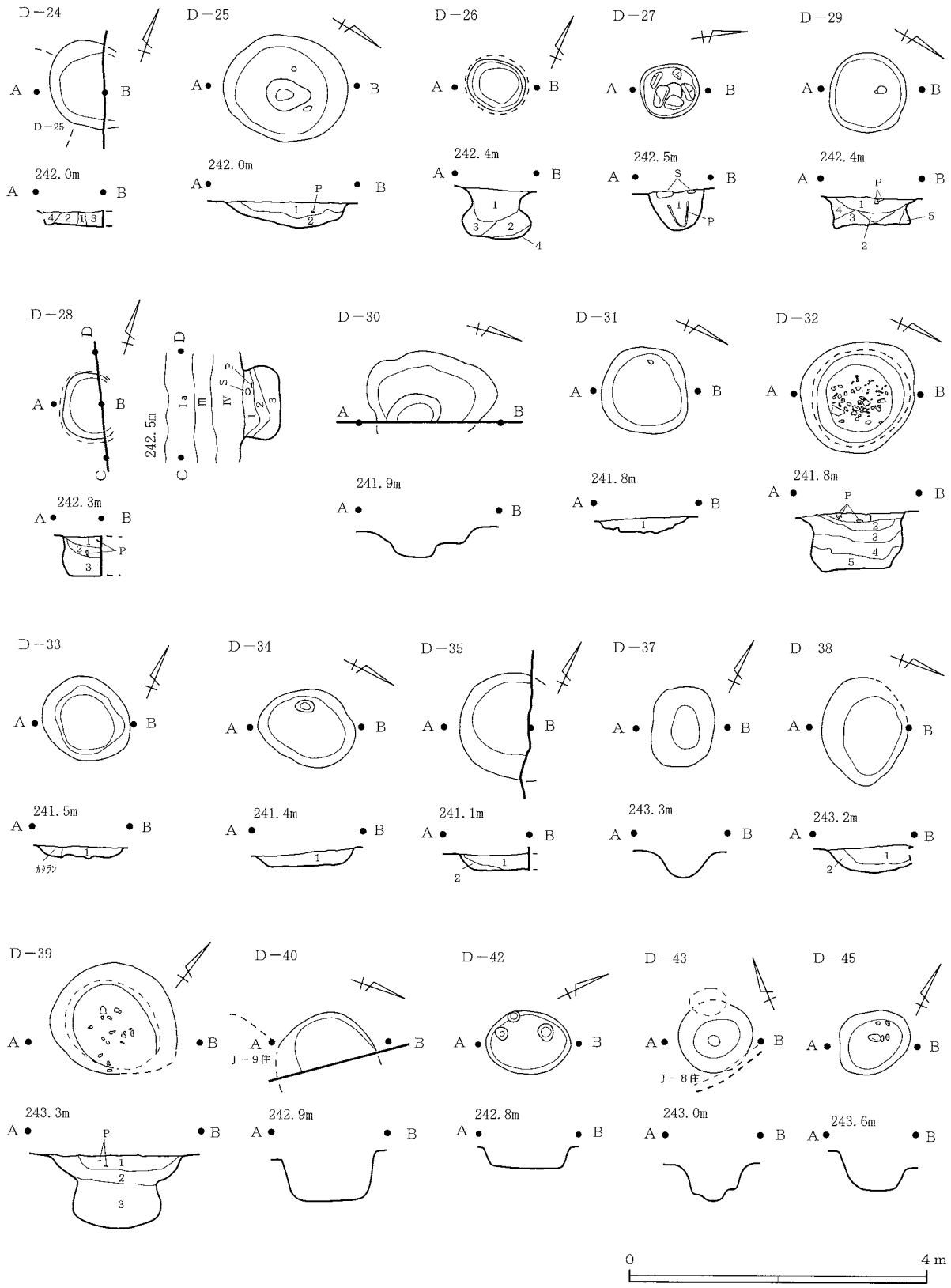
第13図　Ｊ－９号住居址・埋設土器実測図

土坑（D－1～D－23）



第14図　土坑実測図（1）

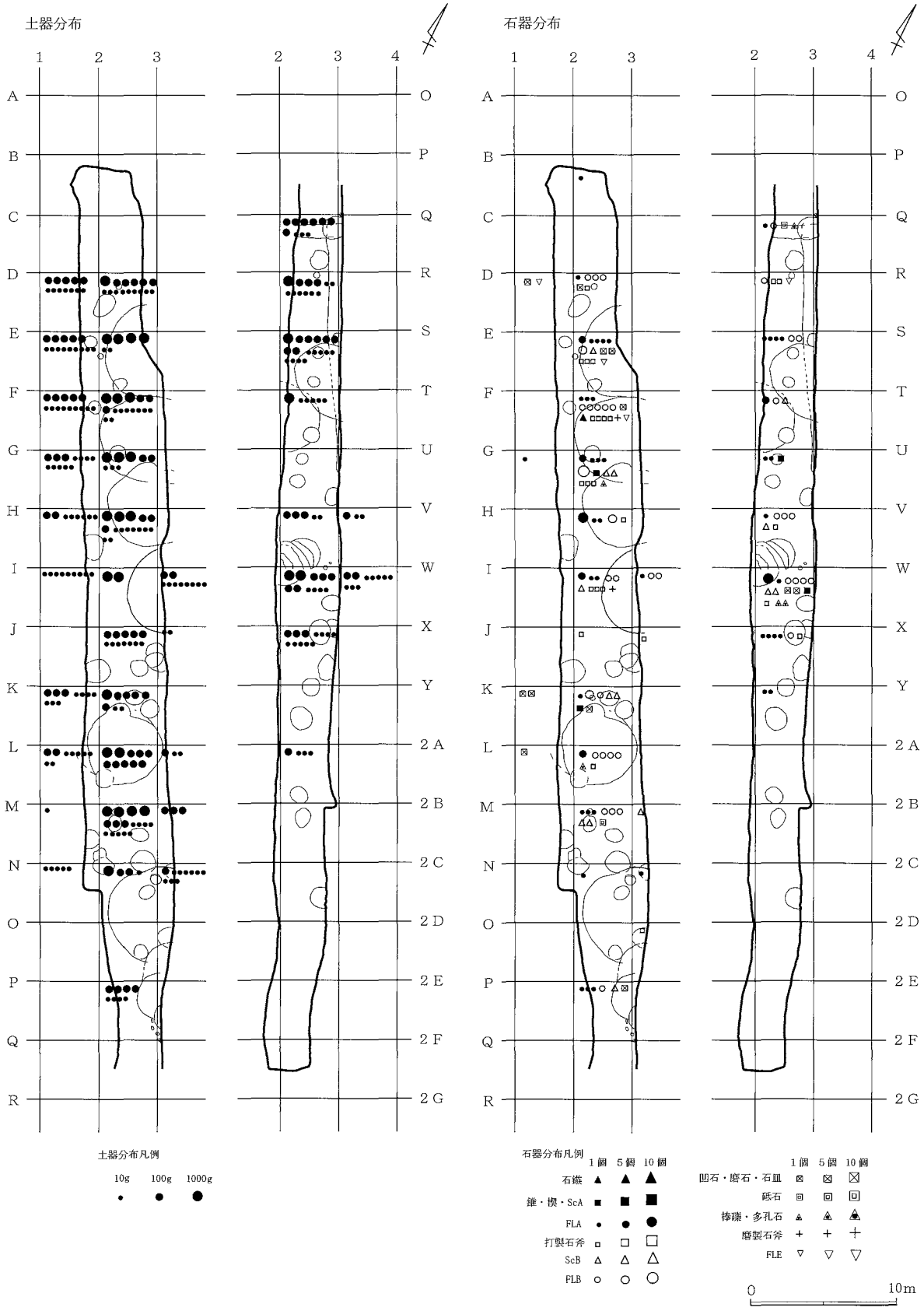
土坑（D－24～D－45）



第15図　土坑実測図（2）

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
D－1	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	※	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※		
D－2	1	黒褐色土層10YR		◎	◎	○	※	△		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	◎	◎	△	◎		
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	◎	◎	○	○	※		
D－5	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※		
D－6	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※		
D－7	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	△		
D－8	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	△		
D－10	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	※		
D－11	1	黒褐色土層10YR		○	◎	×	※	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	△	※	※		
D－12	1	黒褐色土層10YR		○	△	△	※	※		
D－14	1	黒褐色土層10YR		◎	◎	△	※	※		
D－16	1	黒褐色土層10YR		○	△	△	×	△	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	○	△	△		
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	◎	◎	○	○		
D－17	3	黒褐色土層10YR	1＞3	◎	○	△	※	○		
	4	褐色土層10YR	3＜4	◎	○	◎	△	◎		
	5	暗褐色土層10YR	4＞5	○	◎	○	※	◎		
	6	黒褐色土層10YR		◎	◎	○	※	○		
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	◎	◎	×	△		
D－19	1	暗褐色土層10YR		◎	△	○	※	※		
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	○	◎	△	△	△		
D－20	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	○	※	△		
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	○	×	※		
D－21	1	黒色土層10YR		◎	◎	○	※	※		
	2	黄褐色土層10YR	1＜2	◎	○	◎	△	△		
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	◎	※	※		
D－22	1	黒色土層10YR		◎	◎	△	※	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	○	○	※		
D－23	1	暗褐色土層10YR		◎	○	○	※	△		
	2	黒色土層10YR	1＞2	◎	◎	△	△	△		
	3	黄褐色土層10YR	2＜3	◎	◎	◎	△	△		
D－24	1	黒色土層10YR		◎	◎	×	※	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	○	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	◎	○	×	※		
	4	黒色土層10YR	3＞4	◎	◎	△	×	※		
D－25	1	黒褐色土層10YR		◎	○	△	※	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	◎	○	○	△	△		
D－26	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	※	△		※
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	○	◎	△	※	※		
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	○	◎	○	×	※		
	4	褐色土層10YR	2＜4	○	◎	◎	×	※		
D－27	1	黒褐色土層10YR		◎	◎	×	※	○		
D－28	1	黒褐色土層10YR		○	◎	△	×	※		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	◎	△	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	◎	○	×			
D－29	1	暗褐色土層10YR		1	◎	△	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	◎	◎	※	×			
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	◎	◎	※	×			
	4	褐色土層10YR	3＜4	◎	◎	○	×			
	5	黒褐色土層10YR	3＞5	◎	○	△	×			
D－31	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	△	※	×		
D－32	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×			
	2	黒色土層10YR	1＞2	◎	◎	×	×			
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	◎	△	×			
	4	暗褐色土層10YR	3＞4	○	◎	△	×			
	5	黒褐色土層10YR	4＞5	○	◎	△	×			
D－33	1	黒褐色土層10YR		◎	○	△	×			
D－34	1	黒褐色土層10YR		○	○	△	×			
D－35	1	黒褐色土層10YR		○	◎	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	△	×			
D－38	1	黒褐色土層10YR		◎	○	※	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	◎	△	×			
D－39	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	※		
	3	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		

第３表　土坑土層説明表



第16図　調査区遺物分布図

（２）遺物（第16図～第34図・第４表～第９表）

遺物分布状況（第16図）

遺物は、住居址等の遺構覆土と調査区でⅣａ層中から多数出土した。

土器（第17図～第26図・第５表～第８表）

本調査区から出土した土器は、前期前半の関山Ⅱ式期、中期前半の勝坂３式期、中期後半の加曽利Ｅ１～３式期、加曽利Ｅ４式期及び後期初頭の称名寺１式期である。また、中期後半では、赤色塗彩を施す浅鉢の破片が出土した。土器は、小破片が多く、完形となる個体や同一個体の大形破片等は少ない。

前期前半の土器

Ｊ－10号住居址（旧Ｊ－５号住）から、関山Ⅱ式の深鉢片が少数出土した。胎土に繊維を含み、縄文の菱形施文に、ループ文及び貼付文が特徴である。

中期前半の土器

土坑及び住居址（Ｊ－７号住居址）覆土中から、勝坂３式終末段階の土器が出土した。Ｄ－１号土坑では、同時期の土器３個体が出土した。

中期後半・後期初頭の土器

加曽利Ｅ１～Ｅ２式期の土器は、Ｊ－１、６、８号住居址、加曽利Ｅ２式期の土器は、Ｊ－３号住居址、加曽利Ｅ３式期の土器は、Ｊ－２、４、５号住居址から多数出土した。

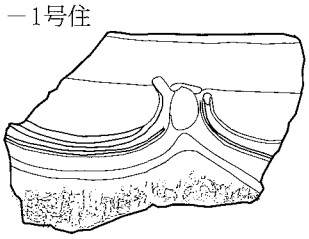
住居址出土では、加曽利Ｅ１～Ｅ２式期を主体として、Ｅ３式へと続く土器群の変遷が認められた。文様の特徴として、地面が撚り糸あるいは単節ＲＬ縄文を施すもので、口縁部に隆帯または沈線による渦巻きあるいは楕円に区画し、胴部に縦位の沈線文をもつものが多くみられた。しかし、他地域の曽利系（信州系）及び大木系（東北系）といった他地域の影響を受けた土器（異系統土器）が少なく、土器群全体では、在地の関東系が強い傾向であった。

Ｊ－２号住居址では、Ｅ２からＥ３式段階の連弧文土器、Ｊ－４号住居址では、加曽利Ｅ３式に平行する長野県削地域周辺に分布する「郷土式」あるいは「佐久系土器」と呼ばれる沈線地文とする土器（唐草文系）等の共伴が認められた。また、住居址では、赤色塗彩を施した浅鉢の破片も少数出土した。

埋設土器は、Ｕ－１とＵ－２ともに加曽利Ｅ３式期の土器である。Ｕ－３も同時期の可能性がある。

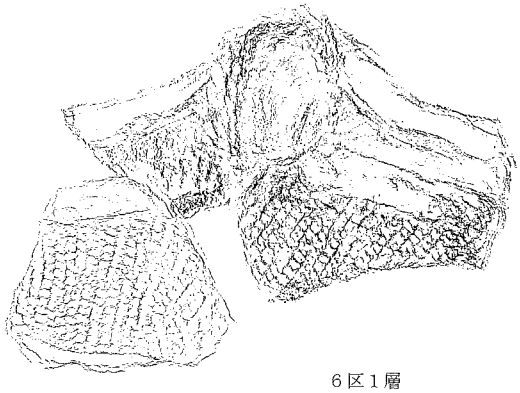
土坑では、本遺跡の主体的時期である中期後半の加曽利Ｅ式の土器が多数出土した。中期終末を含む後期初頭までの称名寺１～２式の土器もみられた。Ｄ－27号土坑の土器は、加曽利Ｅ１式期、Ｄ－28号号土坑の土器は、加曽利Ｅ４式期で口縁部に４単位の環状把手が付く。Ｄ－32号土坑では、加曽利Ｅ４式と称名寺１式との異なる型式同士の共伴関係が認められた。

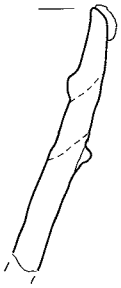
J－1号住



1

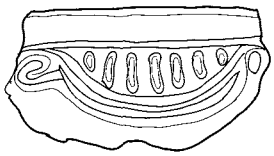
6区1層





3

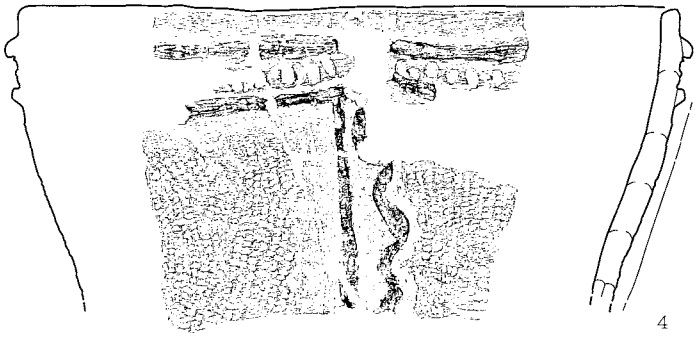
6区1層



2

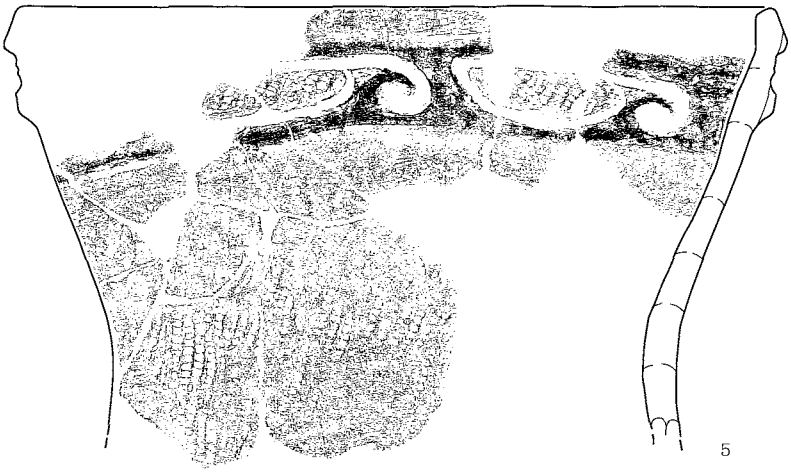
6区1層

J－2号住



4

2区1層



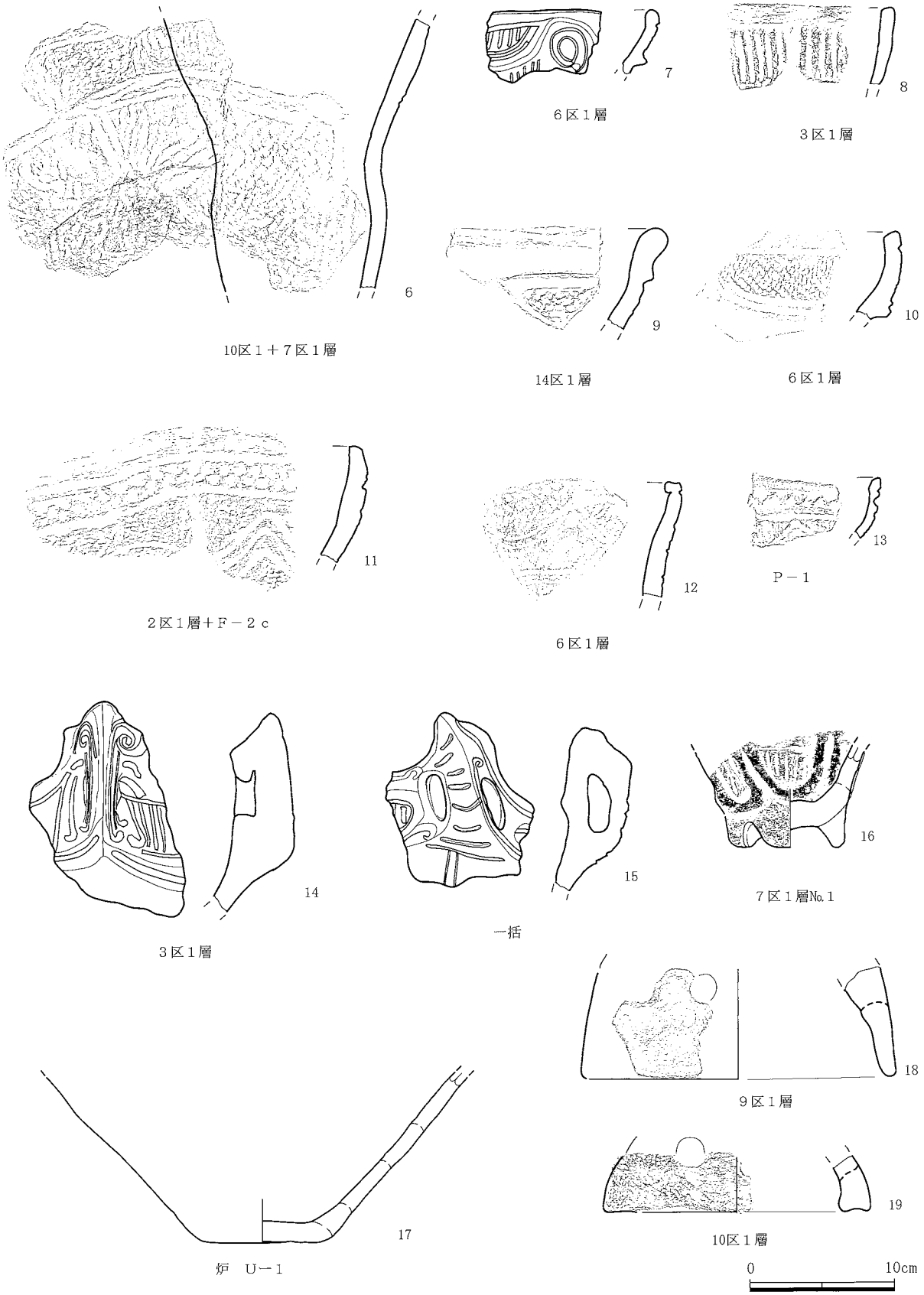
5

11区1層№1

0　10cm

第17図　縄文土器実測図（1）

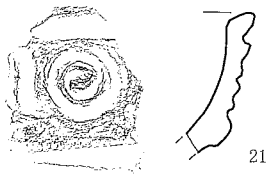
Ｊ－２号住



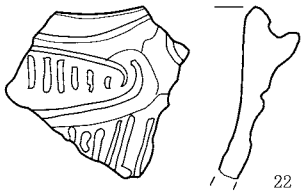
第18図　縄文土器実測図（２）

Ｊ－３号住

９区１層



６区１層

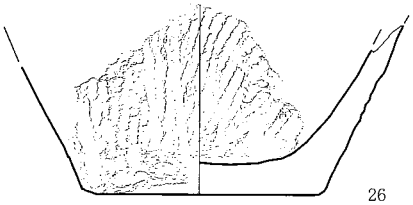


一括

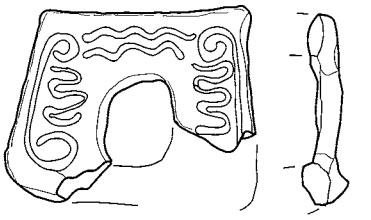
11区１層＋一括＋Ｇ－２ｄ

７区１層

11区１層

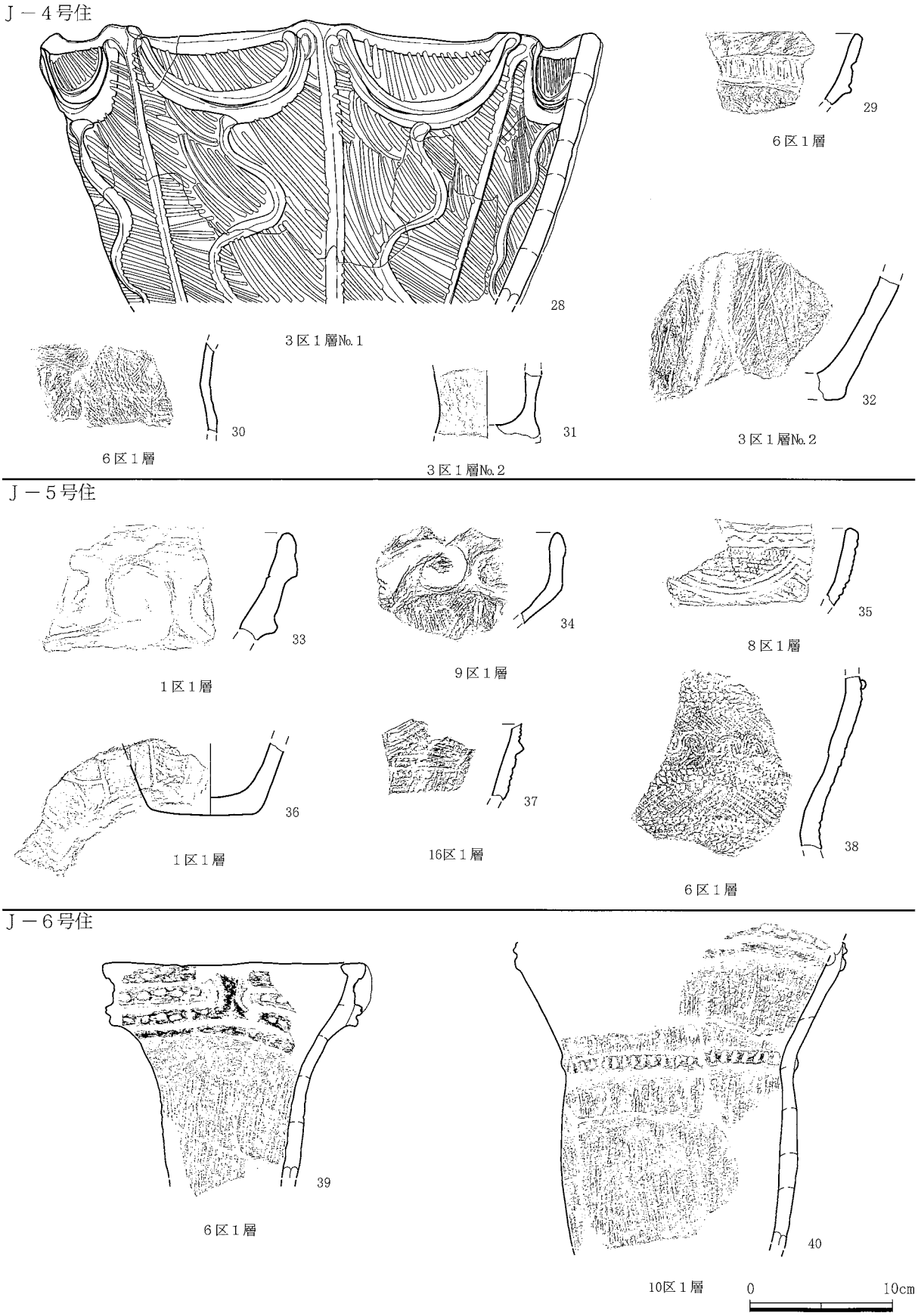


７区１層＋16区１層

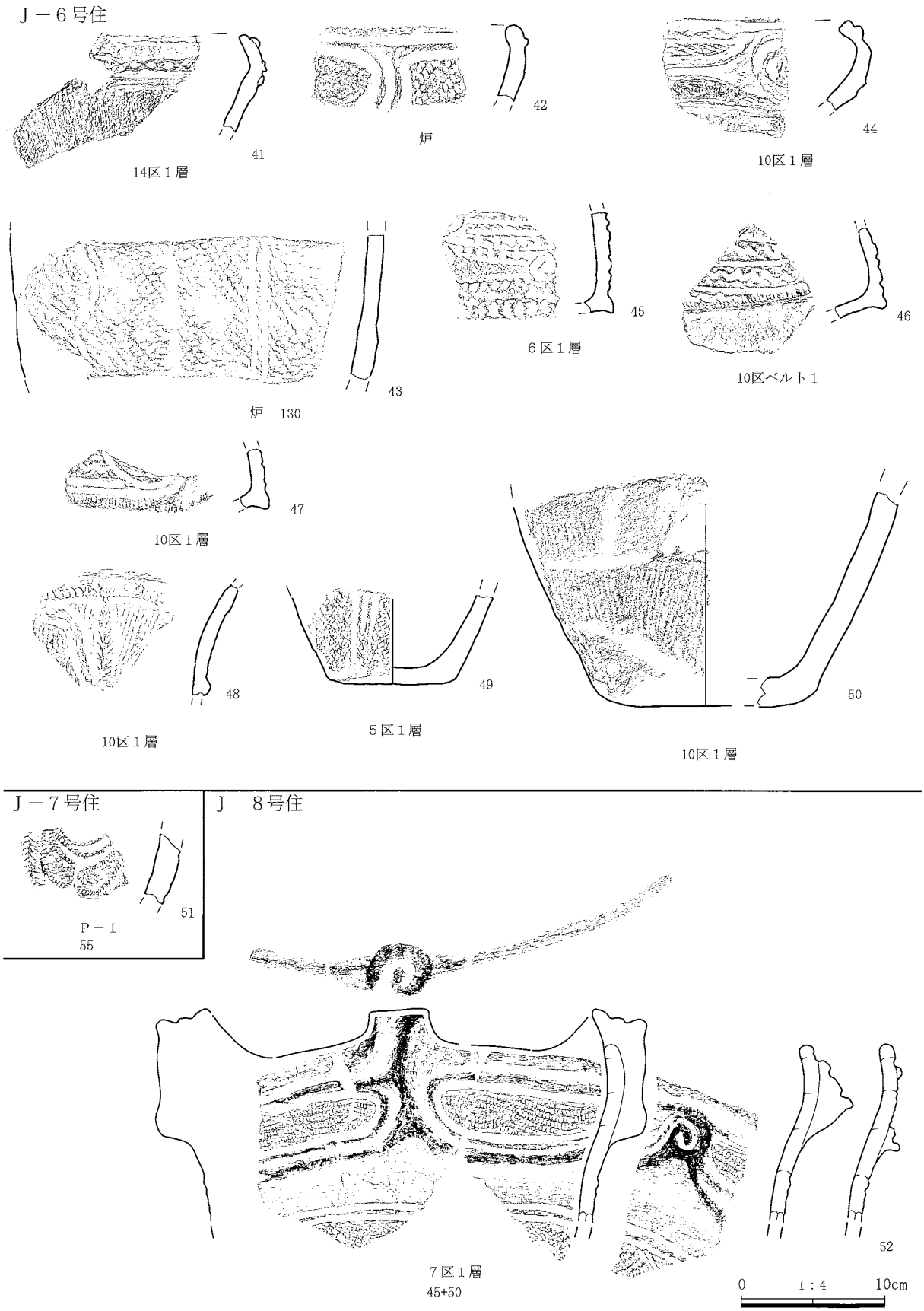


５区１層

第19図　縄文土器実測図（３）

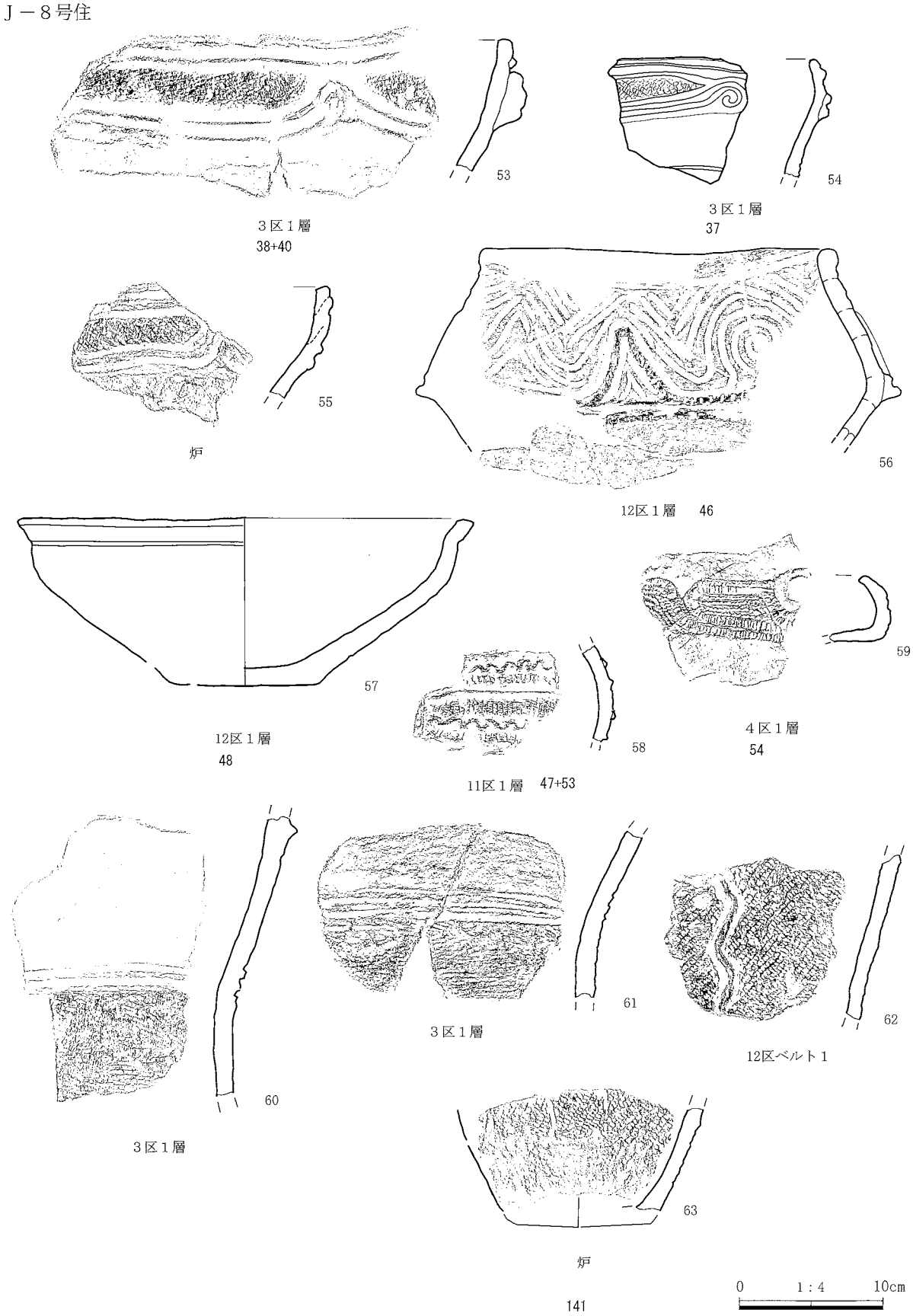


第20図　縄文土器実測図（4）

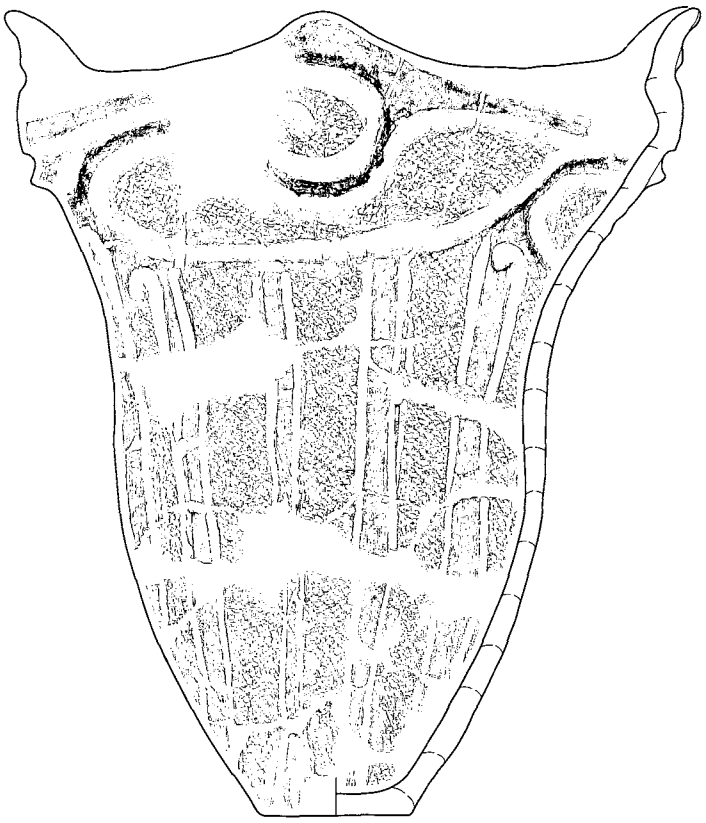


第21図　縄文土器実測図（5）

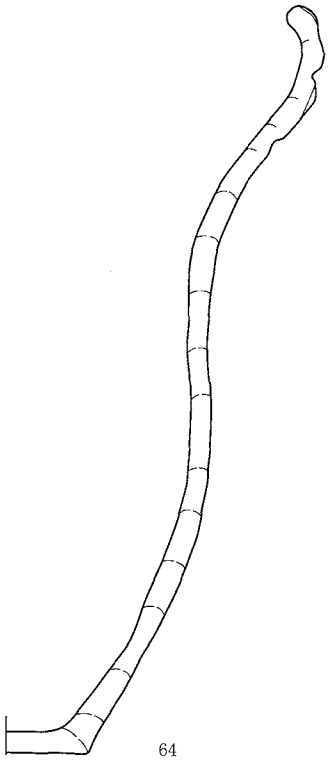
Ｊ－８号住



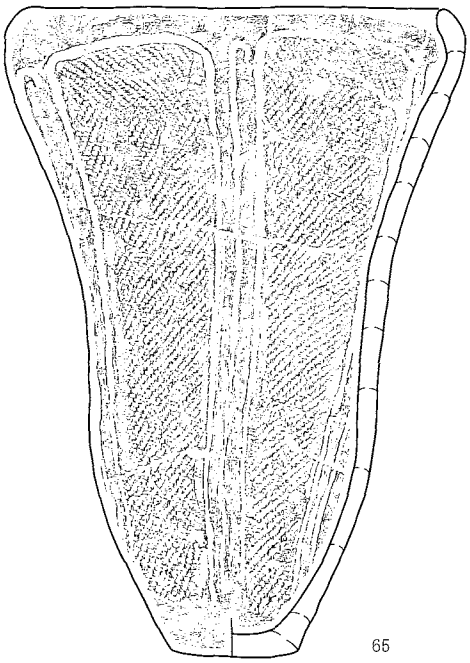
第22図　縄文土器実測図（６）



U－1

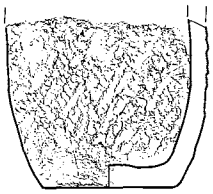


64



65

U－2

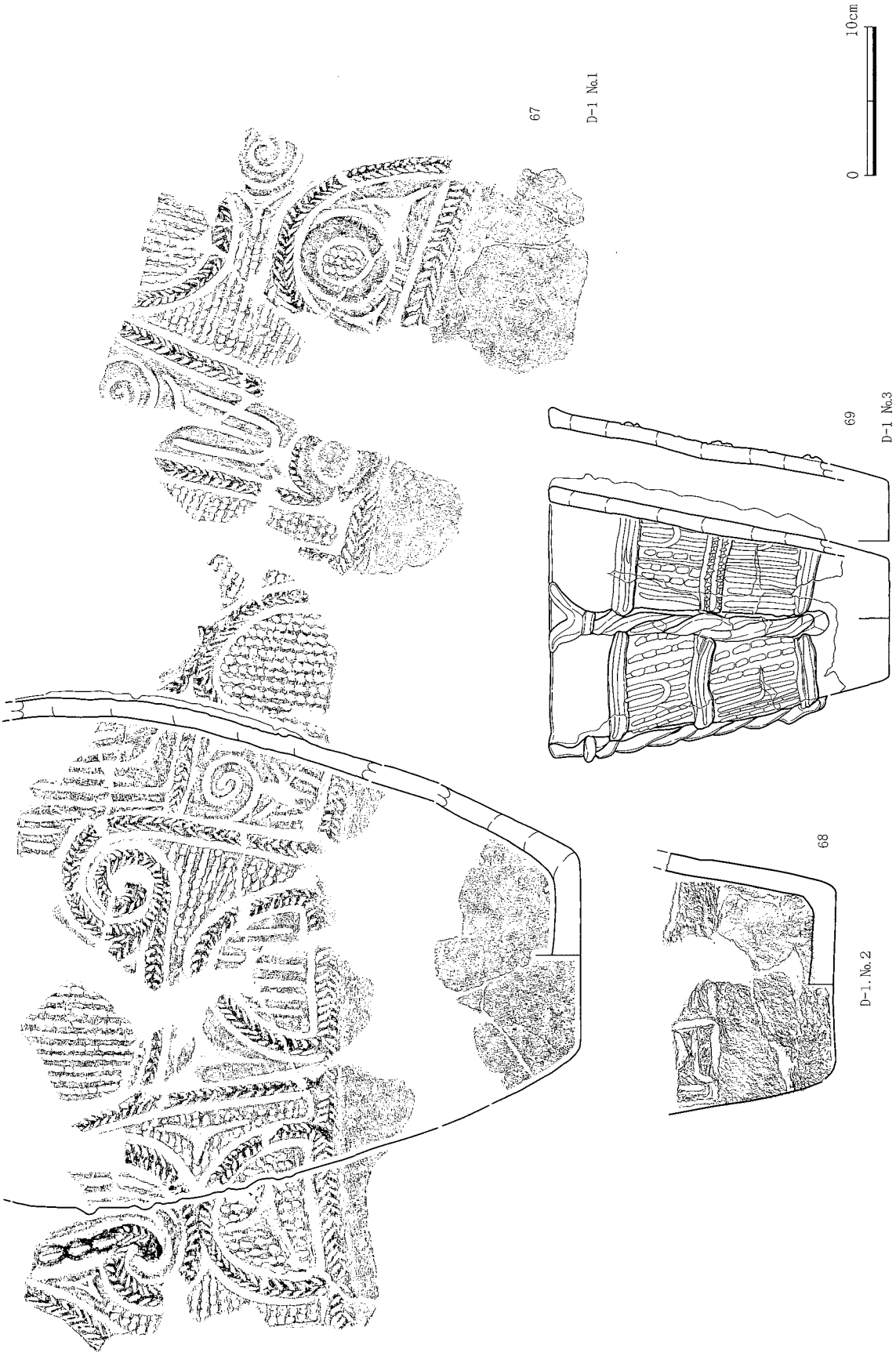


66

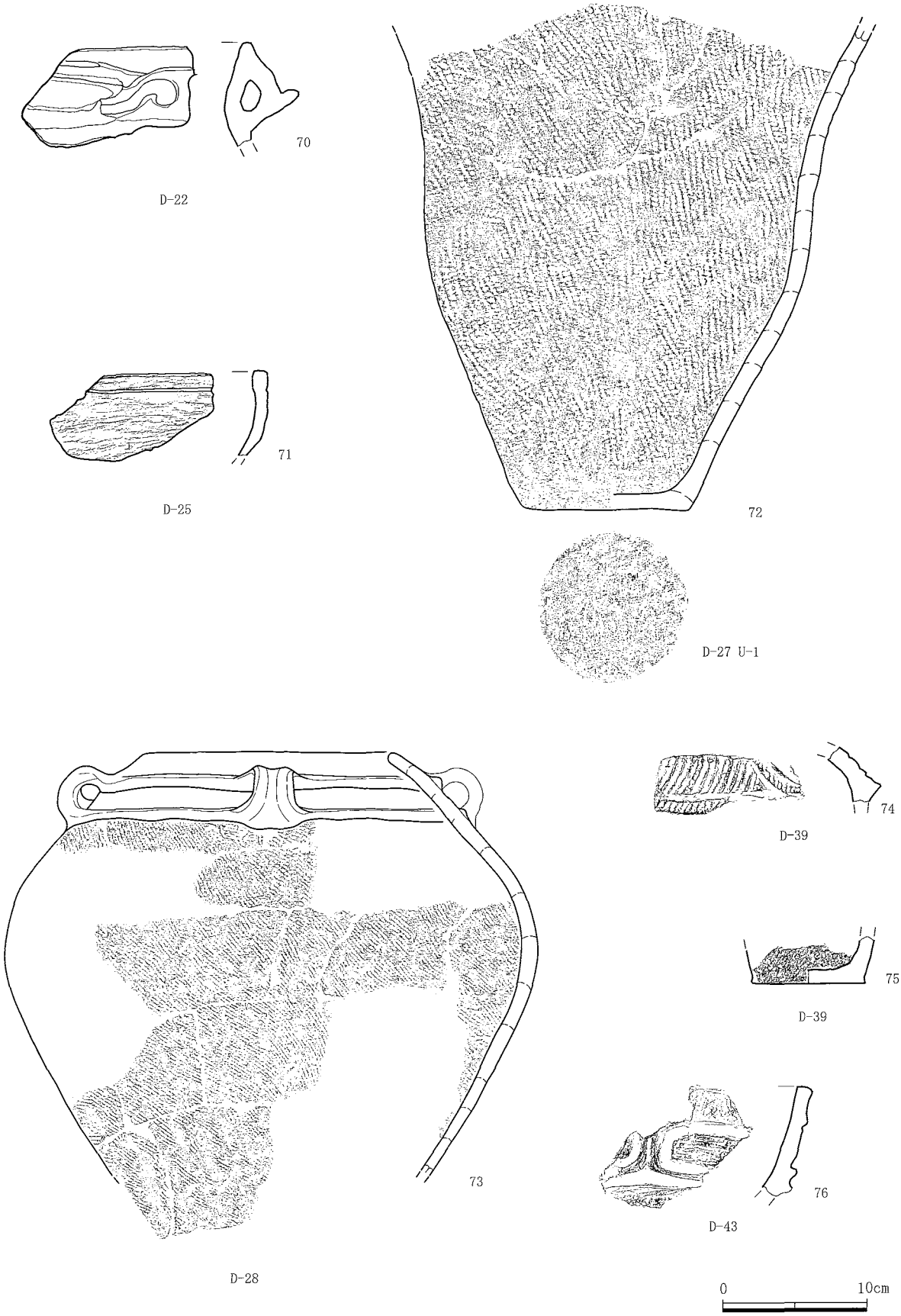
U－3

0　10cm

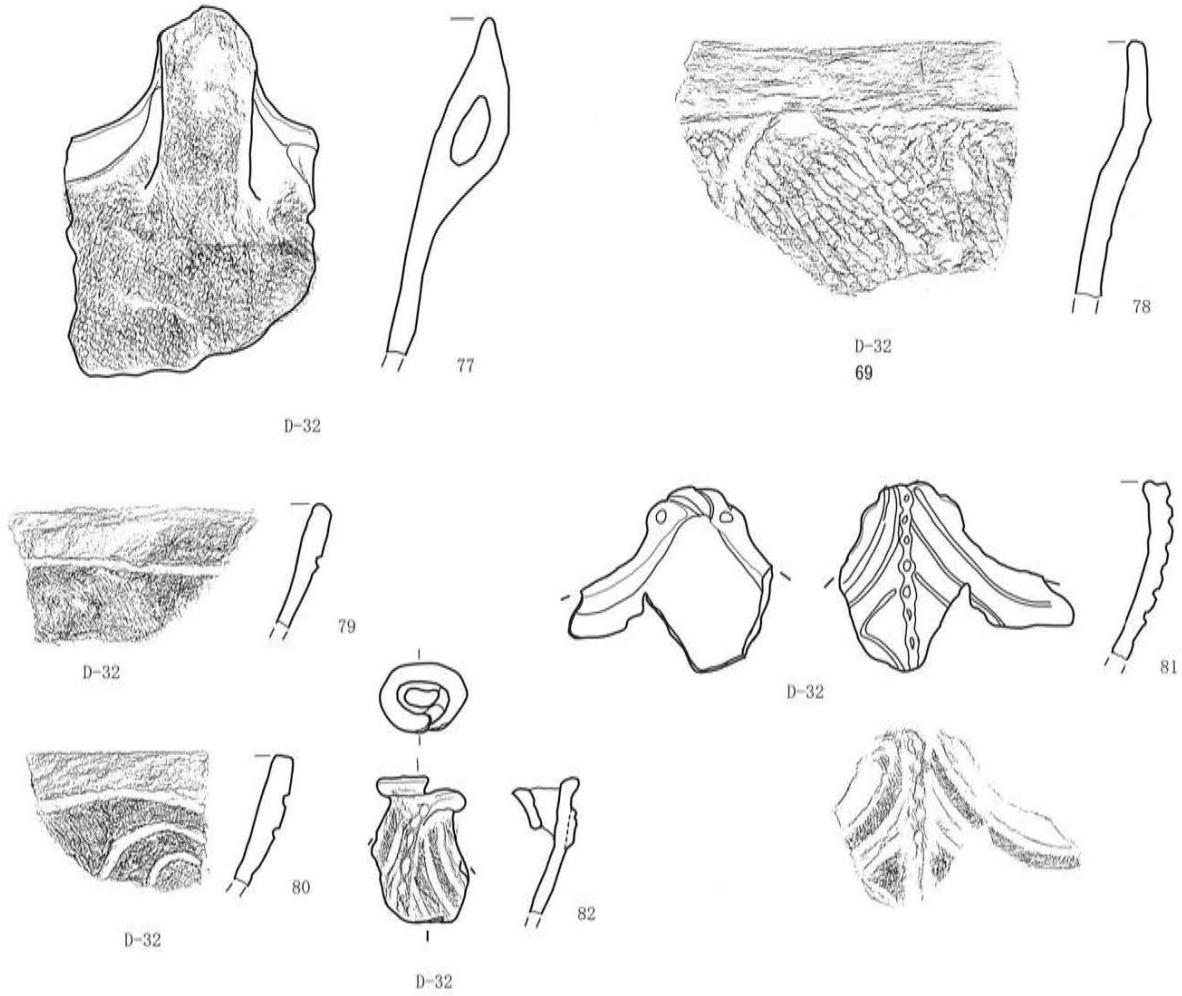
第23図　縄文土器実測図（7）



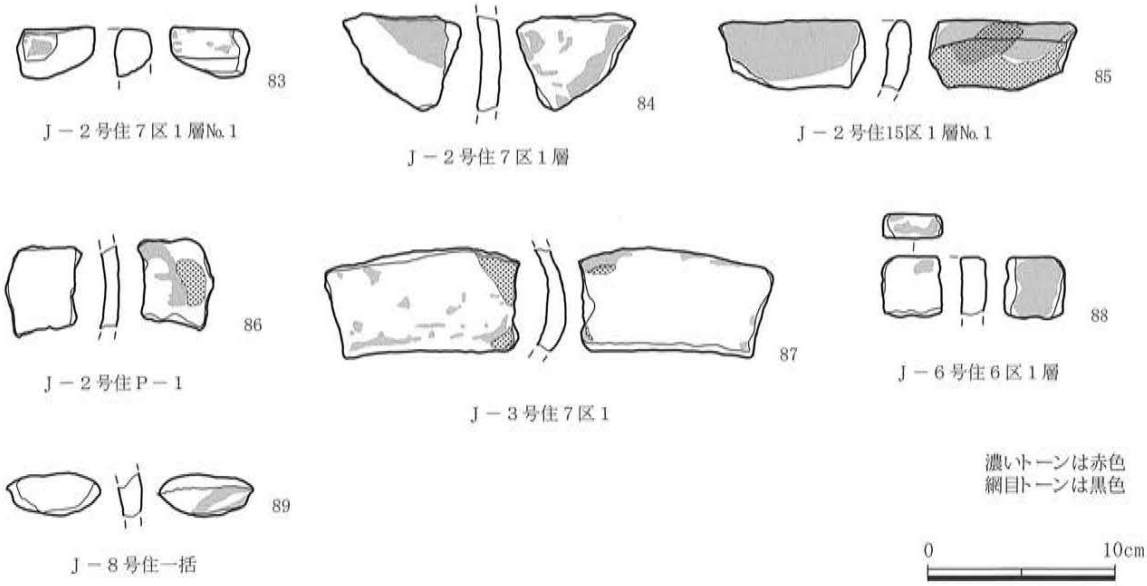
第24図　縄文土器実測図（8）



第25図　縄文土器実測図（9）



赤色塗彩のある土器



第26図　縄文土器実測図(10)

石器

器種組成

石器は、遺構外を含め732点出土した。

住居址全体では、Ａ類の器種組成は石鏃を中心としているが、石核は１点のみで、剥片類も少数であることから、石器製作はやや低調である。Ｂ類は、打製石斧とスクレイパーが主体で、両者の石器の素材となる剥片類も多数であることから、石器製作はやや活発である。Ｃ１類は、凹石、磨石が多数組成し、石皿は、各住居址で安定的に組成する。Ｃ２類では、石器製作に必要な石器が極めて限定的である。Ｄ類では、棒状礫は組成するが、この時期に組成する石棒はみられなかった。Ｅ類は、小型の磨製石斧が搬入品として少数組成する。Ｆ類は、滑石剥片のみで石製品の出土はみられなかった。

石器群の時期は、遺構及び土器群との共伴関係により、中期後半が主体であると判断される。

石材組成

石器石材は、Ａ類では、黒曜石、チャートが主体であり、石器製作には、黒曜石が用いられている。Ｂ類では、打製石斧とスクレイパーには、頁岩が多用され、安山岩、結晶片岩、緑色岩類等が用いられている。Ｃ類は、安山岩が主体である。Ｄ類は、安山岩の他、結晶片岩がみられる。Ｅ類は、緑色岩類の他、頁岩がみられる。在地石材は、頁岩、安山岩であり、この２種類の石材によって主要な器種が製作され、使用されている。石鏃には、非在地石材である黒曜石を選択する傾向があり、他石材の石鏃は、黒曜石の補完的役割によって、製作、搬入されている。

こうした傾向は、周辺地域の同時期の遺跡においても同じ傾向が認められ、中期後半期の石材環境の地域性を示している。

石器各説（第27図～第34図・第９表）

Ａ類

石鏃（１～５）　11点出土した。形態は、凹基無茎式が主体であるが、基部の抉りの浅い平基式も存在する。調整は、粗雑な押圧剥離が両面に施される。左右非対称となるものが多いことから、打面を残した三角形あるいは幅広（横長）剥片が素材であると推定される。石材は、黒曜石が主体で、チャートが補完的である。

石錐（６）　グリッドから１点出土した。断面三角形で先端が尖るＩａ形態である。黒曜石製である。

楔形石器（７）　３点出土した。断面がレンズ状となる厚みのあるもので、両端には、対向軸線には剥離痕がある。黒曜石製である。

スクレイパーＡ類（８～10）　５点出土した。素材の形状を生かした調整が施される。剥片縁辺部に微細な剥離痕及び直接打撃による調整がある。石材は、黒曜石、黒色安山岩、チャートである。

Ｂ類

スクレイパーＢ類（11～19）　52点出土した。素材は、横長幅広剥片、矩形剥片等があるが、不定形剥片を主体とする。調整を十分に施した定型的なスクレイパーの製作は認められず、素材の形状に合わ

せた部分的な直接打撃調整が施されたものが多数である。15～18は「横刃型石器」に相当する。縁辺部には微細剥離痕が観察される。石材は、頁岩が多い。

打製石斧（20～41） 130点出土した。完形品は少数で、欠損品が主体である。形態は、全てⅡ形態である。両面あるいは片面加工で、両側縁及び両端が平行する細長い形態、片面に自然面を残すものが多い。この場合、素材の形状そのままで両端がやや曲線となり、器体中央付近で刃部側がやや広くなる形態である。本遺跡では、抉りが顕著である形態は認められなかった。打製石斧の調整を観察すると、左右非対称であることから、打製石斧の素材分割は、楕円礫を台石の上に横に置いた状態で上から直接打撃によって剥離されたものと推定される。これにより、すべて同じ手順で素材が分割されたものと思われる。石材は、スクレイパーと同様、頁岩が多く、安山岩等が少数用いられている。

原石B（81） 扁平円形礫で、周辺部に敲打痕がある。石器素材と考えられる。

Ｃ１類

磨石（42～48） 28点出土した。楕円及び棒状が多い。両面とも磨り面をもつ。石材は安山岩である。

球石（49） 安山岩製が１点出土した。

凹石（50～62） 32点出土した。中央に凹みをもつもので、磨石との形状、機能が類似する。側縁にも連続する敲打痕をもつのが多い。石材は安山岩である。

石皿（63～69） 11点出土した。扁平な大型礫を素材とする。一部の石皿には、平坦面に凹みあるいは敲打痕がある。石材は安山岩が多い。64は、牛伏砂岩製で、使用による凹みが大きい。

Ｃ２類

砥石（70・71） 10点出土した。石材は砥石に適した粗粒の牛伏砂岩が多い。

敲石（72） 礫面の一端に敲打痕があるもので、５点出土した。72は、磨製石斧の欠損品を転用したものである。石材は、緑色岩類、安山岩である。

台石（73） ２点出土した。73は、住居址床面（ピット上面）に置かれたものである。大形の安山岩である。

Ｄ類

棒状礫（74・75） ８点出土した。石棒とは異なり無加工の自然礫である。結晶片岩製が多く認められる。

多孔石（76・77） ４点出土した。礫面に多数の凹みがある。76は、中央に浅く窪む磨る面がある。結晶片岩製である。

Ｅ類

磨製石斧（78～80） ５点出土した。78、79は、定角式であるが、79はやや断面が楕円状となる。80は、安山岩製の刃部磨製の接合資料である。製作による敲打痕と研磨痕が観察される。石材は、緑色岩類である。

Ｆ類

剥片 滑石が３点出土した。加工痕及び使用痕は観察されなかった。

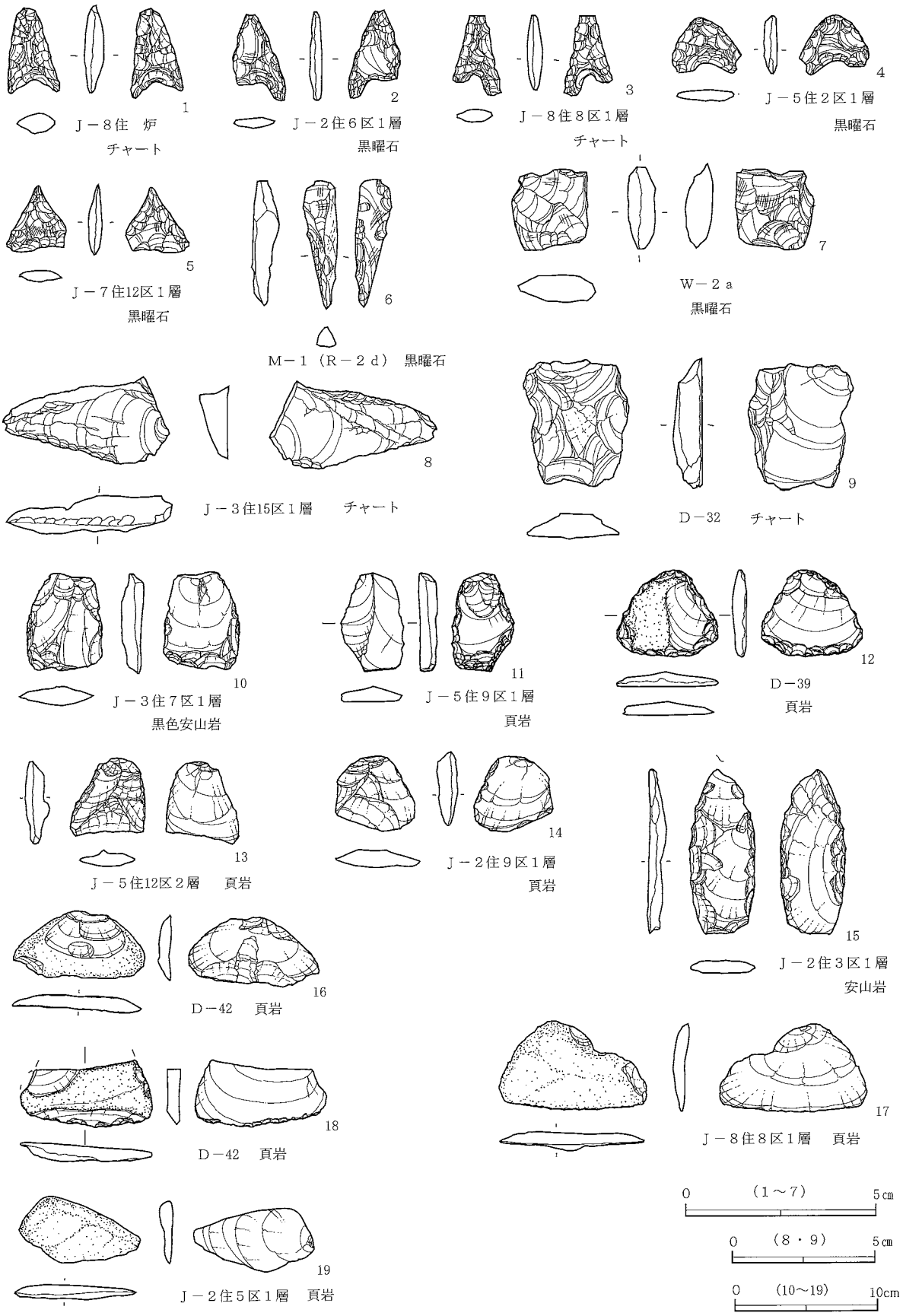
器種組成

種別		器種	J-1	J-2	J-3	J-4	J-5	J-6	J-7	J-8	土坑	溝	ピット	埋設土器	集石	グリッド	北区一括	南区一括	表採	計
A類	石器類	石鏃		1	2		1		1	2						2	2			11
		石錐										1								1
		SCA			2			1			1					1				5
		楔形石器														3				3
	破片類	FLA	9	29	12	4	29	6	3	6	17	11	1			87	18	7		239
	石核原石	石核A類			1															1
B類	石器類	打製石斧	3	41	13	5	1	3		18	14	4				23			5	130
		SCB	3	11	4	4	2	1		4	7	1		1		14				52
	破片類	FLB	7	51	10	2	5	6	3	10	16	2				59	3		2	176
	石核原石	原石B類				1														1
C１類		凹石	1	6	2	3	2	2		6	6					3			1	32
		石皿	1	1	1	1	1				2			1	2	1				11
		磨石		4	2	2	4				5	1				8	2			28
		球石								1										1
C２類		砥石		1	2		1			1	2	1				2				10
		敲石		1	1						1	2								5
		台石		1	1															2
D類		棒状礫		1			1									5		1		8
		多孔石	1	1			1									1				4
E類	石器類	磨斧			1		1	1								2				5
	破片類	FLE														4				4
F類	破片類	FLF		2														1		3
合計			25	151	54	22	49	20	7	48	71	23	1	2	2	215	25	9	8	732

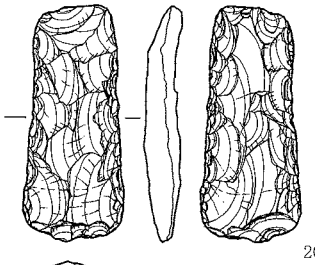
石材組成

遺構名		黒曜石 Ob	チャート Ch	黒色安山岩 BAn	頁岩 Sh	安山岩 An	牛伏砂岩 SS	結晶片岩 Sc	緑色岩類 GrR	石英	滑石	点数合計	重量合計(g)
J-1	点数	9			8	5		2	1			25	
	重量(g)	3			230.6	710.6		9,194.3	90.3				10,228.8
J-2	点数	30			74	31	2	7	6		1	151	
	重量(g)	24			2,777.7	11,060.6	445.2	2,847.8	755		2		17,912.3
J-3	点数	14	1	2	21	13	2		1			54	
	重量(g)	17.3	16.1	614.8	996.6	57,234.1	4,126.1		132.4				63,137.4
J-4	点数	4	1		6	10			1			22	
	重量(g)	0.4	75.2		4,539.4	3,060			194.4				7,869.4
J-5	点数	30			7	6	2	2	2			49	
	重量(g)	43.1			126	4,265.4	1,243.3	750.8	206.7				6,635.3
J-6	点数	5		2	8	4			1			20	
	重量(g)	0.7		40.7	301.7	1,183.4			107.3				1,633.8
J-7	点数	4			3							7	
	重量(g)	1.5			79.9								81.4
J-8	点数	3	2	3	25	13	1	1				48	
	重量(g)	2.1	1.9	231.2	1,844.9	3,040	137.2	568.2					5,825.5
土坑	点数	17	1		30	20	2	1				71	
	重量(g)	21.8	15.4		1,670.7	12,540.2	481.6	68.7					14,798.4
溝	点数	11	1		4	6	1					23	
	重量(g)	7.9	2.8		159	2,082	168.7						2,420.4
ピット	点数	1										1	
	重量(g)	0.1											0.1
埋設土器	点数	1				1						2	
	重量(g)	1				3,650							3,651.0
集石	点数					2						2	
	重量(g)					7,405							7,405.0
グリット	点数	89	1	3	77	29	4	6	6			215	
	重量(g)	66.3	3	17.6	2,454	3,536.2	718.3	259.9	167.1				7,222.4
北区一括	点数	19		1	3	2						25	
	重量(g)	5.6		1.4	6.4	522.9							536.3
南区一括	点数	7						1		1		9	
	重量(g)	3						982		15.4			1,000.4
表採	点数				5	2		1				8	
	重量(g)				294.7	606.9		254.6					1,156.2
合計	点数	244	7	11	271	144	14	21	18	1	1	732	
	重量(g)	197.8	114.4	905.7	15,481.6	11,0897.3	7,320.4	14,926.3	1,653.2	15.4	2		151,514.1

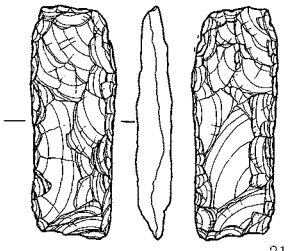
第４表　石器組成表


1
Ｊ－８住　炉
チャート
2
Ｊ－２住６区１層
黒曜石
3
Ｊ－８住８区１層
チャート
4
Ｊ－５住２区１層
黒曜石
5
Ｊ－７住12区１層
黒曜石
6
Ｍ－１（Ｒ－２ｄ）　黒曜石
7
Ｗ－２ａ
黒曜石
8
Ｊ－３住15区１層　チャート
9
Ｄ－32　チャート
10
Ｊ－３住７区１層
黒色安山岩
11
Ｊ－５住９区１層
頁岩
12
Ｄ－39
頁岩
13
Ｊ－５住12区２層　頁岩
14
Ｊ－２住９区１層
頁岩
15
Ｊ－２住３区１層
安山岩
16
Ｄ－42　頁岩
17
Ｊ－８住８区１層　頁岩
18
Ｄ－42　頁岩
19
Ｊ－２住５区１層　頁岩
0　(1～7)　5cm
0　(8・9)　5cm
0　(10～19)　10cm

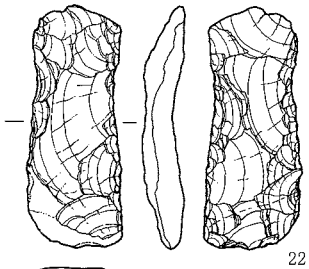
第27図　石器実測図（１）



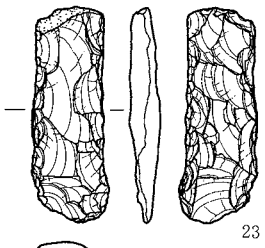
20
Ｊ－８住11区１層
頁岩



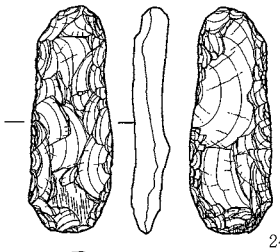
21
Ｄ－40
安山岩



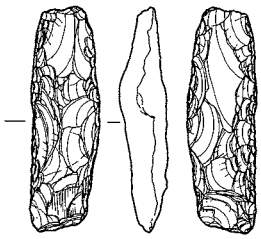
22
Ｊ－８住８区１層
安山岩



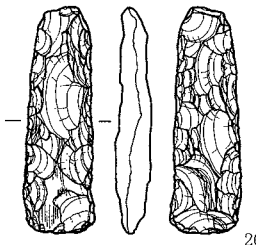
23
Ｊ－２住14区１層
頁岩



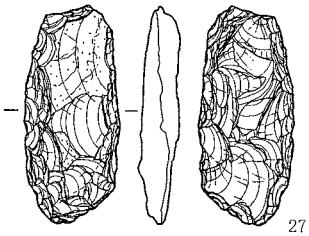
24
Ｊ－８住　一括
頁岩



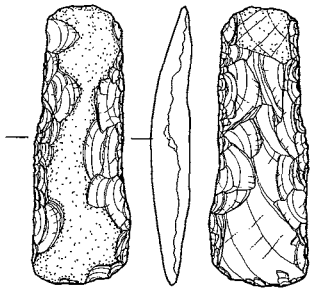
25
Ｊ－２住３区１層
頁岩



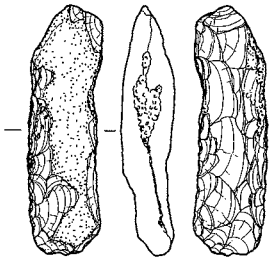
26
Ｊ－３住７区１層
頁岩



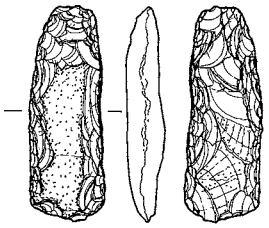
27
Ｄ－44
安山岩



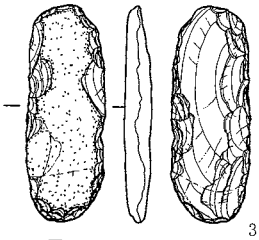
28
Ｊ－２住７区１層
頁岩



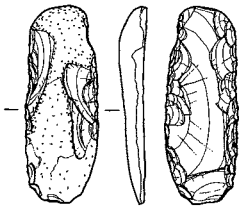
29
Ｊ－４住10区１層
緑色岩類



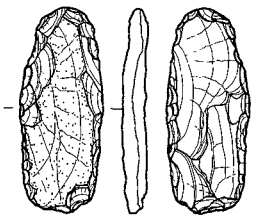
30
Ｄ－42
頁岩



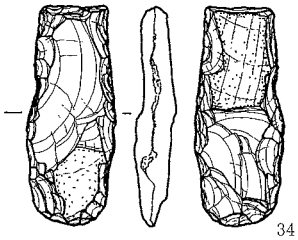
31
Ｊ－２住３区１層
頁岩



32
Ｊ－２住１区１層
頁岩



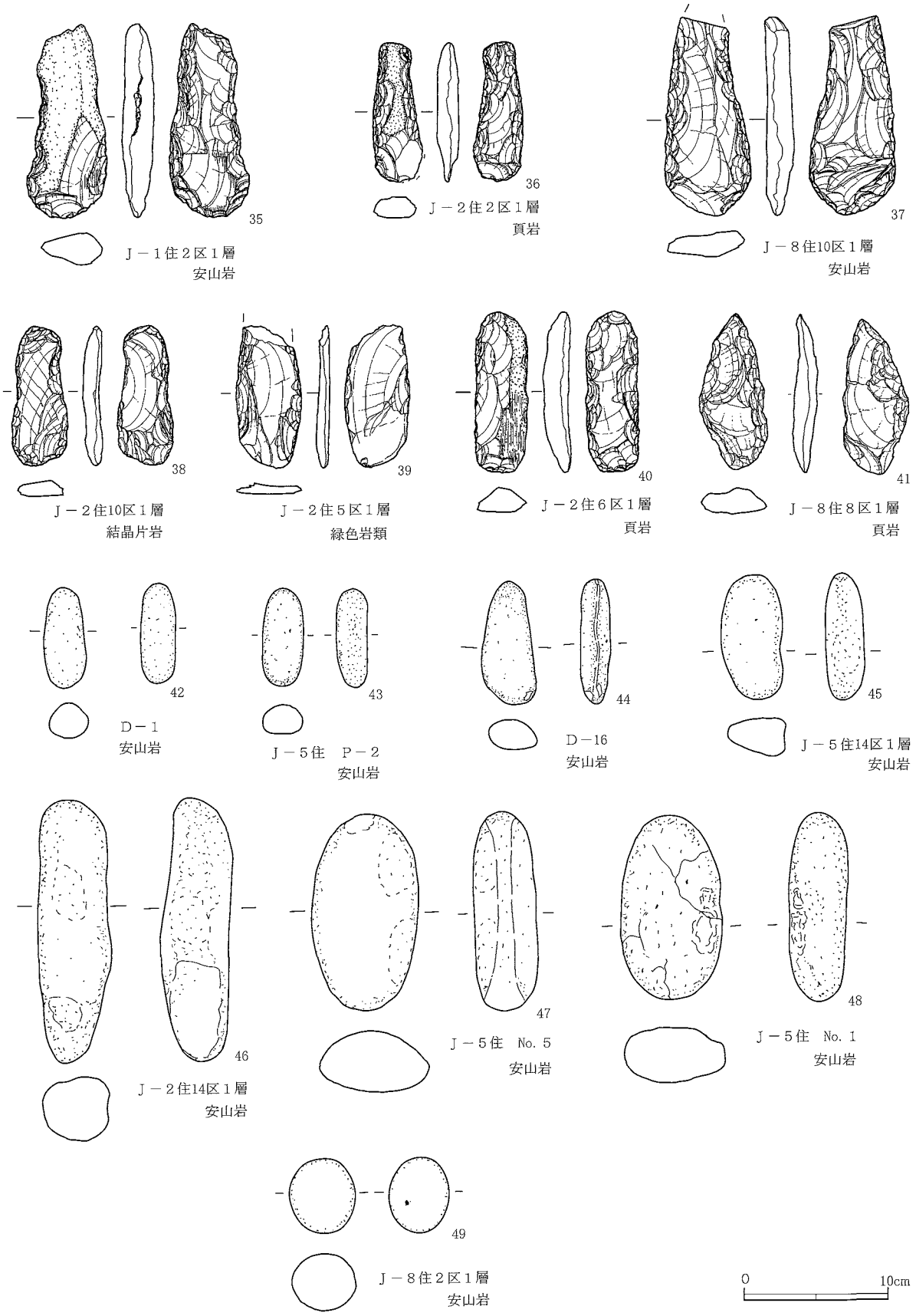
33
Ｊ－２住５区１層
結晶片岩



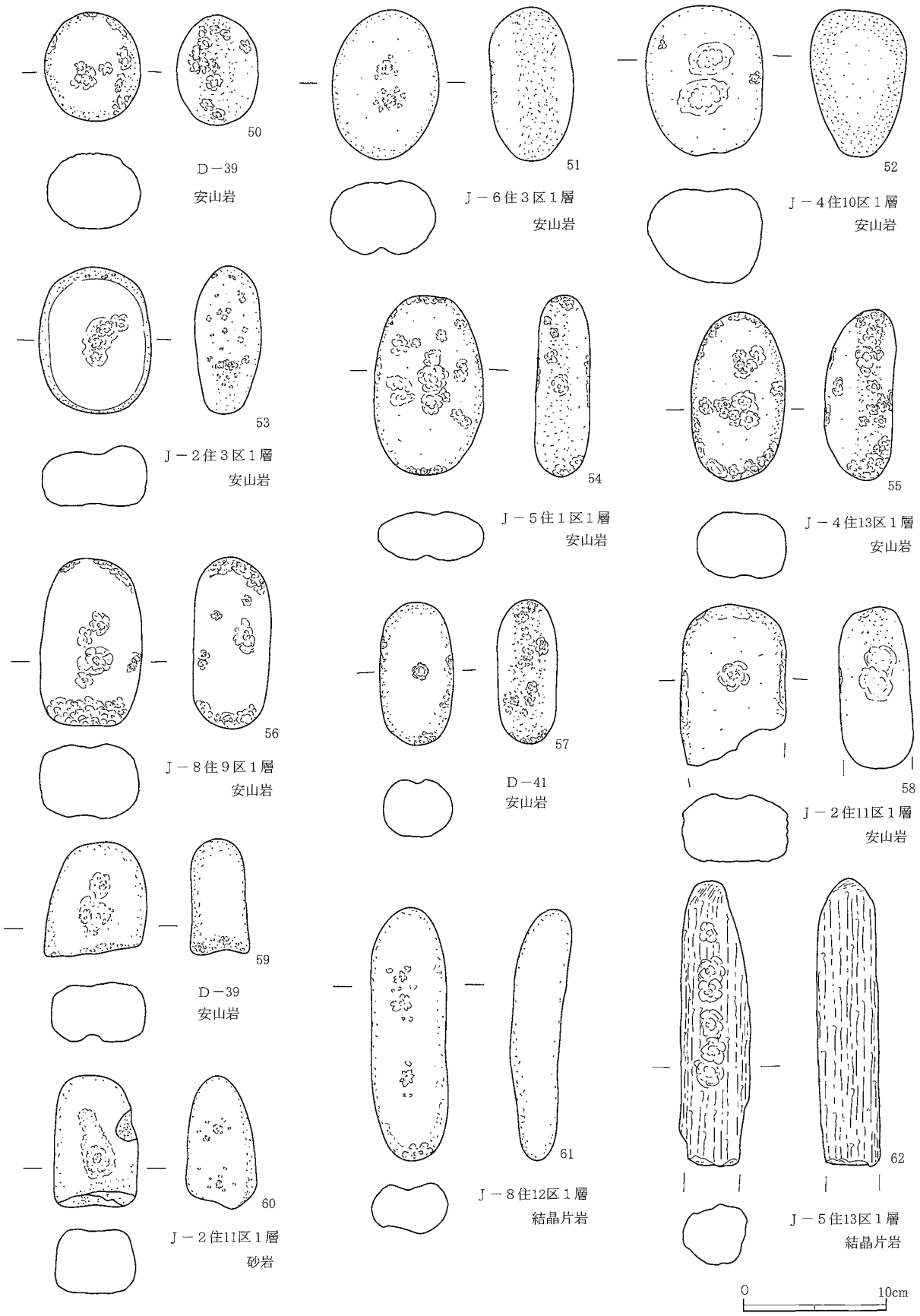
34
Ｊ－３住７区１層
頁岩

0　10cm

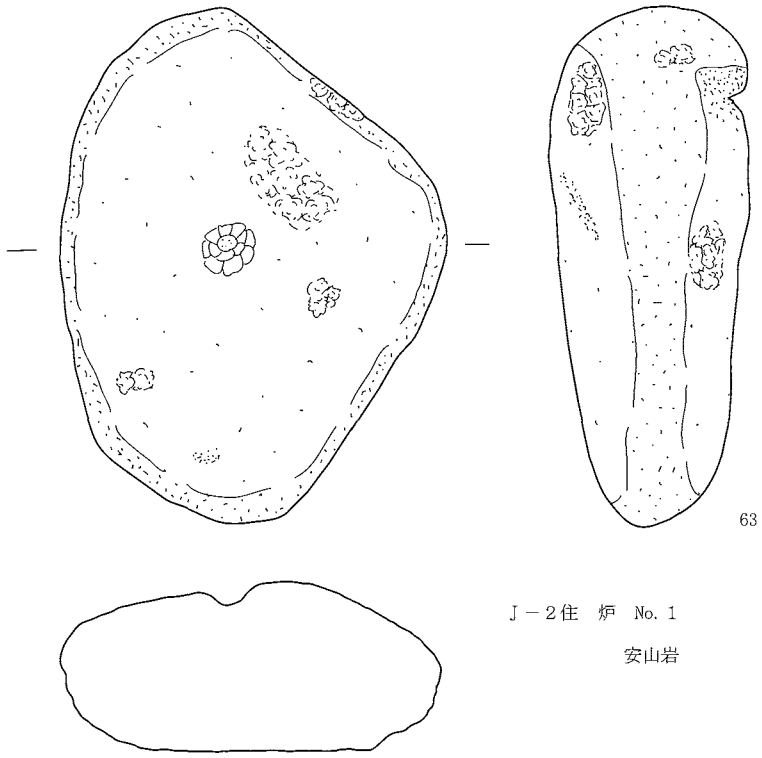
第28図　石器実測図（２）

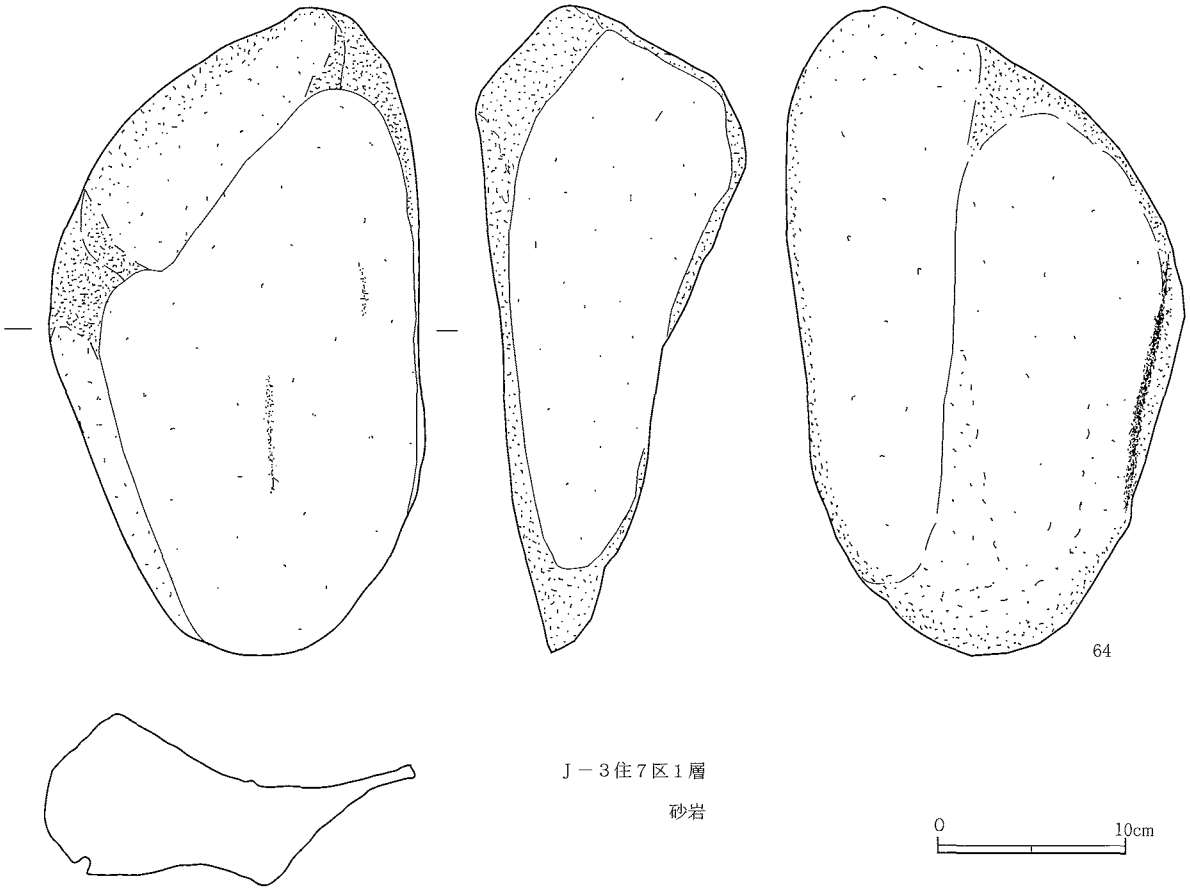

35
Ｊ－１住２区１層
安山岩
36
Ｊ－２住２区１層
頁岩
37
Ｊ－８住10区１層
安山岩
38
Ｊ－２住10区１層
結晶片岩
39
Ｊ－２住５区１層
緑色岩類
40
Ｊ－２住６区１層
頁岩
41
Ｊ－８住８区１層
頁岩
42
Ｄ－１
安山岩
43
Ｊ－５住　Ｐ－２
安山岩
44
Ｄ－16
安山岩
45
Ｊ－５住14区１層
安山岩
46
Ｊ－２住14区１層
安山岩
47
Ｊ－５住　No. 5
安山岩
48
Ｊ－５住　No. 1
安山岩
49
Ｊ－８住２区１層
安山岩
0
10cm

第29図　石器実測図（３）

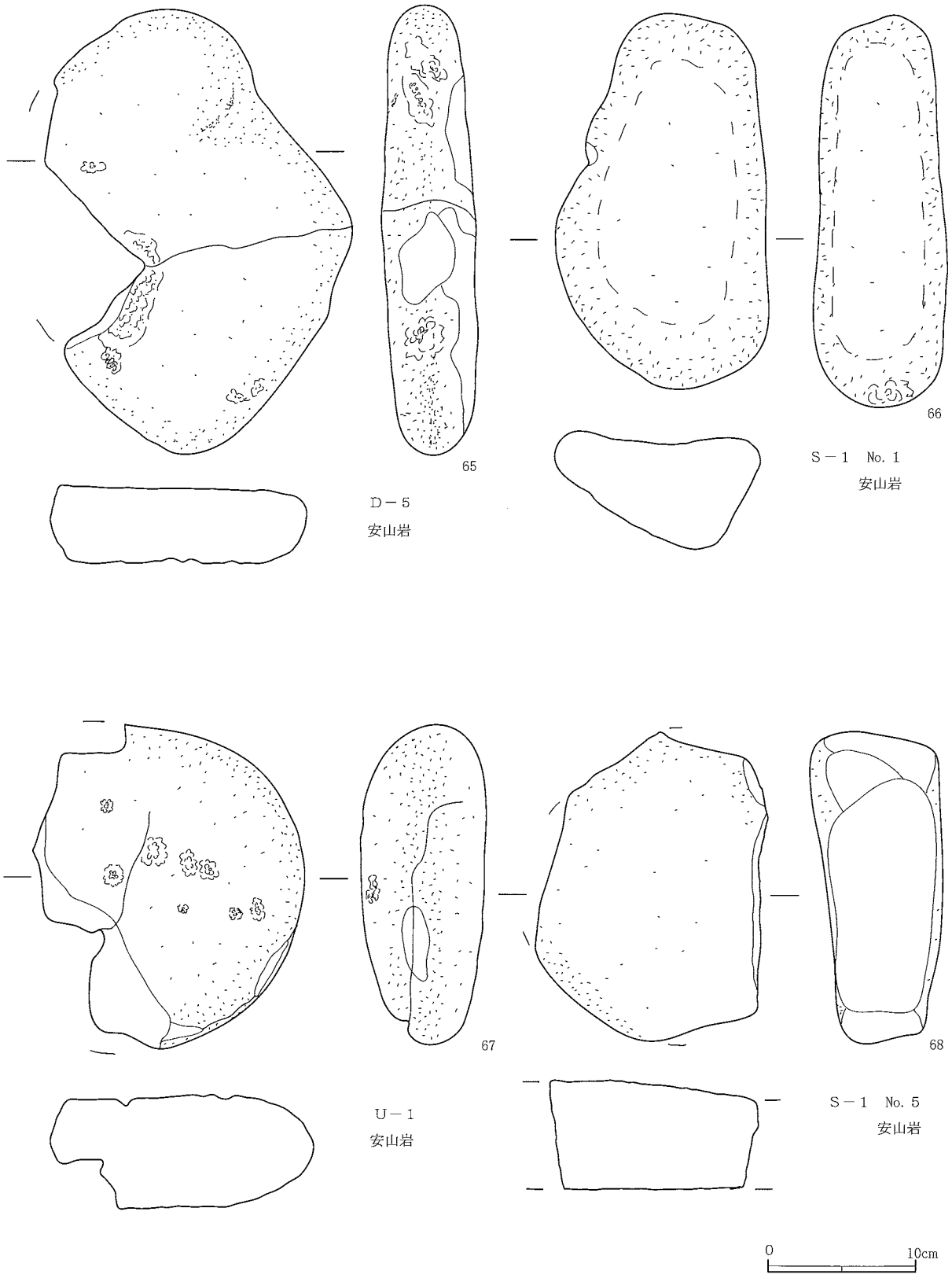

50
D－39
安山岩
51
J－6住3区1層
安山岩
52
J－4住10区1層
安山岩
53
J－2住3区1層
安山岩
54
J－5住1区1層
安山岩
55
J－4住13区1層
安山岩
56
J－8住9区1層
安山岩
57
D－41
安山岩
58
J－2住11区1層
安山岩
59
D－39
安山岩
60
J－2住11区1層
砂岩
61
J－8住12区1層
結晶片岩
62
J－5住13区1層
結晶片岩
0
10cm

第30図　石器実測図（4）

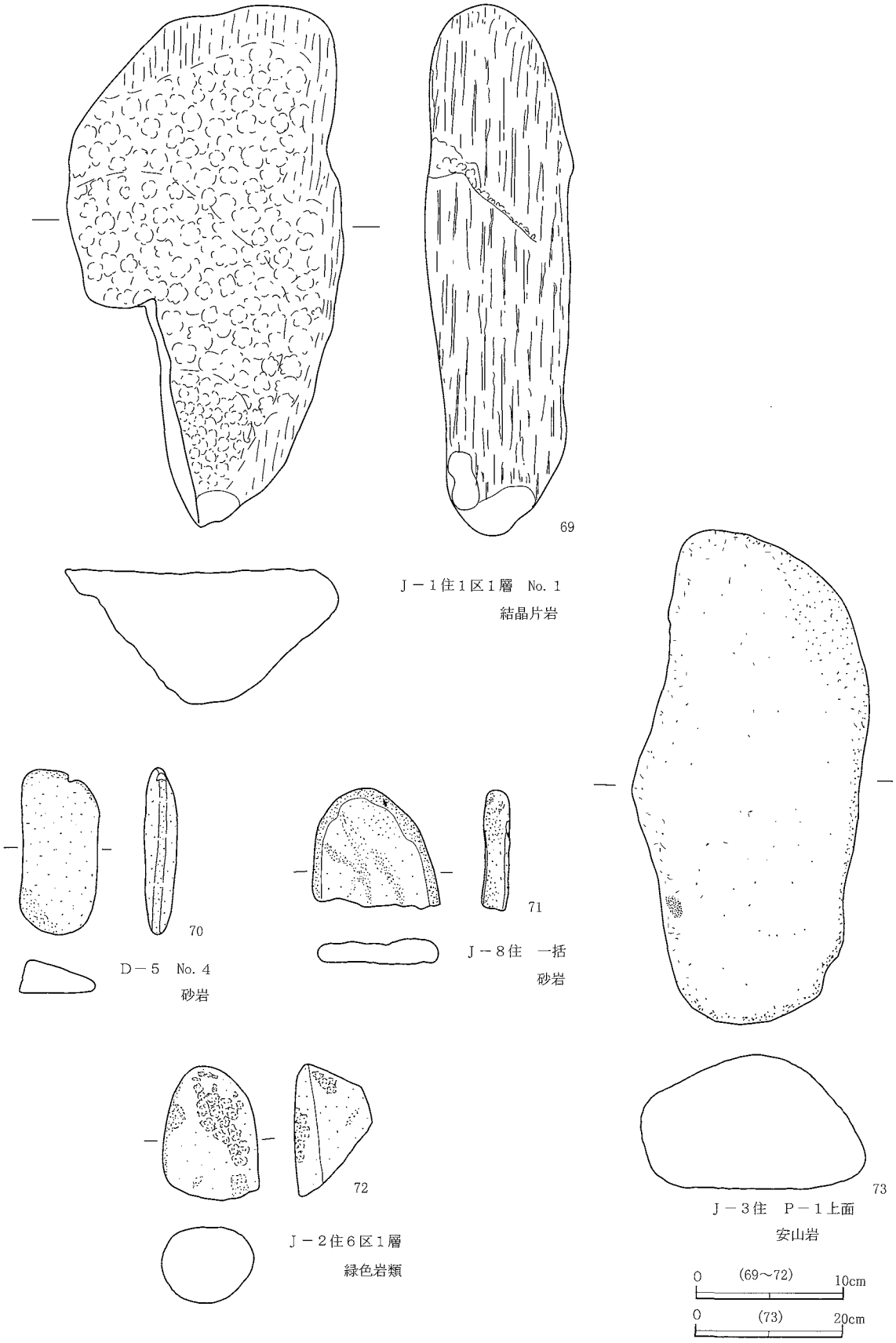




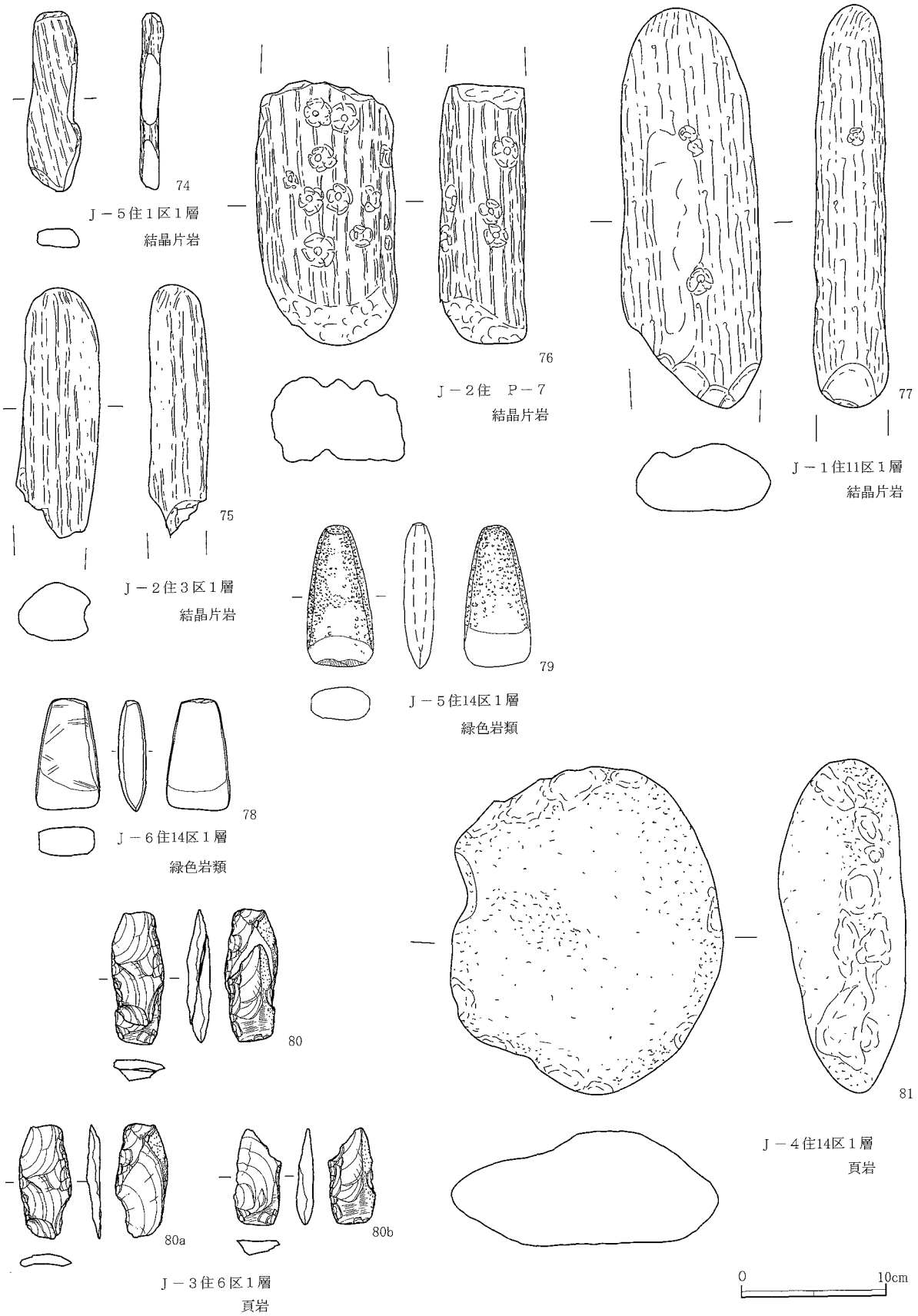
第31図　石器実測図（5）



第32図　石器実測図（6）


69
J－1住1区1層　No. 1
結晶片岩
70
D－5　No. 4
砂岩
71
J－8住　一括
砂岩
72
J－2住6区1層
緑色岩類
73
J－3住　P－1上面
安山岩
0　(69～72)　10cm
0　(73)　20cm

第33図　石器実測図（7）


74
Ｊ－５住１区１層
結晶片岩
76
Ｊ－２住　Ｐ－７
結晶片岩
77
Ｊ－１住11区１層
結晶片岩
75
Ｊ－２住３区１層
結晶片岩
79
Ｊ－５住14区１層
緑色岩類
78
Ｊ－６住14区１層
緑色岩類
80
81
Ｊ－４住14区１層
頁岩
80a
80b
Ｊ－３住６区１層
頁岩
0
10cm

第34図　石器実測図（８）

3　古代以降の遺構

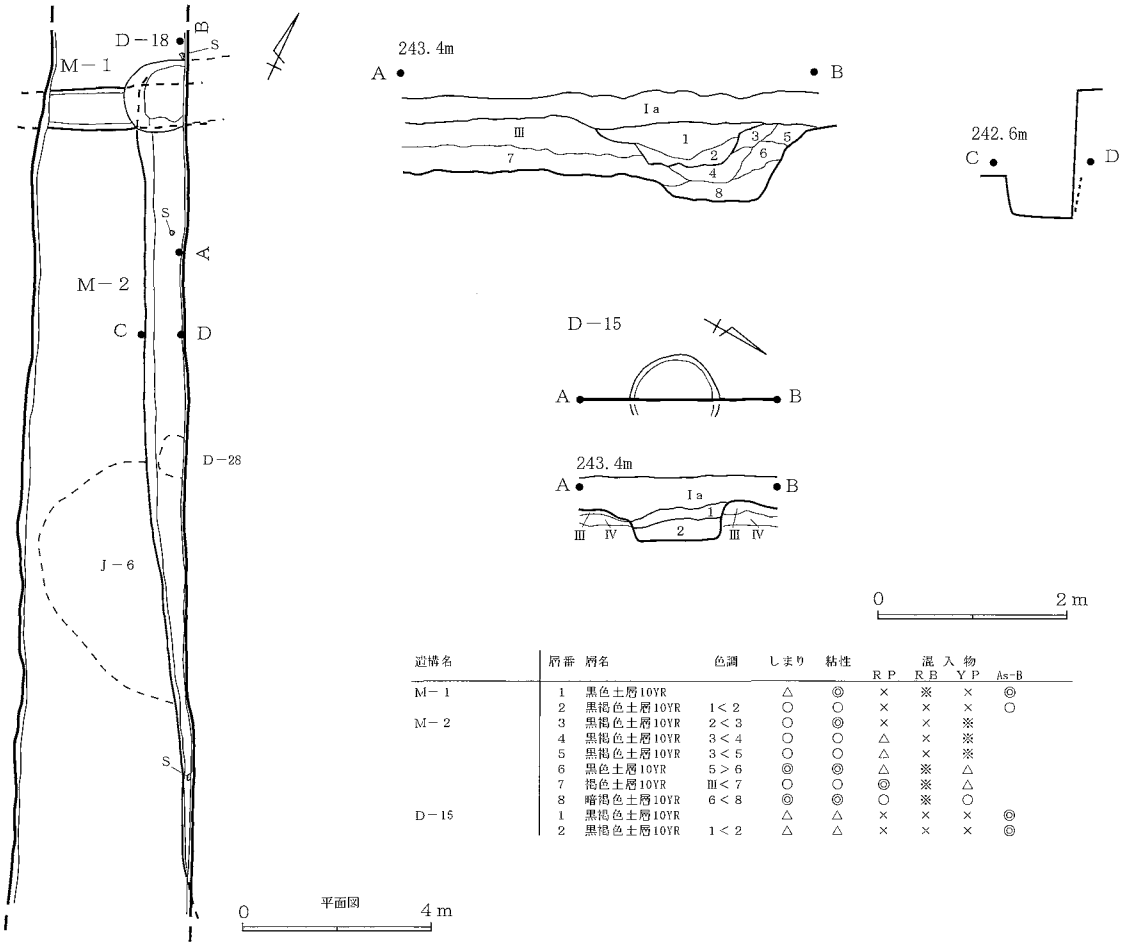
溝（第35図）

Ｍ－１号溝は、Ｍ－２号溝に直交して検出された。溝は東西方向に延びていると推定される。覆土に浅間Ｂ軽石を大量に含む。断面は浅い逆台形の掘り込みである（東側壁面参照）。覆土の状況から、古代末期（1108年前後）以降である。Ｍ－２号溝は、南側調査区に沿って約26ｍの長さで検出された。覆土は底部でローム混じりの埋め土が確認され、その上部にⅢ層の自然堆積（流れ込み）がみられた。Ｍ－１号溝との斬り合いが認められたが、覆土には浅間Ｂ軽石の混入はみられなかった。溝の形態は、幅約１ｍ程と推定され、断面は逆台形を呈する。溝の方向は、北側部分で東へ直角に曲がる。

同様の遺構は、日影遺跡で確認されている。西原遺跡周辺では、方形地割が確認できることから、中世の区画溝が存在していたと考えられる。

土坑（第35図）

Ｄ－15号土坑は、覆土に浅間Ｂ軽石を含む平面円形の土坑である。Ｍ－18号土坑は、Ｍ－２号溝の一部と思われ、土砂の流れ込みが確認できた。覆土の状況からＭ－２号溝より古い。



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
M－1	1	黒色土層10YR		△	◎	×	※	×	◎
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	○
M－2	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	◎	×	×	※	
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	※	
	5	黒褐色土層10YR	3＜5	○	○	△	×	※	
	6	黒色土層10YR	5＞6	◎	◎	△	※	△	
	7	褐色土層10YR	Ⅲ＜7	○	○	◎	※	△	
	8	暗褐色土層10YR	6＜8	◎	◎	○	※	○	
D－15	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×	◎

第35図　古代遺構実測図

Ⅳ　成果と問題点

1　縄文時代の遺構について

今回の発掘調査では、道路幅という限られた調査にもかかわらず、縄文時代中期後半の拠点的な集落が存在することを明らにした。本遺跡の集落の特徴は、勝坂式期から始まり、加曽利Ｅ１式期の新段階からＥ３式の古段階にかけてが中心時期になること。住居址及び土坑等の遺構重複が著しく、未調査部分を含めて相当数の遺構が存在する可能性があること。集落の形態が過去の調査結果を含め南側斜面に面した「環状集落」と推定され、住居址群の外側には遺物の廃棄範囲が存在することがあげられる。また、遺物の出土状況の特徴として、遺構上面は、遺物包含層（Ⅳａ層）に覆われていることが存在し、狭い範囲で多数の土器片及び石器が出土することが明らかとなった。

本報告では、横野台地における遺跡分布を中心に西原遺跡との関連性についてまとめることにする。本遺跡が存在する「横野台地」では、前期と中期の異なる時期の集落が、台地上で別々に分布する傾向があり、時期による集落占地の違いが認められる。市内における横野台地の中期遺跡の分布状況をみると、大規模環状集落（勝坂・阿玉台式期～加曽利Ｅ２式期）は、砂押遺跡（中野谷地区）、新堀東源ヶ原遺跡（松井田町新堀地区）で発見されている。当地域では、中期後半において加曽利Ｅ３式期で集落形態、規模に画期が認められ、今まで拡大していた環状集落が次第に衰退し、加曽利Ｅ３式期の中段階以降からＥ４式期の集落が台地一帯に点在する傾向がある。大上遺跡、荒神平・吹上遺跡、上ノ久保遺跡、大上遺跡、道前久保遺跡等では、住居址が少数の小規模集落跡が発見されている。さらに猫沢川左岸の台地では、大道南Ⅱ遺跡がある。横野台地一帯では、中期中葉まで、集落は大規模となるが、遺跡数は少ない。加曽利Ｅ３式期以降、遺跡分布は台地単位で増加するが、Ｅ２式期以前と比べ規模は小さい。加曽利Ｅ２式期までは、拠点的環状集落が集落形態の主体となるが、加曽利Ｅ３式期以降、集落が広域に分散する傾向がある。集落規模も１軒単位のものから10数件までみられるが、以前ほどの拠点的様相は崩れる。また、中期の集落は、前期の集落とは、基本的には重複が少ない傾向が認められる。同一台地における集落占地の違いは、偶然とは考えにくく、時期による集落構造の違いを反映していたものと考えられる。

中期後半の住居址は、平面円形で、柱穴４～６本、床中央に炉をもつのが特徴である。掘り込みが深く、柱穴も規則的に配置される形態とは別に、掘り込みが浅く、皿状となり、柱穴が不規則あるいは明確ではない形態が存在する。竪穴式には、構造の異なる２形態が存在することは、西原遺跡と同時期の集落が検出された人見東原Ⅱ遺跡、人見枝谷津遺跡等で確認されている。

横野台地では、最近の大規模調査によって、中期後半の集落が多数発見され、今まで集落が少ないとされてきた考えが大きく変わってきている。現段階では、横野台地の西から新堀東源ヶ原遺跡、砂押遺跡、西原遺跡の環状集落が存在し、その周辺部には、中期後葉以降の集落が点在する傾向が認められる。横野台地の遺跡分布の特徴については、今後の調査の増加によって変わる要素が多々あるため、進捗状況を待って集落構造等の課題について考察することにしたい。

第36図　西原遺跡周辺の中期集落範囲（1/2500、●印は住居址）

2　縄文時代の遺物について

本遺跡から出土した土器は、関東系の加曽利Ｅ式期を中心としている。加曽利Ｅ３式では、連弧文系、唐草文系あるいは佐久系（「郷土式」）の共伴がみられるが、総じて異系統の土器群の組成は少ない。

石器は、スクレイパーと打製石斧を主体にもち、磨石、凹石類の礫石器も安定して組成する中期に特徴的な石器組成の様相をもつことが判明した。道具の種類は少なく、各器種の型式変化も乏しい状況で、石器製作は、極めて限定的で、石材消費量も少ない傾向が認められた。特に前期では優位であった石鏃製作は低調で、搬入品が中心である。また、主要道具であるスクレイパー、打製石斧においても同様である。在地の石材は、礫石器に多用され、全体的に確立された石器製作は低い。こうした状況は、横野台地一帯における中期石器の組成を反映しており、時代性及び地域性を示したものと考えられる。

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴						時期
			①焼成	②胎土	③色調	④残存	⑤法量(cm)	⑥器形・文様等の特徴/備考	
1	J−1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	褐色	口縁部	−	口縁部は、二重口縁及び小突起をもち、区画内は無文。胴部に撚糸文を施す。	加曽利E1〜E2
2	J−1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・小礫含	灰褐	口縁部	−	平縁口縁。口縁部は、隆帯・沈線で渦巻・楕円等の文様が施され、区画内を縦位の短沈線を施文する。	加曽利E1〜E2
3	J−1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	明褐	口縁部	−	4単位波状口縁。口縁部は隆帯による二重口縁及び区画。区画内は無文。地紋は単節LR縄文。	加曽利E1〜E2
4	J−2	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	暗灰黄	口縁部〜胴部	口径:〈35.1〉 器高:〈15.5〉	平縁口縁。口縁部文様帯は2本の横位隆帯で区画される。区画内は棒状工具による縦位の沈線と刺突が施文される。胴部は口縁部文様帯を区画する下の隆帯から垂下する隆帯と蛇行隆帯が施される。単節RL縄文施文後、隆帯脇に幅広沈線を施す。	加曽利E3
5	J−2	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	明褐	口縁部〜胴部	口径:〈40.0〉 器高:〈22.5〉	平縁口縁。口縁部文様帯は隆帯により渦巻き状、楕円形状に区画され、区画内には単節RL縄文が施文される。区画内の隆帯脇に沿わせて沈線が施される。胴部は単節RL縄文。	加曽利E3
6	J−2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	明褐	口縁部〜胴部	−	地紋単節RL縄文に2本の沈線で縦・横位の区画に波状の沈線を施す。	加曽利E3
7	J−2	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	鈍い橙	口縁部	−	口縁部は、隆帯及び沈線で渦巻き・半円状の文様。区画内等は縦位の沈線を施す。	加曽利E3
8	J−2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	灰褐	口縁部	−	平縁口縁。口縁部の二重口縁下は縦位の沈線。	加曽利E3
9	J−2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	暗褐	口縁部	−	平縁口縁。口縁部に隆帯及び沈線による楕円等の文様、区画内には、単節RL縄文を施す。	加曽利E3
10	J−2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	明褐	口縁部	−	口縁部は、沈線と隆帯による楕円区画内に単節RL縄文を施す。	加曽利E3
11	J−2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	鈍い橙	口縁部	−	波状口縁。口縁部は2本の沈線で横位に区画し、区画内は棒状刺突具による2列の刺突文。地紋の単節RL縄文の上に3本の沈線による波状文（連弧文）。	加曽利E3
12	J−2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	暗褐	口縁部	−	折返し口縁（内側）。口縁部に2列の斜め刺突。地文は単節RL縄文で沈線による波状文等。11と類似。	加曽利E3
13	J−2	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	鈍い褐	口縁部	−	口縁部に沿って3本の沈線をめぐらし、沈線間に交互刺突を施す。地文は縦位の細い沈線、太い沈線で文様を施す。	加曽利E3
14	J−2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	橙	口縁部把手	−	口縁部に穿孔。橋状把手を付け、沈線で渦巻文を施す。	加曽利E2
15	J−2	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	鈍い橙	口縁部把手	−	橋状把手を付け、隆帯と沈線により渦巻文・横位の沈線文を施す。	加曽利E2
16	J−2	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	灰褐	胴部〜底部1/4	器高:〈6.6〉 底径:7.2	胴部はU字状の隆帯で区画し、区画内を縦位の沈線で充填する。底部には3単位の脚がつく。	加曽利E3
17	J−2	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	明黄褐	胴部〜底部	器高:〈11.8〉 底径:8.0	残存部位に限り無文。内面被熱のため剥落。	加曽利E3
18	J−2	器台	普通	砂粒・黒色鉱物含	橙	破片	−	器台。無文で2対の透かし穴あり。	加曽利E3
19	J−2	器台	普通	砂粒・黒色鉱物含	鈍い橙	破片	−	器台。地文単節RL縄文、器面削り。透かし穴あり。	加曽利E3
20	J−3	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒・小礫・片岩含	橙	口縁部	−	口縁部は、隆帯と太い沈線による渦巻・楕円形の文様を施す。地文は単節RL縄文。	加曽利E2
21	J−3	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	鈍い褐	口縁部	−	口縁部は平面的な隆帯に沈線による渦巻の文様を施す。	加曽利E2
22	J−3	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	にぶい褐	口縁部	−	口縁部は隆帯と沈線で文様を施し、区画内は縦位の沈線。	加曽利E2
23	J−3	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	明褐	口縁部〜胴部	−	沈線による渦巻文と幾何学文を施す。円形の突起が付く。	加曽利E2
24	J−3	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	灰褐	胴下半部	−	地文単節RL縄文	加曽利E2
25	J−3	深鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	にぶい黄橙	胴部〜底部1/3	器高:〈7.2〉 底径:6.1	単節LR縄文施文後、U字状と想定される隆帯で区画する。区画間は摘み状の小突起で連結される。区画内には縦位の蛇行する隆帯を施す。隆帯脇に沿わせて棒状工具による沈線を施文する。	加曽利E2

第5表　縄文土器観察表（1）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴						時期
			①焼成	②胎土	③色調	④残存	⑤法量(cm)	⑥器形・文様等の特徴/備考	
26	J−3	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	橙	底部	−	底部平底。地文は単節RL縄文。胴部は隆帯と沈線による懸垂文。	加曽利E２
27	J−3	部位不明	普通	砂粒・黒色鉱物含	鈍い褐	不明	−	器種、部位不明。沈線による渦巻き、波状の文様を施す。	加曽利E２
28	J−4	深鉢	良好	砂粒・　黒色鉱物含	にぶい褐	口縁部〜胴部	器高：〈18.9〉　口径：(37.8)	８単位の小波状口縁と想定される。口縁部文様帯は２本１組の隆帯で弧状に区画後、区画内に斜位の沈線を充填する。胴部は波頂部から垂下する隆帯、及び口縁部を区画する弧状隆帯の最下部から縦位に垂下する蛇行隆帯により区画される。区画内は横位・縦位・斜位の沈線で充填される。	加曽利E３
29	J−4	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	灰褐	口縁部	−	口縁部の区画内には縦位の沈線を施す。地文には条線。口縁部に煤付着。	加曽利E３
30	J−4	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	鈍い褐	胴部	−	胴部に蛇行する条線を施す。	加曽利E３
31	J−4	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・小礫含	鈍い褐	底部		地文は無文。	加曽利E３
32	J−4	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	明褐	底部〜胴下半部	−	地文は無文で斜縦位の沈線文と隆帯による懸垂文。	加曽利E３
33	J−5	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	鈍い褐	口縁部	−	口縁部は隆帯による渦巻文と区画。	加曽利E３
34	J−5	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	鈍い褐色	口縁部	−	波状口縁。太い沈線による渦巻文を施し、区画する。地文と区画内は単節RL縄文。縦位の沈線。	加曽利E３
35	J−5	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	暗褐	口縁部	−	口縁部の太い沈線内に波状貼付文を施し、交互の円形刺突。地文は単節RL縄文で３本の沈線による連弧文。	加曽利E３
36	J−5	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	橙	底部	−	平底。縦位・横位の沈線文。	加曽利E３
37	J−5	深鉢	普通	砂粒・繊維	黒褐	口縁部	−	波状口縁。地文は縄文。鋸歯状の平行沈線文。円形貼付文が２カ所。	関山Ⅱ
38	J−5	深鉢	普通	砂粒・白色粒・繊維	灰褐	胴部	−	２種類の縄文原体による横位区画。その間にループ文。上部には円形貼付文。	関山Ⅱ
39	J−6	深鉢	普通	砂粒・　黒色鉱物含	橙	口縁部〜胴部	口径：(18.6)　器高：〈15.0〉	平縁口縁と想定される。口縁部文様帯は横位隆帯と縦位隆帯で楕円形状に区画される。下部の横位隆帯の頂部には横位沈線が施され、沈線により分割された上部隆帯の頂部には丸棒状工具による刺突が施される。区画内は丸棒状工具による横位の連続刺突と隆帯脇に沿わせて沈線が施文される。胴部には縦位の条線が施文される。	加曽利E１〜E２
40	J−6	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	橙	胴部1/3	器高：〈21.4〉	無節Lの撚糸文を縦位に施文後、２本１組の横位隆帯を胴部上位に施す。内１本は刻みが施される。胴部中位には刻みを施した隆帯を横位に施す。	加曽利E１〜E２
41	J−6	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	赤褐	口縁部	−	口縁部は隆帯と沈線で文様を施し、区画内は単節RL縄文。赤色塗彩痕あり。	加曽利E１〜E２
42	J−6	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	橙	口縁部	−	口縁部は隆帯と沈線による渦巻等の文様を施し、区画内は単節LR縄文。44と同一個体。	加曽利E１〜E２
43	J−6	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	鈍い褐	口縁部	−	口縁部に沿って平行する３本の隆帯。中央の隆帯には、円形刺突が施される。。地文は縦位の撚糸文。	加曽利E１〜E２
44	J−6	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	橙	口縁部	−	地文は単節LR縄文。胴部には、沈線による懸垂文。	加曽利E１〜E２
45	J−6	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	鈍い黄橙	頸部	−	沈線による横位の文様を施す。隆帯には、刺突文と単節RL縄文。	加曽利E１〜E２
46	J−6	浅鉢？	普通	砂粒・黒色鉱物含	鈍い橙	口縁部	−	沈線で平行、波状の文様を施す。頸部隆帯には斜位の刺突。	加曽利E１〜E２
47	J−6	浅鉢？	普通	砂粒・黒色鉱物含	橙	頸部	−	沈線で平行、波状の文様を施す。頸部隆帯には縦位の刺突。	加曽利E１〜E２
48	J−6	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	赤褐	胴部	−	刻みのある隆帯により文様帯を区画し、胴部には隆帯と沈線により文様を施す。地文は縦位の撚糸文。	加曽利E１〜E２
49	J−6	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	赤褐	底部	−	底部平底。地文RL縄文に３本の沈線による縦位の懸垂文。	加曽利E１〜E２
50	J−6	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	橙	底部	−	平底。地文は縦位の撚糸文。	加曽利E１〜E２
51	J−7	深鉢	普通	砂粒	暗褐	胴部	−	連続刺突文。	勝坂式

第６表　縄文土器観察表（２）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴						時期
			①焼成	②胎土	③色調	④残存	⑤法量(cm)	⑥器形・文様等の特徴/備考	
52	J－8	深鉢	良好	砂粒・　黒色鉱物含	にぶい黄褐	口縁部～胴部	口径：(34.2)　器高：〈14.9〉	4単位波状口縁と想定される。波頂部には隆帯による渦巻き状の突起が施される。胴部及び口縁部文様帯に0段多条RL縄文を施文する。頸部と胴部は2条の横位沈線により区画される。口縁部文様帯は隆帯により楕円形状に区画され、区画内の隆帯脇には沈線を施す。楕円形状の区画間は摘み状の小突起、渦巻き状の突起が施される。胴部には斜位の並走する沈線が施される。	加曽利E1～E2
53	J－8	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒	褐	口縁部	－	口縁部は隆帯と沈線で渦巻、楕円形の文様、突起を施し、区画内は、単節LR縄文。文様帯下部は無文。	加曽利E1～E2
54	J－8	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	鈍い橙	口縁部	－	口縁部は、隆帯と沈線により、渦巻き、楕円形の文様を施し、区画内は単節RL縄文。頸部は無文で、胴部は横位の沈線で区画される。	加曽利E1～E2
55	J－8	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	鈍い橙	口縁部	－	口縁部は、隆帯と沈線により楕円形の文様を施す。区画内は単節RL縄文。	加曽利E1～E2
56	J－8	鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	にぶい黄橙	口縁部～胴部	口径：(24.0)	波状口縁と想定される。口縁部文様帯は上位が横位沈線、下位は頂部に横位沈線が施される。下位の隆帯には刻みが施されている。区画内には山形の隆帯、円形状・鋸歯状の沈線を充填する。胴部は無文。	加曽利E1～E2
57	J－8	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	にぶい橙	口縁部～底部1/3	－	口縁部は、外傾し、直下に横位沈線を施す。体部は、無文。	加曽利E1～E2
58	J－8	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	橙	胴部	－	胴部は、縦位の隆帯で文様を施し、区画内は単節RL縄文と縦位の波状隆起文。曽利系。	加曽利E1～E2
59	J－8	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・小礫含	鈍い褐	口縁部	－	口縁部は連続するキャタピラ文、ペン先状刺突文で文様を施す。隆帯による環状の突起が付く。	加曽利E1～E2
60	J－8	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	暗褐	胴部	－	頸部は無文。文様帯の区画には3本の平行沈線。地文は単節LR縄文。	加曽利E1～E2
61	J－8	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	明褐	胴部	－	成形等は60と同じ。	加曽利E1～E2
62	J－8	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	鈍い褐	胴部	－	地文は単節RL縄文。胴部は隆帯と沈線による波状懸垂文。	加曽利E1～E2
63	J－8	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・小礫含	橙	底部	－	底部穿孔。地文は単節RL縄文。縦位の沈線文を施す。	加曽利E1～E2
64	U－1	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	橙	口縁部～底部3/4	口径：36.5　器高：43.7　底径：7.5	4単位波状口縁。口縁部文様帯は渦巻き状、楕円形状の隆帯で区画後、複節RLR縄文を施文する。隆帯脇には幅広沈線が施文される。胴部は2本1組の並走する縦位の沈線及び2本1組の内一方が上端部蕨手状の縦位の沈線が施される。沈線間は磨り消し。	加曽利E3
65	U－2	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	明黄褐	ほぼ完形	口径：22.0　器高：34.5　底径：6.8	平縁口縁。単節RL縄文を施文後、逆U字状の沈線を縦位に施文し7区画に分画する。内6区画は沈線間に上端部蕨手状の沈線を縦位に施文する。沈線間は磨り消し。	加曽利E3
66	U－3	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒・小礫含	赤褐	底部	－	底部平底。地文は単節LR縄文。	中期後半
67	D－1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	にぶい褐	胴部～底部	器高：〈39.0〉　底径：13.0	胴部は矢羽根状の刻みが施された縦位、横位、弧状、渦巻き状の隆帯により区画される。隆帯脇には浅い沈線が施される。区画内は丸棒状工具による押引文、縦位・横位・渦巻き状・U字状の沈線、三叉文及び円形の隆帯が施文される。胴部下位は無文。	勝坂3
68	D－1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	明褐	底部	器高：	底部平底。地文は無文で沈線による方形、曲線の文様を施す。	勝坂3
69	D－1	深鉢	普通	砂粒・チャート含	にぶい黄橙	口縁部～胴部	口径：(17.8)　器高：〈19.1〉	平縁口縁。口縁部から垂下する2本1組で撚り合わせた上端部がY字状になる隆帯で縦に4区画に分画していたと想定される。2本の隆帯が交わる箇所には横位の隆帯が施される。胴部は2本一組の横位隆帯を3段に廻らし区画する。中位の隆帯には刻みが施される。区画内は木口状工具による押引文・縦位の沈線によって充填したのち、同様の工具でU字状沈線を施す。口縁部と胴部下位は無文。	勝坂3
70	D－22	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	明褐	口縁部	－	口縁部の渦巻状把手に太い沈線で文様を施す。	加曽利E1～E2
71	D－25	浅鉢	良好	砂粒・黒色鉱物含	橙	口縁部	－	口縁部にやや浅い沈線で区画。体部は無文。	中期後半
72	D－27・U－1	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	橙	胴部～底部3/4	器高：〈33.6〉　底径：10.7	0段多条LR縄文が施文される。	加曽利E1～E2
73	D－28	鉢	普通	砂粒・チャート・黒色鉱物含	浅黄橙	口縁部～胴部	口径：(17.5)　器高：〈29.3〉	平縁口縁。口縁部無文。口縁と胴部は2本1組の横位隆帯により隔される。隆帯間には4単位の橋状把手が付されると想定される。胴部は無節L縄文が施文される。	加曽利E4

第7表　縄文土器観察表(3)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴						時期
			①焼成	②胎土	③色調	④残存	⑤法量(cm)	⑥器形・文様等の特徴/備考	
74	D−39	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	赤褐	頸部	−	沈線による渦巻文。隆帯には連続刺突文。	加曽利E1〜E2
75	D−39	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	赤褐	底部	−	平底。地文単節RL縄文。	中期後半
76	D−43	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	赤褐	口縁部	−	口縁部は、隆帯と沈線により文様を施し、区画内は単節RL縄文。	加曽利E2
77	D−32	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	褐灰	口縁部	−	口縁部に橋状把手が付く。口唇部は無文で隆帯によって区画される。地文は単節LR縄文。	加曽利E4
78	D−32	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	黄橙	口縁部	−	口縁部に沿って隆帯で区画する。地文は無節L縄文。隆帯による縦位の楕円形区画。	加曽利E4
79	D−32	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	鈍い褐	口縁部	−	口縁部無文帯下に横位沈線。地文は細い単節LR縄文。	称名寺1
80	D−32	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	灰褐	口縁部	−	79と同一個体。胴部は、沈線渦巻文。沈線間は無文。	称名寺1
81	D−32	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	褐灰	口縁部	−	波状口縁。沈線J字文。波頂部下に縦位隆帯刺突。	称名寺1
82	D−32	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	褐灰	口縁部	−	82と同一個体。波頂部に渦巻状の突起が付く。頂部から縦位の穿孔。	称名寺1
83	J−2	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	鈍い赤褐	口縁部	−	器体は無文。内外面に赤色塗彩。内面に黒色付着物。	中期後半
84	J−2	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	橙	胴部	−	器体は無文。内外面に赤色塗彩。	中期後半
85	J−2	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	鈍い赤褐	口縁部	−	器体は無文。内外面に赤色塗彩。内面に黒色付着物。	中期後半
86	J−2	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	橙	胴部	−	器体は無文。内面に赤色塗彩・黒色付着物。	中期後半
87	J−3	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒含	橙	胴部	−	器体は無文。内外面に赤色塗彩。内面に黒色付着物。	中期後半
88	J−6	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色粒・小礫含	橙	口縁部	−	器体は無文。内外面に赤色塗彩	中期後半
89	J−8	浅鉢	普通	砂粒・黒色鉱物含	にぶい橙	胴部	−	器体は無文。内面に赤色塗彩。	中期後半

凡例:(　)は推定　〈　〉は残存値

第8表　縄文土器観察表(4)

挿図番号	登録番号	出土位置	器種	形態	石材	欠損	被熱	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
1	AT07	J－8住炉	石鏃	I	Ch			19.32	9.65	2.58	1.1
2	AT04	J－2住6区1層	石鏃	I片脚	Ob	○		24.37	11.85	2.20	0.7
3	AT19	J－8住8区1層	石鏃	I先端片脚	Ch	○		20.92	12.05	2.68	0.8
4	AT05	J－5住2区1層	石鏃	I	Ob			17.25	11.00	2.82	0.8
5	AT06	J－7住12区1層	石鏃	I	Ob			17.57	13.45	3.11	0.7
6	AT08	M－1（R－2d）	石錐	Ia	Ob			32.46	7.09	4.76	1.1
7	AT09	W－2a	楔		Ob			20.14	20.72	6.74	3.4
8	AT02	J－3住15区1層	ScA	II片	Ch			54.08	27.89	9.83	16.1
9	AT03	D－32	ScA	III	Ch			41.70	33.33	9.61	15.4
10	AT01	J－3住7区1層	ScA	II両	BAn			68.75	51.15	10.46	52.1
11	BT01	J－5住9区1層	ScB	II片	Sh			67.22	43.83	11.02	42.7
12	BT04	D－39	ScB	II両	Sh			59.50	70.12	7.66	47.6
13	BT06	J－5住12区2層	ScB	II片	Sh			50.68	51.09	13.89	31.3
14	BT05	J－2住9区1層	ScB	III	Sh			50.70	55.25	13.98	38.6
15	BT10	J－2住3区1層	ScB	II横刃	An			44.76	86.52	9.56	68.4
16	BT07	D－42	ScB	III横刃	Sh			46.04	92.05	7.44	40.1
17	BT09	J－8住8区1層	ScB	III	Sh			61.47	129.39	6.05	51.4
18	BT03	D－42	ScB	II横刃	Sh			92.04	40.36	8.70	52.2
19	BT08	J－2住5区1層	ScB	III横刃	Sh			83.85	41.11	8.10	34.1
20	BT16	J－8住11区1層	打製石斧	II	Sh			124.06	48.53	17.78	141.3
21	BT17	D－40	打製石斧	II	An			120.13	43.81	18.47	144.9
22	BT21	J－8住8区1層	打製石斧	II	An			126.04	49.08	18.92	157.2
23	BT29	J－2住14区1層	打製石斧	II	Sh			113.05	38.89	13.73	85.5
24	BT18	J－8住一括	打製石斧	II	Sh			118.34	43.17	14.00	113.2
25	BT27	J－2住3区1層	打製石斧	II・ノミ状	Sh			116.10	35.66	23.63	126.0
26	BT30	J－3住7区1層	打製石斧	II	Sh			117.54	35.22	18.81	95.6
27	BT12	D－44	打製石斧	II	An	○		115.28	50.53	19.82	132.7
28	BT22	J－2住7区1層	打製石斧	II	Sh			146.36	50.35	21.08	184.0
29	BT25	J－4住10区1層	打製石斧	II	GrR			131.20	36.04	26.67	194.4
30	BT23	D－42	打製石斧	II	Sh			111.63	38.64	20.94	118.6
31	BT13	J－2住3区1層	打製石斧	II	Sh			113.32	42.92	13.68	102.0
32	BT15	J－2住1区1層	打製石斧	II	Sh			104.22	38.77	13.93	72.1
33	BT34	J－2住5区1層	打製石斧	II	Sc			108.09	44.04	12.41	80.5
34	BT31	J－3住7区1層	打製石斧	II	Sh			115.35	45.27	18.43	149.6
35	BT14	J－1住2区1層	打製石斧	II	An			127.27	47.57	20.41	158.9
36	BT24	J－2住2区1層	打製石斧	II	Sh			95.70	32.06	15.15	60.2
37	BT20	J－8住10区1層	打製石斧	II	An			130.36	17.92	19.25	185.2
38	BT33	J－2住10区1層	打製石斧	II	Sc			96.40	38.73	12.14	56.8
39	BT32	J－2住5区1層	打製石斧	II	GrR			92.19	44.79	7.88	53.9
40	BT28	J－2住6区1層	打製石斧	II	Sh			110.95	35.85	18.11	95.1
41	BT02	J－8住8区1層	打斧未成品	II	Sh			106.77	45.55	15.17	74.1
42	C1T13	D－1	磨石	III	An			68.64	28.21	24.04	62.3
43	C1T19	J－5住P－2	磨石	III	An			66.74	28.92	20.57	62.4
44	C1T16	D－16	磨石	III	An			84.46	36.00	20.28	78.0
45	C1T20	J－5住14区1層	磨石	II	An			85.05	43.78	27.37	156.4
46	C1T14	J－2住14区1層	磨石	III	An			177.35	49.46	47.70	626.0
47	C1T17	J－5住No.5	磨石	II	An			133.67	71.90	41.53	590.7
48	C1T18	J－5住No.1	磨石	II	An		○	126.43	70.24	38.62	482.2
49	C1T15	J－8住2区1層	球石（磨）		An			51.15	44.97	40.49	118.5
50	C1T10	D－39	凹石	Ib	An			76.20	64.14	54.63	327.1
51	C1T04	J－6住3区1層	凹石	IIb	An			100.68	77.41	50.60	580.7
52	C1T06	J－4住10区1層	凹石	IIb	An			99.23	80.43	64.96	747.1
53	C1T05	J－2住3区1層	凹石	IIb	An			98.89	74.61	42.03	479.8
54	C1T07	J－5住1区1層	凹石	IIb	An			122.96	75.56	34.80	481.7
55	C1T11	J－4住13区1層	凹石	IIb	An			116.15	63.49	46.36	448.9
56	C1T12	J－8住9区1層	凹石	IVb	An			115.59	69.23	51.78	647.7
57	C1T08	D－41	凹石	IIIb	An		○	97.42	49.62	38.12	274.8
58	C1T09	J－2住11区1層	凹石	IVb	An	○		99.20	71.91	47.87	632.0
59	C1T03	D－39	凹石	IIb	An	○		75.72	67.11	42.96	318.5
60	C1T01	J－2住11区1層	凹石	IVb	SS	○		81.32	55.55	46.03	371.6
61	C1T02	J－8住12区1層	凹石	IIIb	Sc			169.33	54.79	31.75	568.2
62	C1T21	J－5住13区1層	凹石	IIIc	Sc			193.27	47.25	40.92	662.9
63	C2T05	J－2住炉No.1	台石	凹有	An			249.00	199.00	96.00	6450.0
64	C2T06	J－3住7区1層	砥石(台石)	III	SS			295.00	206.00	133.00	3905.0
65	C1T22	D－5	石皿	IIIb	An	○		243.00	232.00	51.28	4550.0
66	C1T70	S－1No.1	石皿	IIa	An			252.00	138.86	83.35	3505.0
67	C1T71	U－1	石皿	Ib	An	○		204.00	179.00	71.19	3650.0
68	C1T72	S－1No.5	石皿	不明	An	○		193.00	144.57	76.74	3900.0
69	C1T23	J－1住1区1層No.1	石皿	IIb	Sc			336.00	185.00	94.00	7150.0
70	C2T01	D－5No.4	砥石	I	SS			108.56	52.89	22.49	132.9
71	C2T02	J－8住一括	砥石	I	SS			78.00	84.17	14.77	137.2
72	C2T03	J－2住6区1層	敲石	II	GrR	○		89.24	60.89	52.62	446.4
73	C2T18	J－3住P－1	台石		An			65.20	31.00	18.00	54600.0
74	DT02	J－5住1区1層	棒状礫		Sc			121.44	34.91	12.96	87.9
75	DT01	J－2住3区1層	棒状礫		Sc			168.70	45.12	42.79	588.7
76	DT04	J－2住P－7	多孔石		Sc			174.54	92.43	58.41	1760.2
77	DT03	J－1住11区1層	多孔石		Sc			266.50	93.50	44.76	2044.3
78	ET02	J－6住14区1層	磨製石斧	IIb	GrR			77.21	43.41	18.88	107.3
79	ET03	J－5住14区1層	磨製石斧	IIa	GrR			99.30	45.26	21.71	168.4
80	ET01	J－3住6区1層	磨製石斧	刃部研磨	Sh	○		(87.64	(35.31	(14.20	49.2
81	BT37	J－4住14区1層	原石		Sh			217.00	288.00	91.00	4425.0

第9表　石器観察表

写 真 図 版

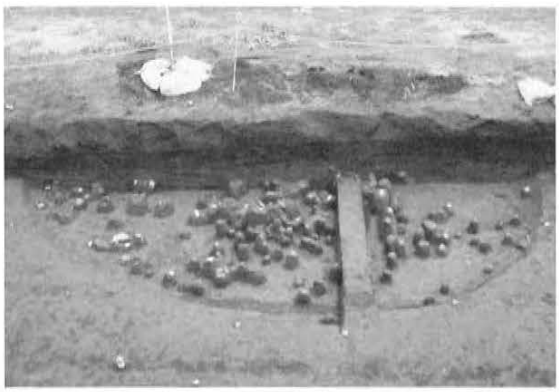
西原遺跡　全景

西原遺跡（北側）

西原遺跡（南側）

図版2

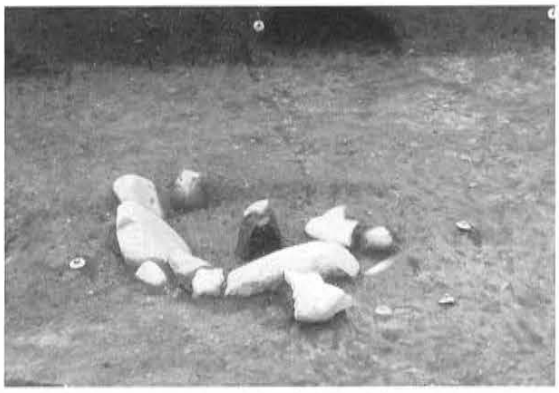
Ｊ－１号住居址　全景



Ｊ－１号住居址　遺物出土状況

Ｊ－２号住居址　全景

Ｊ－２号住居址　遺物出土状況



Ｊ－２号住居址　炉

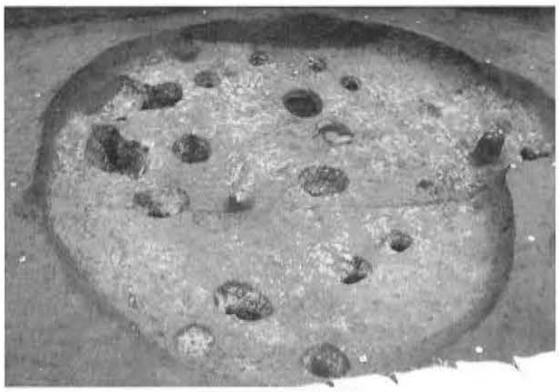
Ｊ－３号住居址　全景

Ｊ－３号住居址　遺物出土状況

Ｊ－３号住居址　炉

Ｊ－４号住居址

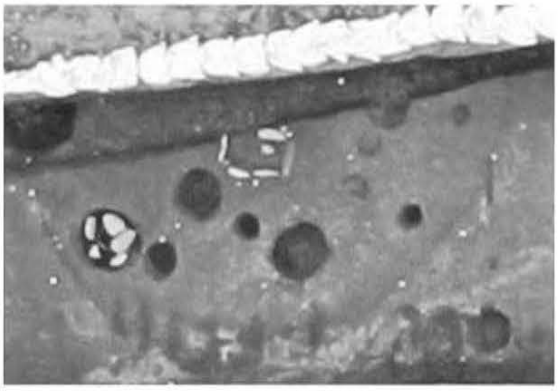
Ｊ－４号住居址　遺物出土状況



Ｊ－５号住居址

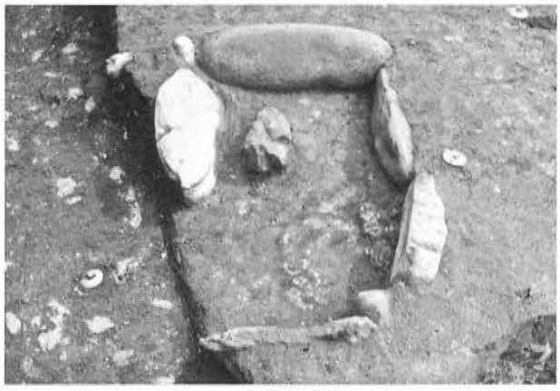
Ｊ－５号住居址　遺物出土状況

Ｊ－５号住居址　炉セクション



Ｊ－６号住居址

Ｊ－６号住居址　遺物出土状況



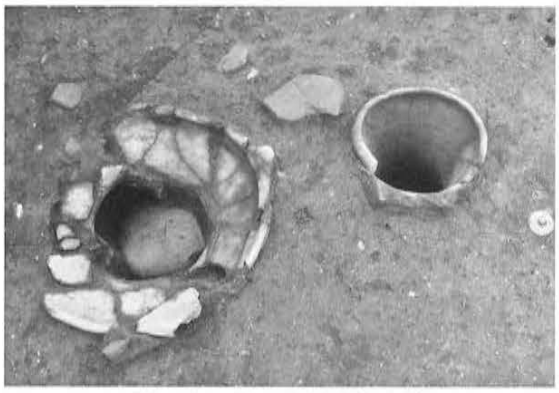
Ｊ－６号住居址　炉

図版4

Ｊ－８号住居址

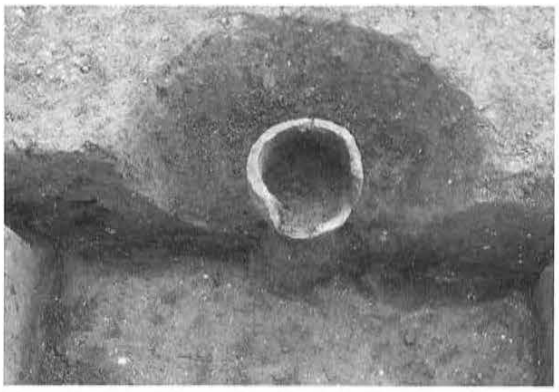
Ｊ－８号住居址　遺物出土状況

Ｊ－８号住居址　炉



Ｕ－１・Ｕ－２号埋設土器

Ｕ－１・Ｕ－２号埋設土器　土層断面



Ｕ－３号埋設土器

Ｄ－１号土坑

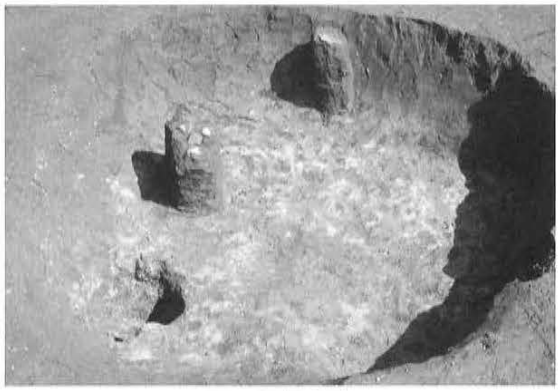
Ｄ－２号土坑

D－5号土坑

D－6号土坑

D－7号土坑

D－8号土坑



D－9号土坑

D－10号土坑

D－12号土坑

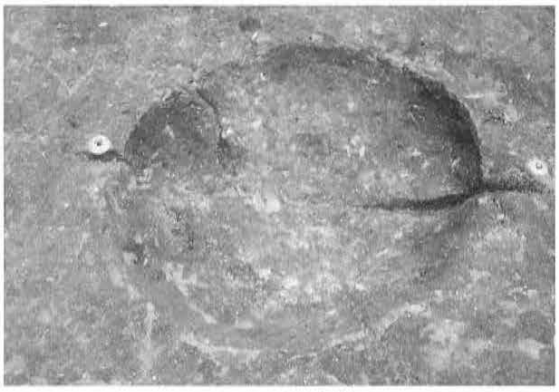
D－13号土坑

図版6

D－14号土坑

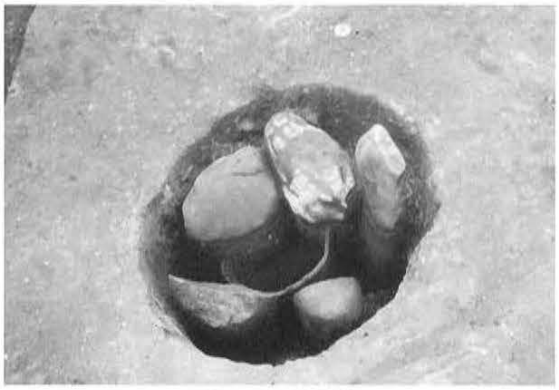
D－16号土坑

D－19号土坑

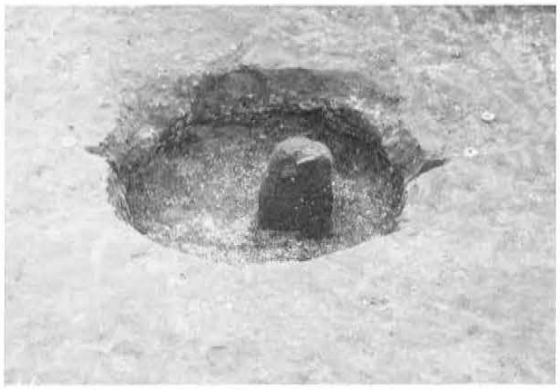


D－20号土坑

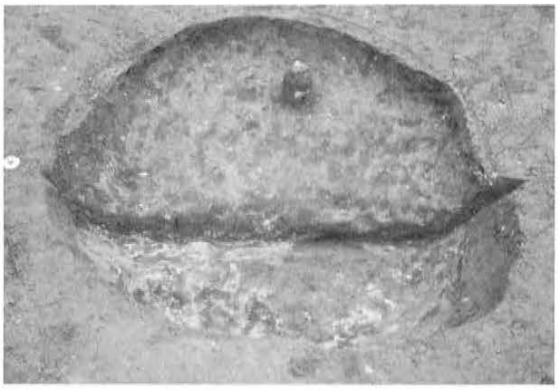
D－23号土坑



D－27号土坑

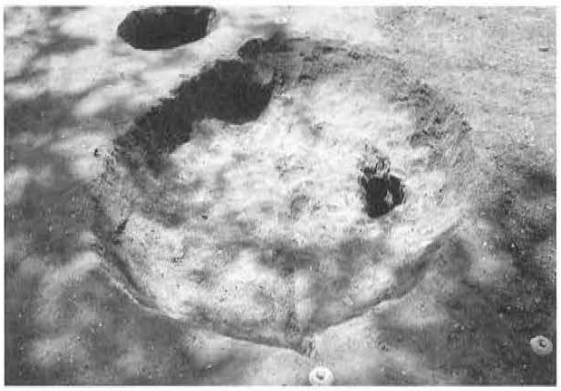


D－29号土坑

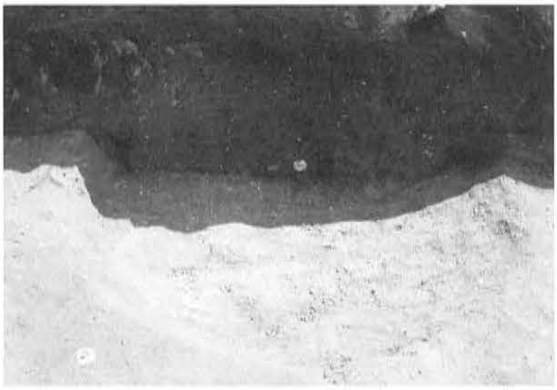


D－31号土坑

D－32号土坑



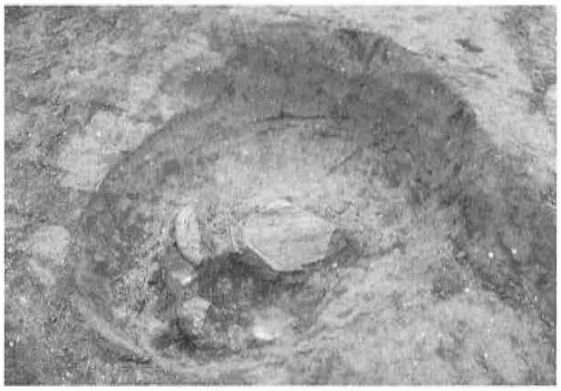
D－34号土坑



D－35号土坑

D－38号土坑

D－39号土坑



D－45号土坑

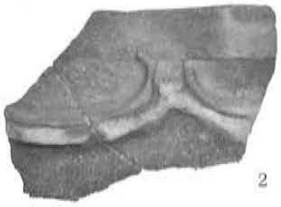
M－1・M－2号溝

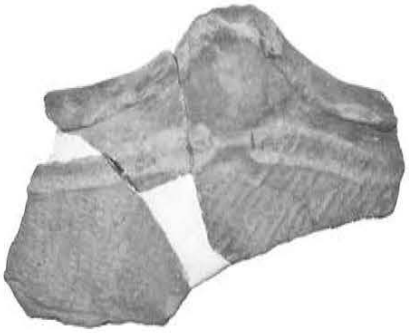
M－1・M－2号溝　土層断面

図版8

J－1号住

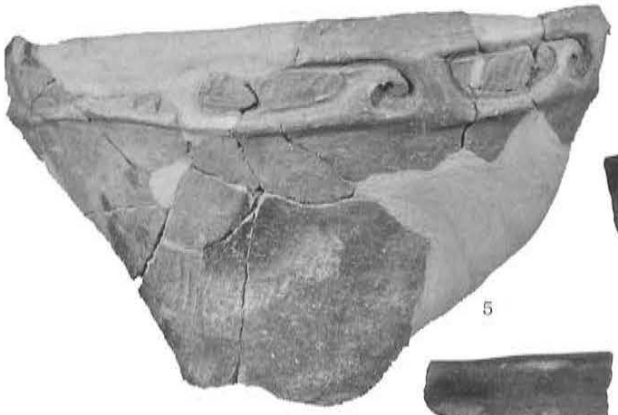
1


2


3

J－2号住

4


5

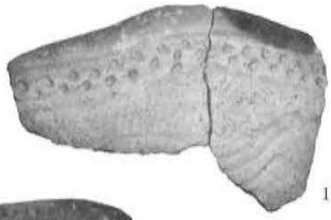
6

7

8

9

10


11

12

12

14

15

16

17

18

19

J－3号住

20

21

22

23

J－3号住

24

25

26

27

J－4号住

28

29

31

32

30

J－5号住

33

35

34

36

37

38

J－6号住

39

40

43

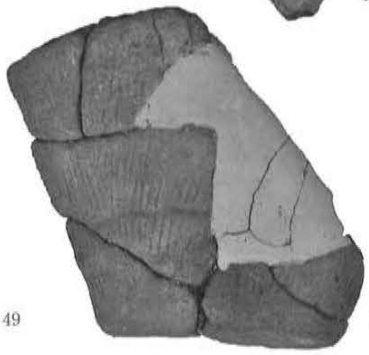
45

47

48

41

46


50

42

44

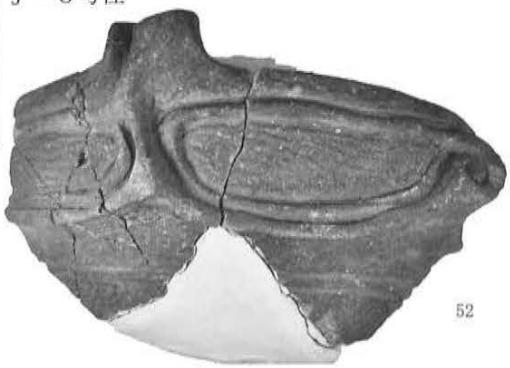
49

図版10

J－7号住

51

J－8号住

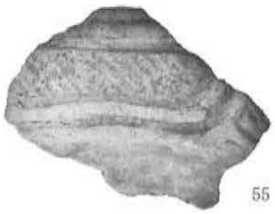


52

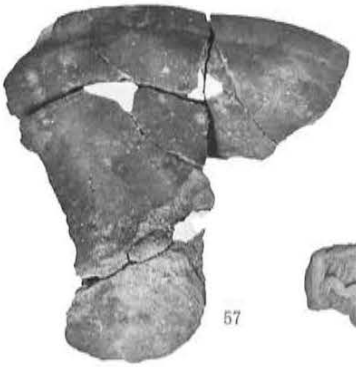
56

53

54



55



57

59

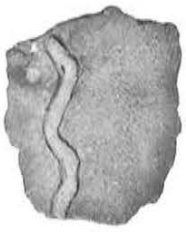
61

58

U－1

64

60

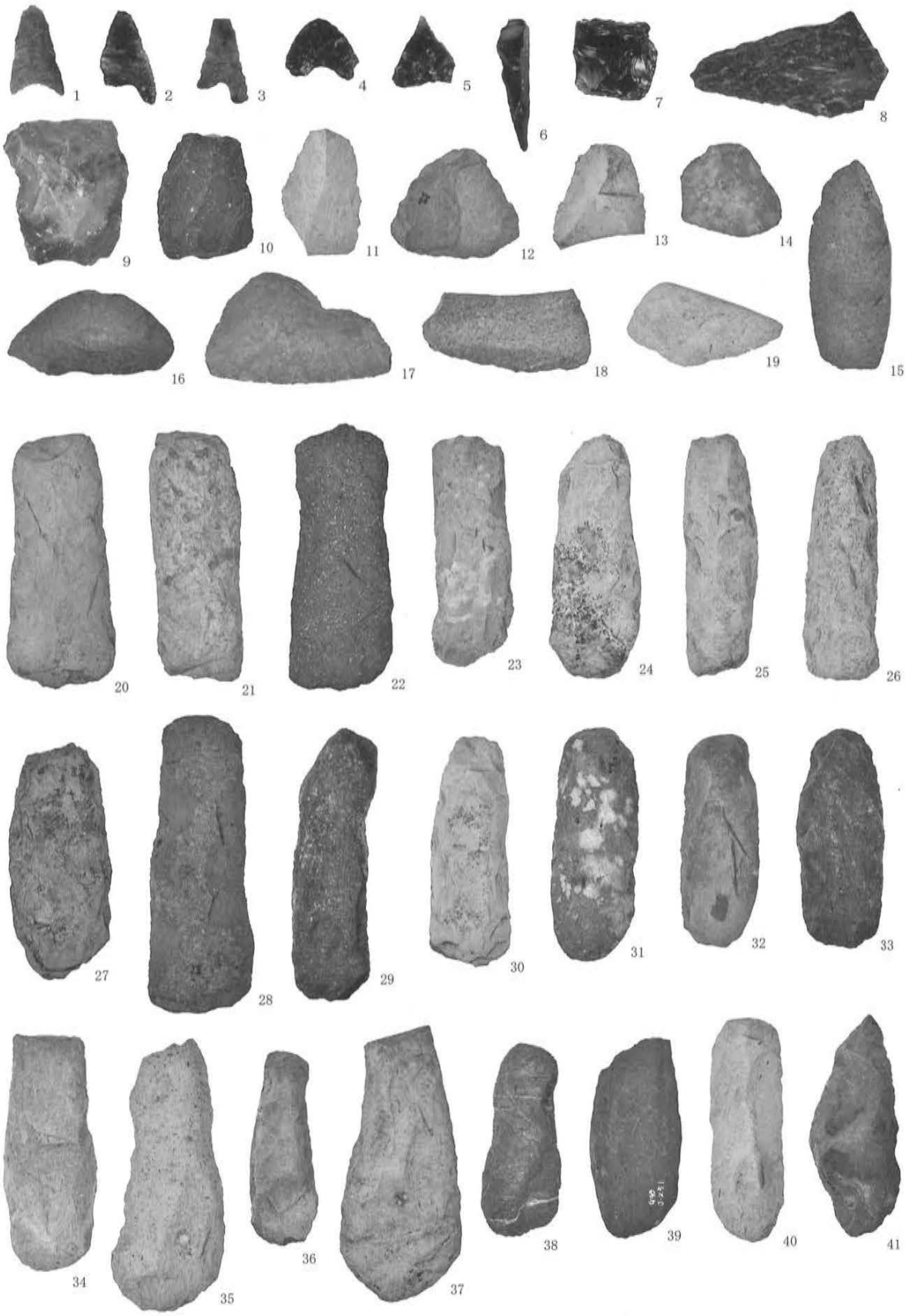


62

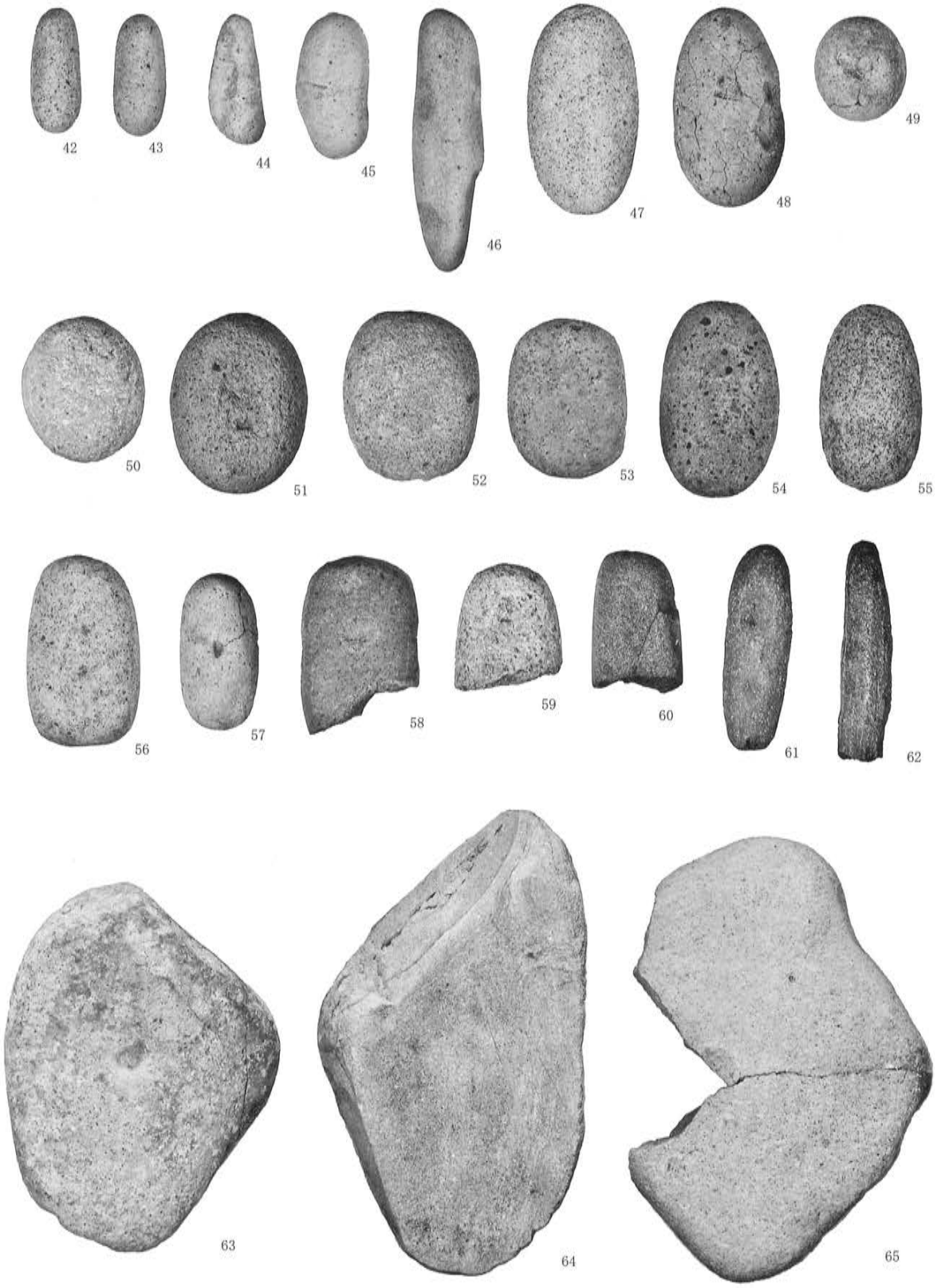
63

65
66
68
72
67
69
70
71
74
76
82
78
80
73
77
81
75
79
赤色塗彩のある土器
83
84
86
85
88
87
89

図版12

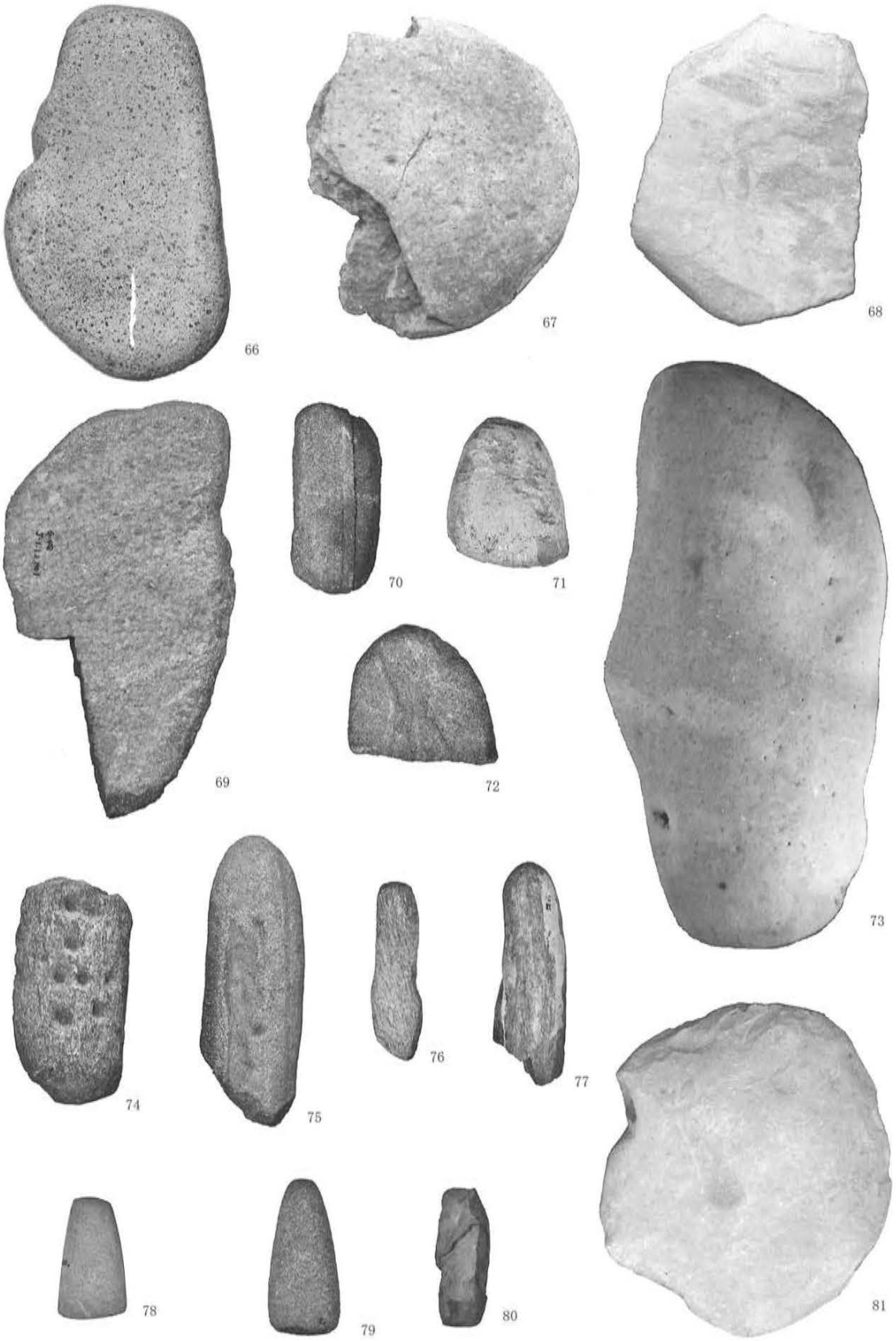


石鏃・石錐・楔形石器・スクレイパー・打製石斧



磨石・球石・凹石・石皿

図版14



石皿・砥石・台石・多孔石・棒状礫・磨製石斧・原石

発掘調査報告書　抄録

ふりがな	にしはらいせき
書名	西原遺跡
副書名	小規模土地改良事業（西原地区農道整備工事）伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	井上慎也
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379-0292　群馬県安中市松井田町新堀245　　TEL 027-382-1111
発行年	西暦2010年（平成22年）11月30日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西原遺跡（にしはらいせき）	安中市上間仁田（あんなかしかみまにた） 字西原（あざにしはら）・日影（ひかげ）	102113	G－48	36°17′31″	138°53′02″	20100715 ～ 20100907	470㎡	農道建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西原遺跡	集落	縄文前期前半 中期後半 古代以降	住居址１ 住居址９ 土坑 埋設土器３ 溝２ 土坑	縄文土器（深鉢、浅鉢）、石器（石鏃、打製石斧、磨製石斧等）	中期後半の住居址と土坑等で構成される環状集落の一部。
要約	碓氷川右岸の上位段丘に位置する縄文時代前期前半と中期を中心とした集落の一部を調査。中期では、多数の住居址、土坑等の遺構が存在するこの地域の拠点的な環状集落の一部を発見した。出土遺物は、関山Ⅱ式期、勝坂３式期、加曽利Ｅ１～３式期、加曽利Ｅ４式～称名寺１式期の土器、石器が多数出土した。また、土器では、佐久地方を中心に分布する「郷土式」が出土した。石器では、石鏃、打製石斧、スクレイパーを主体とする石器群。 古代では、地割りに沿った区画溝を検出。			

西原遺跡

小規模土地改良事業（西原地区農道整備工事）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　日　　平成22年11月30日

編集・発行　　安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀245

印　　刷　　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67